
彦根市
在宅介護実態調査
報告書

令和5年3月

目次

I	調査概要	1
1.	調査の目的	1
2.	調査期間と調査方法	1
3.	調査対象者及び帳票の配布数と回収数	1
II	調査結果	2
○	在宅介護実態調査	2
1.	在宅限界点の向上のための支援・サービスの提供体制の検討	2
2.	仕事と介護の両立に向けた支援・サービスの提供体制の検討	31
3.	保険外の支援・サービスを中心とした地域資源の整備の検討	55
4.	将来の世帯類型の変化に応じた支援・サービスの提供体制の検討	71
5.	医療ニーズの高い在宅療養者を支える支援・サービスの提供体制の検討	84
6.	サービス未利用の理由など	93
7.	独自設問	109

I 調査概要

1. 調査の目的

【在宅介護実態調査】

要介護者の在宅生活や介護者の就労継続に有効な介護サービスを検討することを目的としている。

2. 調査期間と調査方法

・調査期間

【在宅介護実態調査】：令和4年11月18日から令和4年12月12日まで

・調査方法

【在宅介護実態調査】：郵送による配布・回収

3. 調査対象者及び帳票の配布数と回収数

【在宅介護実態調査】

令和4年8月末日現在、彦根市内に居住する在宅生活の要介護認定者のうち、更新申請・区分変更申請に伴う認定調査を受ける（受けた）者

配布数	回収数	有効回答数	有効回答率
982 件	631 件	618 件	62.9%

※図表タイトルの「★」は、オプション調査項目であることを示しています。

Ⅱ 調査結果

○在宅介護実態調査

(※この調査報告は厚生労働省の配布する自動集計分析ソフトにより作成しています。)

1. 在宅限界点の向上のための支援・サービスの提供体制の検討

1.1 集計・分析の狙い

- ここでは、在宅限界点の向上に向けて必要となる支援・サービスを検討するために、「在宅生活の継続」と「介護者不安の軽減」の2つの視点からの集計を行っています。
- それぞれ、「どのようなサービス利用パターンの場合」に、「在宅生活を継続することができるのか」、もしくは「介護者の不安が軽減されているのか」を分析するために、「サービス利用パターン」とのクロス集計を行っています。
- なお、「サービス利用パターン」は、「サービス利用の組み合わせ」と「サービス利用の回数」の2つからなります。
- また、在宅限界点についての分析を行うという主旨から、多くの集計は要介護3以上、もしくは認知症高齢者の日常生活自立度Ⅲ以上の方に限定して集計をしています。

1.2 集計結果と着目すべきポイント

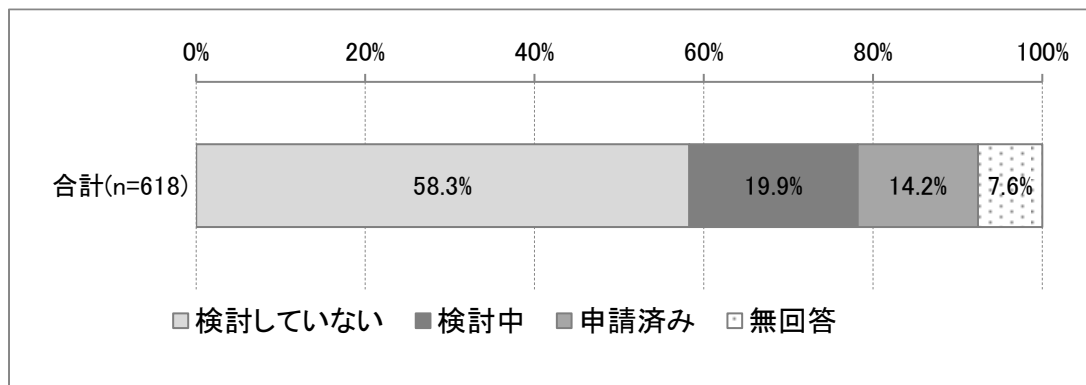
(1) 基礎集計

- 施設等の検討状況に係る、基礎的な集計を行っています（図表 1-1～図表 1-3）。
- 要介護度の重度化に伴う、施設等検討状況の変化や世帯類型ごとの施設等検討状況についてその状況を確認します。

【施設等検討の状況】

「検討していない」の割合が最も高く 58.3%となっている。次いで、「検討中（19.9%）」、「申請済み（14.2%）」となっている。

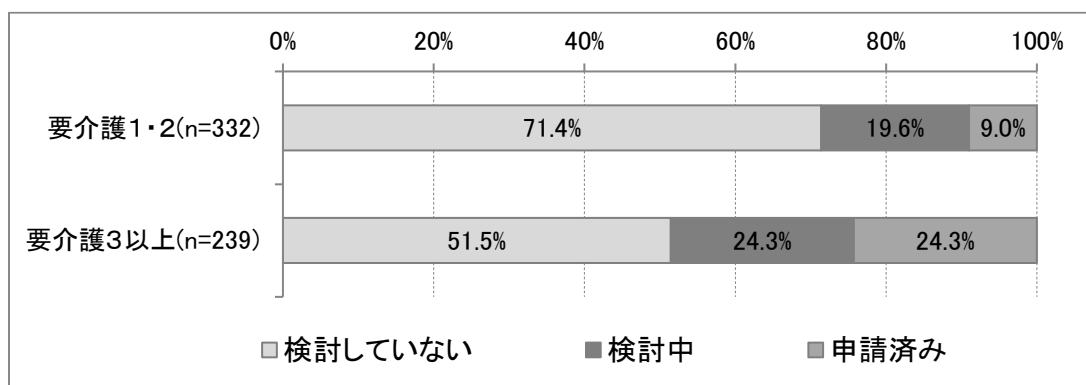
図表 1-1 施設等検討の状況



【要介護度別・施設等検討の状況】

施設等の検討状況を二次判定結果別にみると、「要介護1・2」では「検討していない」が71.4%ともっとも割合が高く、次いで「検討中」が19.6%、「申請済み」が9.0%となっている。「要介護3以上」では「検討していない」が51.5%ともっとも割合が高く、次いで「検討中」、「申請済み」が24.3%となっている。

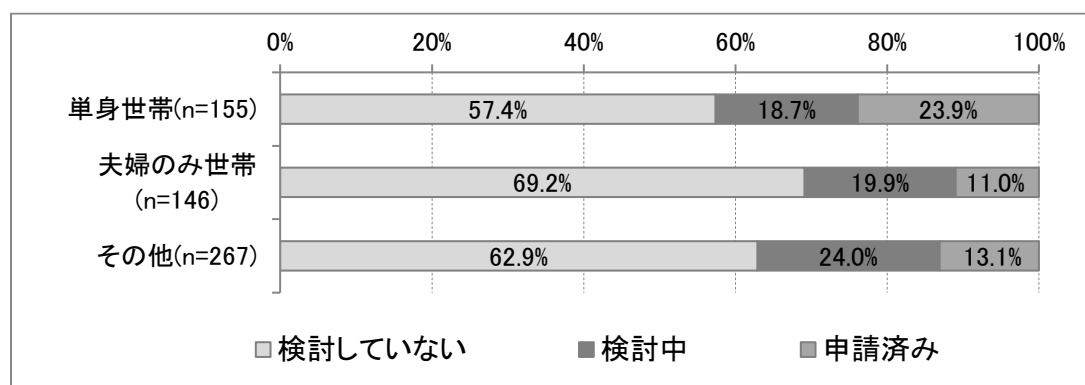
図表 1-2 要介護度別・施設等検討の状況<***>



【世帯類型別・施設等検討の状況】

施設等の検討状況を世帯類型別にみると、「単身世帯」では「検討していない」が57.4%ともっとも割合が高く、次いで「申請済み」が23.9%、「検討中」が18.7%となっている。「夫婦のみ世帯」では「検討していない」が69.2%ともっとも割合が高く、次いで「検討中」が19.9%、「申請済み」が11.0%となっている。「その他」では「検討していない」が62.9%ともっとも割合が高く、次いで「検討中」が24.0%、「申請済み」が13.1%となっている。

図表 1-3 世帯類型別・施設等検討の状況<*>



(2) 要介護度・認知症自立度の重度化に伴う「主な介護者が不安を感じる介護」の変化

【着目すべきポイント】

- 要介護度と認知症自立度の重度化に伴う「主な介護者が不安を感じる介護」の変化について、集計分析をしています（図表 1-4、図表 1-5）。
- ここでの「主な介護者が不安を感じる介護」とは、「現在の生活を継続していくにあたって、主な介護者が不安を感じる介護等」のことです。なお、ここで選択される介護は、現状で行っている介護であるか否かは問われていません。
- ここから、要介護度・認知症自立度別の、主な介護者が不安を感じる介護等を把握することができます。
- また、主な介護者の不安が相対的に大きな介護や、重度化に伴い主な介護者の不安が大きくなる介護等に注目することで、在宅限界点に大きな影響を与えると考えられる「主な介護者が不安を感じる介護」を推測することも可能になります。

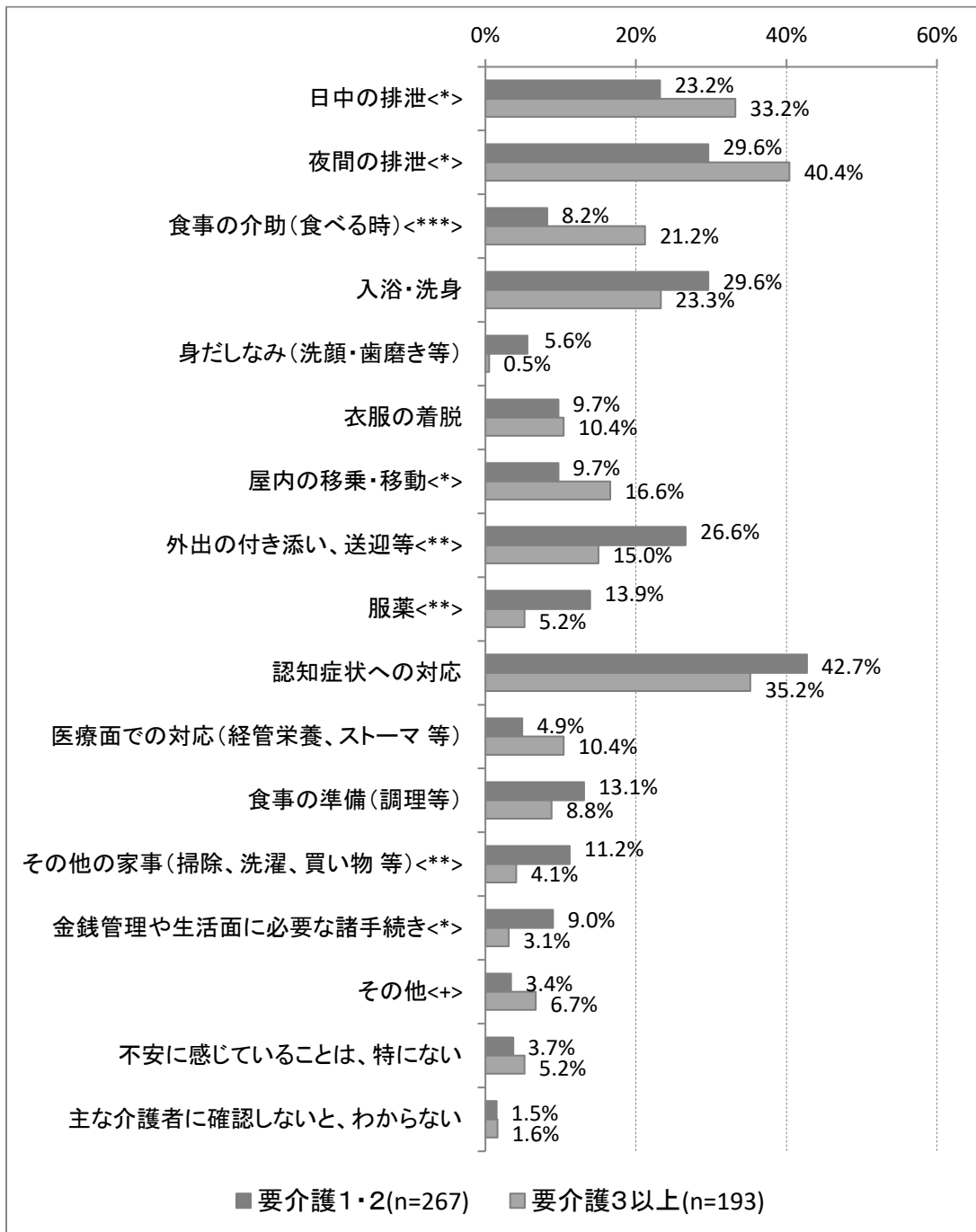
【留意事項】

- なお、「医療面での対応（経管栄養、ストーマ等）」については、特に、実際に行われている割合が低い可能性が高いと考えられます。したがって、仮に選択した回答者が少ない場合でも、実際に医療ニーズのある要介護者を介護しているケースでは、主な介護者の不安は大きいことも考えられます。
- そのような観点から、在宅限界点に与える影響が過小評価される項目もあると考えられることから、注意が必要です。

【要介護度別・介護者が不安に感じる介護】

介護者が不安に感じる介護を二次判定結果別にみると、「要介護1・2」では「認知症状への対応」が42.7%ともっとも割合が高く、次いで「夜間の排泄」、「入浴・洗身」が29.6%、「外出の付き添い、送迎等」が26.6%となっている。「要介護3以上」では「夜間の排泄」が40.4%ともっとも割合が高く、次いで「認知症状への対応」が35.2%、「日中の排泄」が33.2%となっている。

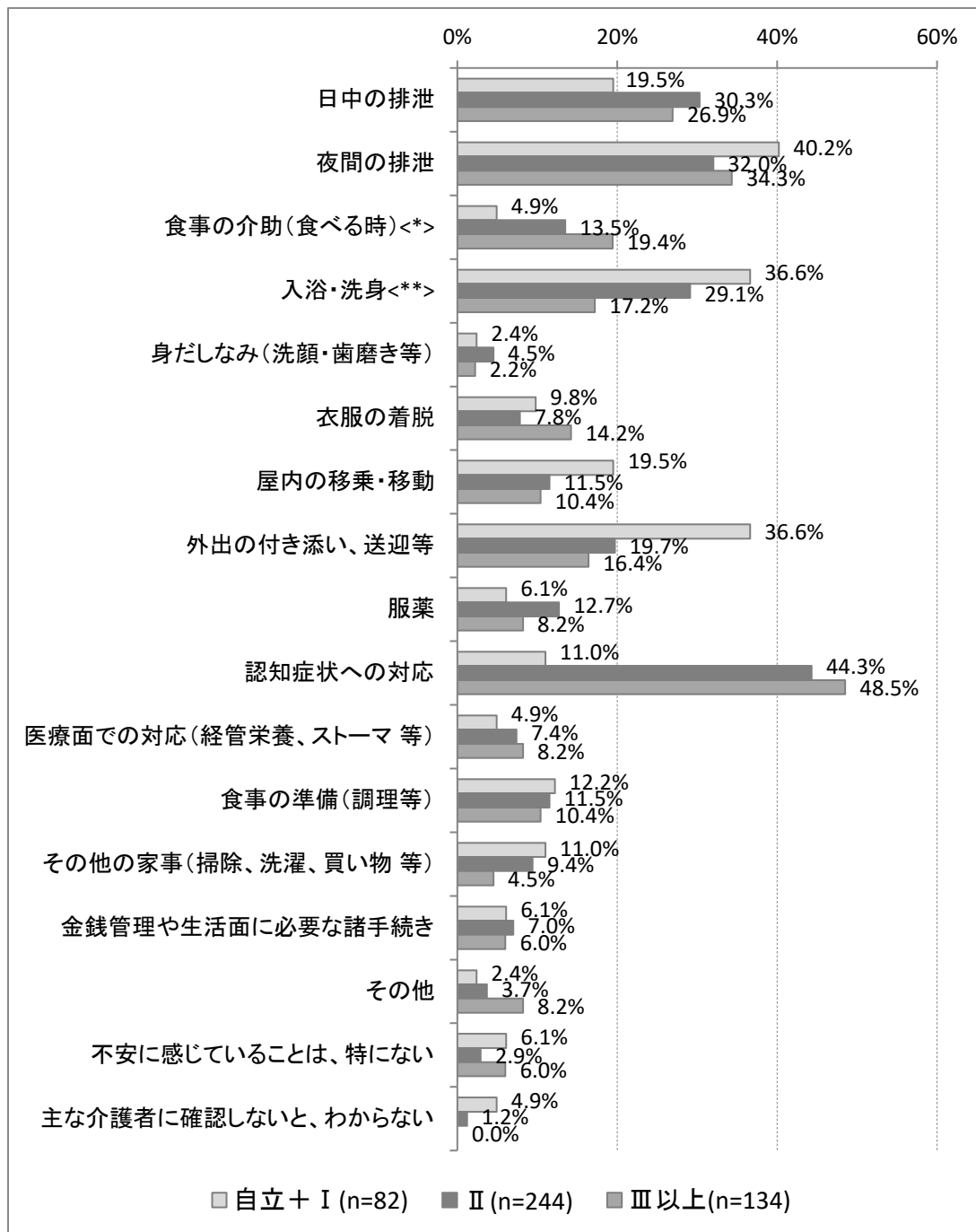
図表 1-4 要介護度別・介護者が不安に感じる介護



【認知症自立度別・介護者が不安に感じる介護】

介護者が不安に感じる介護を認知症高齢者自立度別にみると、「自立+Ⅰ」では「夜間の排泄」が40.2%ともっとも割合が高く、次いで「入浴・洗身」、「外出の付き添い、送迎等」が36.6%、「日中の排泄」、「屋内の移乗・移動」が19.5%となっている。「Ⅱ」では「認知症状への対応」が44.3%ともっとも割合が高く、次いで「夜間の排泄」が32.0%、「日中の排泄」が30.3%となっている。「Ⅲ以上」では「認知症状への対応」が48.5%ともっとも割合が高く、次いで「夜間の排泄」が34.3%、「日中の排泄」が26.9%となっている。

図表 1-5 認知症自立度別・介護者が不安に感じる介護



(3) 要介護度・認知症自立度の重度化に伴う「サービス利用の組み合わせ」の変化

【着目すべきポイント】

- ここでは、要介護度・認知症自立度別の「サービス利用の組み合わせ」について、集計分析をしています（図表 1-6、図表 1-7）。
- 特に、重度化に伴い、どのようなサービス利用の組み合わせが増加しているかに着目することで、現在在宅で生活をする中重度の要介護者が、どのような組み合わせのサービス利用を増加させることで在宅生活を維持しているかを把握することができます。
- さらに、例えば今後の中重度の要介護者の増加に伴い、どのような「サービス利用の組み合わせ」のニーズが大きくなると考えられるかを推測することも可能になります。

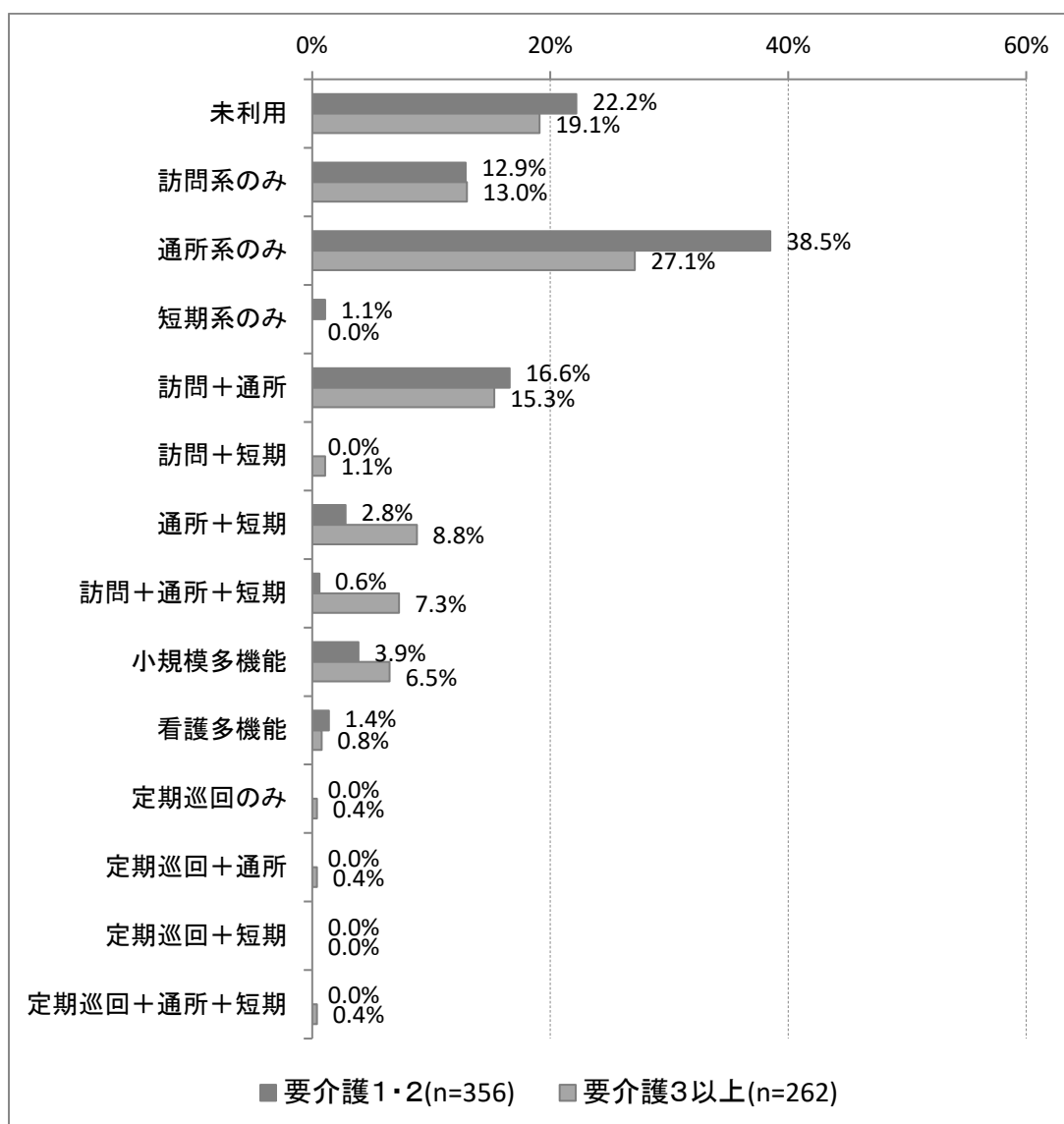
【留意事項】

- ただし、現在利用しているサービスが「地域目標を達成するためのサービス」であるとは限らない点には注意が必要です。

【要介護度別・サービス利用の組み合わせ】

サービス利用の組み合わせを二次判定結果別にみると、「要介護1・2」では「通所系のみ」が38.5%と最も割合が高く、次いで「未利用」が22.2%、「訪問+通所」が16.6%となっている。「要介護3以上」では「通所系のみ」が27.1%と最も割合が高く、次いで「未利用」が19.1%、「訪問+通所」が15.3%となっている。

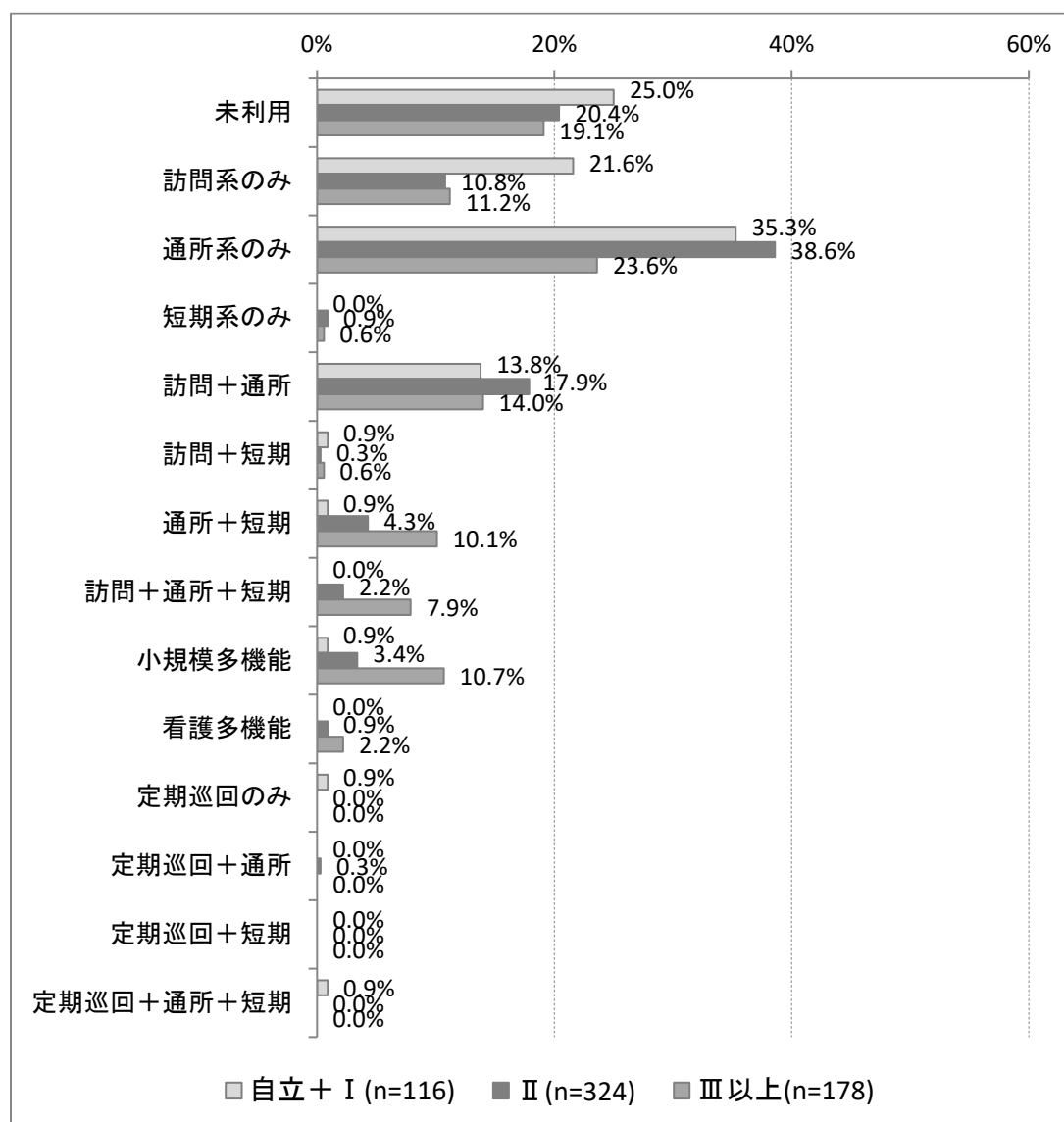
図表 1-6 要介護度別・サービス利用の組み合わせ<***>



認知症自立度別・サービス利用の組み合わせ】

サービス利用の組み合わせを認知症高齢者自立度別にみると、「自立+Ⅰ」では「通所系のみ」が35.3%ともっとも割合が高く、次いで「未利用」が25.0%、「訪問系のみ」が21.6%となっている。「Ⅱ」では「通所系のみ」が38.6%ともっとも割合が高く、次いで「未利用」が20.4%、「訪問+通所」が17.9%となっている。「Ⅲ以上」では「通所系のみ」が23.6%ともっとも割合が高く、次いで「未利用」が19.1%、「訪問+通所」が14.0%となっている。

図表 1-7 認知症自立度別・サービス利用の組み合わせ<***>



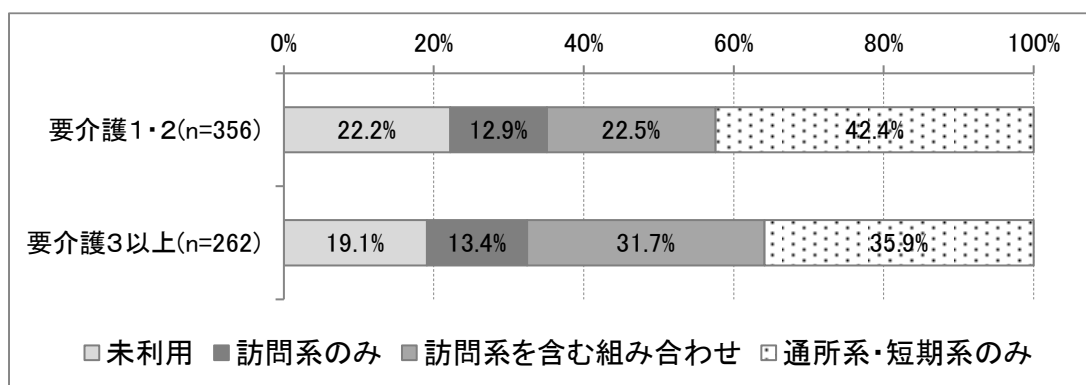
【着目すべきポイント】

- ここでは、要介護度・認知症自立度別の「サービス利用の組み合わせ」について、組み合わせのパターンを簡略化した集計分析をしています（図表 1-8、図表 1-9）。
- 具体的には、サービス利用の組み合わせを、「訪問系のみ」のサービス利用と、レスパイト機能をもつ「通所系」および「短期系」のみのサービス利用、さらにその2つを組み合わせた「訪問系を含むサービス利用」の3種類（未利用除く）に分類したものです。
- 組み合わせのパターンが細分化された集計分析（図表 1-6、図表 1-7）と比較して、上記のような視点から、重度化に伴う「サービス利用の組み合わせ」の変化の傾向等を分かりやすく示すことを目的としたものです。
- 前掲の集計分析（図表 1-6、図表 1-7）と同様に、重度化に伴い、どのようなサービス利用の組み合わせが増加しているかに着目することで、現在在宅で生活をする中重度の要介護者が、どのような組み合わせのサービス利用を増加させることで在宅生活を維持しているかを把握することができます。
- また、中重度の要介護者の増加に伴い、どのような「サービス利用の組み合わせ」のニーズが大きくなると考えられるかを推測することも可能になります。

【要介護度別・サービス利用の組み合わせ】

サービス利用の組み合わせを二次判定結果別にみると、「要介護1・2」では「通所系・短期系のみ」が42.4%ともっとも割合が高く、次いで「訪問系を含む組み合わせ」が22.5%、「未利用」が22.2%となっている。「要介護3以上」では「通所系・短期系のみ」が35.9%ともっとも割合が高く、次いで「訪問系を含む組み合わせ」が31.7%、「未利用」が19.1%となっている。

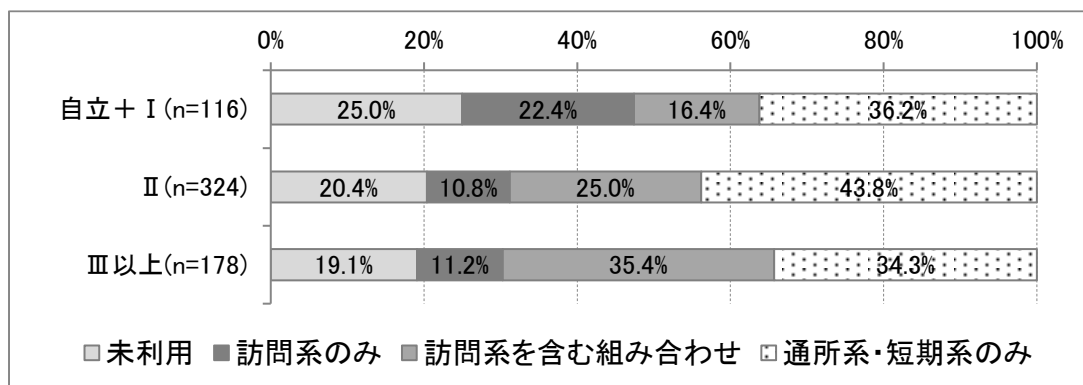
図表 1-8 要介護度別・サービス利用の組み合わせ<+>



【認知症自立度別・サービス利用の組み合わせ】

サービス利用の組み合わせを認知症高齢者自立度別にみると、「自立+Ⅰ」では「通所系・短期系のみ」が36.2%ともっとも割合が高く、次いで「未利用」が25.0%、「訪問系のみ」が22.4%となっている。「Ⅱ」では「通所系・短期系のみ」が43.8%ともっとも割合が高く、次いで「訪問系を含む組み合わせ」が25.0%、「未利用」が20.4%となっている。「Ⅲ以上」では「訪問系を含む組み合わせ」が35.4%ともっとも割合が高く、次いで「通所系・短期系のみ」が34.3%、「未利用」が19.1%となっている。

図表 1-9 認知症自立度別・サービス利用の組み合わせ<***>



(4) 「サービス利用の組み合わせ」と「施設等検討の状況」の関係

【着目すべきポイント】

- ここでは、「サービス利用の組み合わせ」と「施設等検討の状況」の関係について、集計分析をしています。それぞれ、要介護3以上と要介護4以上、認知症自立度Ⅲ以上に分けて集計分析を行っています。
- 「施設等検討の状況」について「入所・入居は検討していない」の割合を高めることは、在宅介護実態調査で想定する「アウトカム」の1つです。
- ここでは「サービス利用の組み合わせ」との関係を集計分析することで、地域目標を達成するためのサービス整備方針の検討につなげることを想定しています。
- 図表 1-10～図表 1-12 は、「サービス利用の組み合わせ」別に「施設等検討の状況」の割合を集計分析したもので、特に「サービス利用の組み合わせ」ごとの「施設等検討の状況」の比較が容易です。
- また、図表 1-13～図表 1-15 は、表側と表頭を逆にして集計したもので、「施設等検討の状況」別の「サービス利用の組み合わせ」をみることができます。これにより、例えば施設等への入所・入居を「検討していない」ケースのような「適切な在宅生活の継続を実現している」と考えられる要介護者について、実際に「どのような組み合わせのサービスを利用しているか」を把握することができます。
- したがって、例えば「検討中」や「申請済み」と比較して、「検討していない」ケースで多くみられるような「サービス利用の組み合わせ」を推進するような支援・サービスの整備を進めていくことで、在宅限界点の向上につながるなどが期待されます。

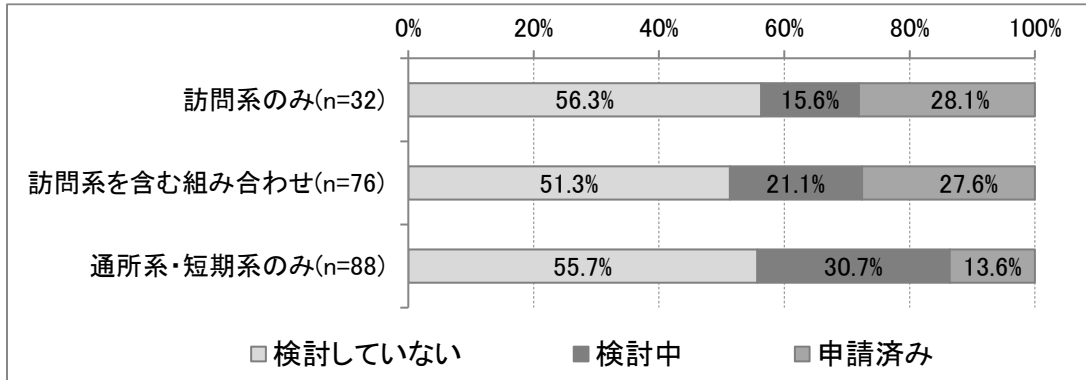
【留意事項】

- ただし、このような「サービス利用の組み合わせ」については、ケアマネジメントに直結する内容でもあることから、ここでの集計分析結果やその解釈については、ケアマネジャー等を含む専門職との議論を交えながら、地域ごとにその効果等についての考察を深めていくことが重要となります。
- 例えば、「□□のサービスを利用しているケースでは、「検討していない」の割合が高い」といった傾向がみられたとしても、「何故、□□のサービスを利用しているケースでは、「検討していない」の割合が高いのか」といった解釈には、地域の特性や専門職の知見等を踏まえた個別の議論を行うことが必要になります。

【サービス利用の組み合わせと施設等検討の状況(要介護3以上)】

施設等の検討状況をサービス利用の組み合わせ別にみると、「訪問系のみ」では「検討していない」が56.3%ともっとも割合が高く、次いで「申請済み」が28.1%、「検討中」が15.6%となっている。「訪問系を含む組み合わせ」では「検討していない」が51.3%ともっとも割合が高く、次いで「申請済み」が27.6%、「検討中」が21.1%となっている。「通所系・短期系のみ」では「検討していない」が55.7%ともっとも割合が高く、次いで「検討中」が30.7%、「申請済み」が13.6%となっている。

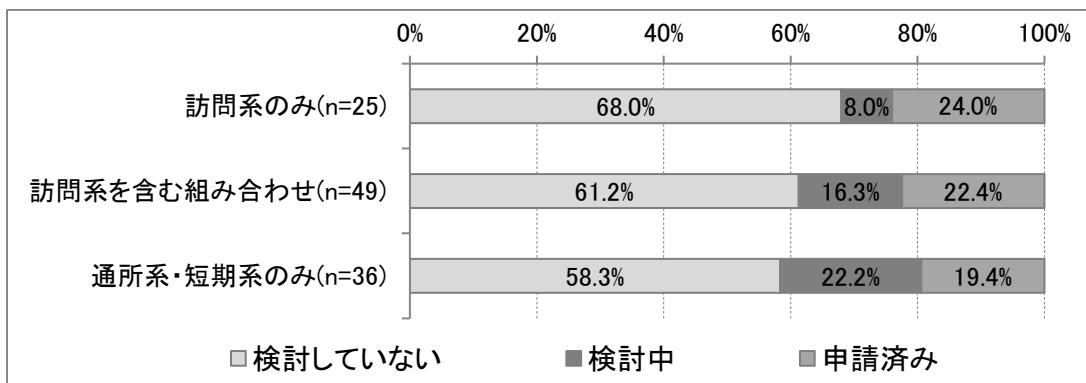
図表 1-10 サービス利用の組み合わせと施設等検討の状況（要介護3以上）



【サービス利用の組み合わせと施設等検討の状況(要介護4以上)】

施設等の検討状況をサービス利用の組み合わせ別にみると、「訪問系のみ」では「検討していない」が68.0%ともっとも割合が高く、次いで「申請済み」が24.0%、「検討中」が8.0%となっている。「訪問系を含む組み合わせ」では「検討していない」が61.2%ともっとも割合が高く、次いで「申請済み」が22.4%、「検討中」が16.3%となっている。「通所系・短期系のみ」では「検討していない」が58.3%ともっとも割合が高く、次いで「検討中」が22.2%、「申請済み」が19.4%となっている。

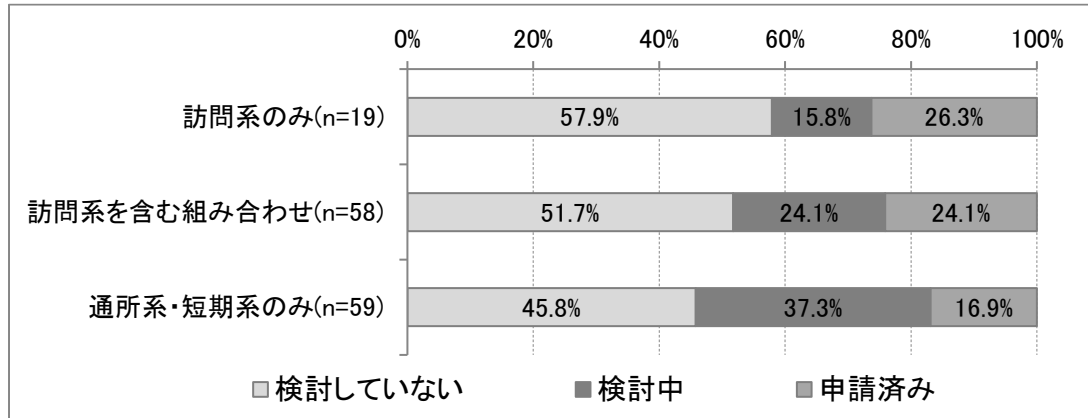
図表 1-11 サービス利用の組み合わせと施設等検討の状況（要介護4以上）



【サービス利用の組み合わせと施設等検討の状況(認知症Ⅲ以上)】

施設等の検討状況をサービス利用の組み合わせ別にみると、「訪問系のみ」では「検討していない」が57.9%ともっとも割合が高く、次いで「申請済み」が26.3%、「検討中」が15.8%となっている。「訪問系を含む組み合わせ」では「検討していない」が51.7%ともっとも割合が高く、次いで「検討中」、「申請済み」が24.1%となっている。「通所系・短期系のみ」では「検討していない」が45.8%ともっとも割合が高く、次いで「検討中」が37.3%、「申請済み」が16.9%となっている。

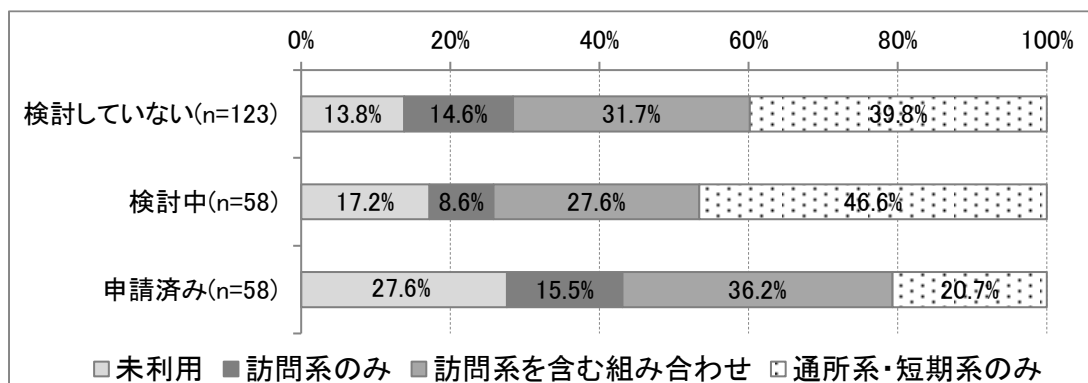
図表 1-12 サービス利用の組み合わせと施設等検討の状況 (認知症Ⅲ以上)



【サービス利用の組み合わせと施設等検討の状況(要介護3以上)】

サービス利用の組み合わせを施設等の検討状況別にみると、「検討していない」では「通所系・短期系のみ」が39.8%ともっとも割合が高く、次いで「訪問系を含む組み合わせ」が31.7%、「訪問系のみ」が14.6%となっている。「検討中」では「通所系・短期系のみ」が46.6%ともっとも割合が高く、次いで「訪問系を含む組み合わせ」が27.6%、「未利用」が17.2%となっている。「申請済み」では「訪問系を含む組み合わせ」が36.2%ともっとも割合が高く、次いで「未利用」が27.6%、「通所系・短期系のみ」が20.7%となっている。

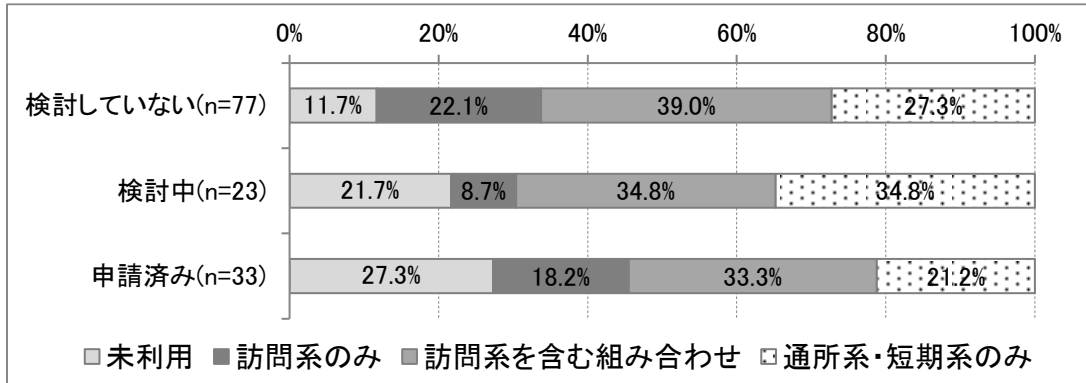
図表 1-13 サービス利用の組み合わせと施設等検討の状況 (要介護3以上) <+>



【サービス利用の組み合わせと施設等検討の状況(要介護4以上)】

サービス利用の組み合わせを施設等の検討状況別にみると、「検討していない」では「訪問系を含む組み合わせ」が39.0%ともっとも割合が高く、次いで「通所系・短期系のみ」が27.3%、「訪問系のみ」が22.1%となっている。「検討中」では「訪問系を含む組み合わせ」、「通所系・短期系のみ」が34.8%ともっとも割合が高く、次いで「未利用」が21.7%、「訪問系のみ」が8.7%となっている。「申請済み」では「訪問系を含む組み合わせ」が33.3%ともっとも割合が高く、次いで「未利用」が27.3%、「通所系・短期系のみ」が21.2%となっている。

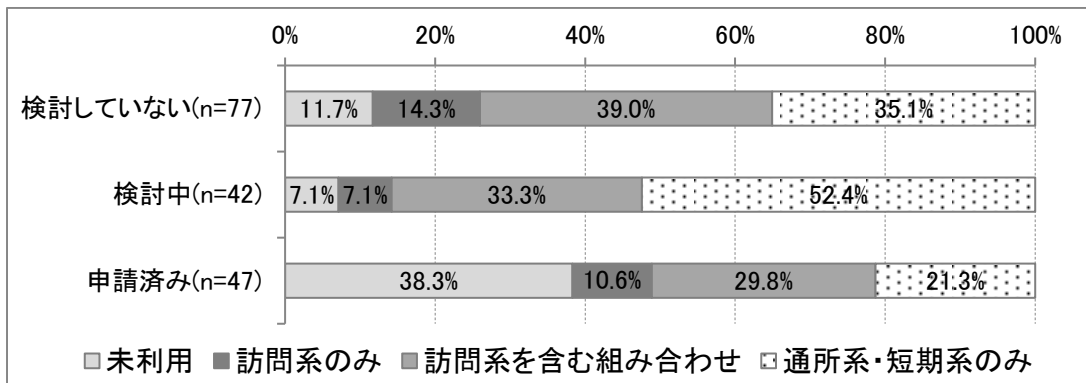
図表 1-14 サービス利用の組み合わせと施設等検討の状況（要介護4以上）



【サービス利用の組み合わせと施設等検討の状況(認知症Ⅲ以上)】

サービス利用の組み合わせを施設等の検討状況別にみると、「検討していない」では「訪問系を含む組み合わせ」が39.0%ともっとも割合が高く、次いで「通所系・短期系のみ」が35.1%、「訪問系のみ」が14.3%となっている。「検討中」では「通所系・短期系のみ」が52.4%ともっとも割合が高く、次いで「訪問系を含む組み合わせ」が33.3%、「未利用」、「訪問系のみ」が7.1%となっている。「申請済み」では「未利用」が38.3%ともっとも割合が高く、次いで「訪問系を含む組み合わせ」が29.8%、「通所系・短期系のみ」が21.3%となっている。

図表 1-15 サービス利用の組み合わせと施設等検討の状況（認知症Ⅲ以上）<***>



(5) 「サービス利用の組み合わせ」と「主な介護者が不安を感じる介護」の関係

【着目すべきポイント】

- ここでは、「サービス利用の組み合わせ」と「主な介護者が不安を感じる介護」の関係について、集計分析をしています（図表 1-16、図表 1-17）。それぞれ、要介護 3 以上と認知症自立度Ⅲ以上に分けて集計分析を行っています。
- 「在宅生活の継続に向けてポイントとなる介護（主な介護者の不安が大きな介護 等）」について、「主な介護者が不安を感じる」割合を下げることは、在宅介護実態調査で想定する「アウトカム」の 1 つです。
- ここでは「サービス利用の組み合わせ」との関係を集計分析することで、地域目標を達成するためのサービス整備方針の検討につなげることを想定しています。
- したがって、「主な介護者の不安」が比較的小さくなるような「サービス利用の組み合わせ」を推進するようなサービス整備を進めていくことで、在宅限界点の向上につながるなどが期待されます。

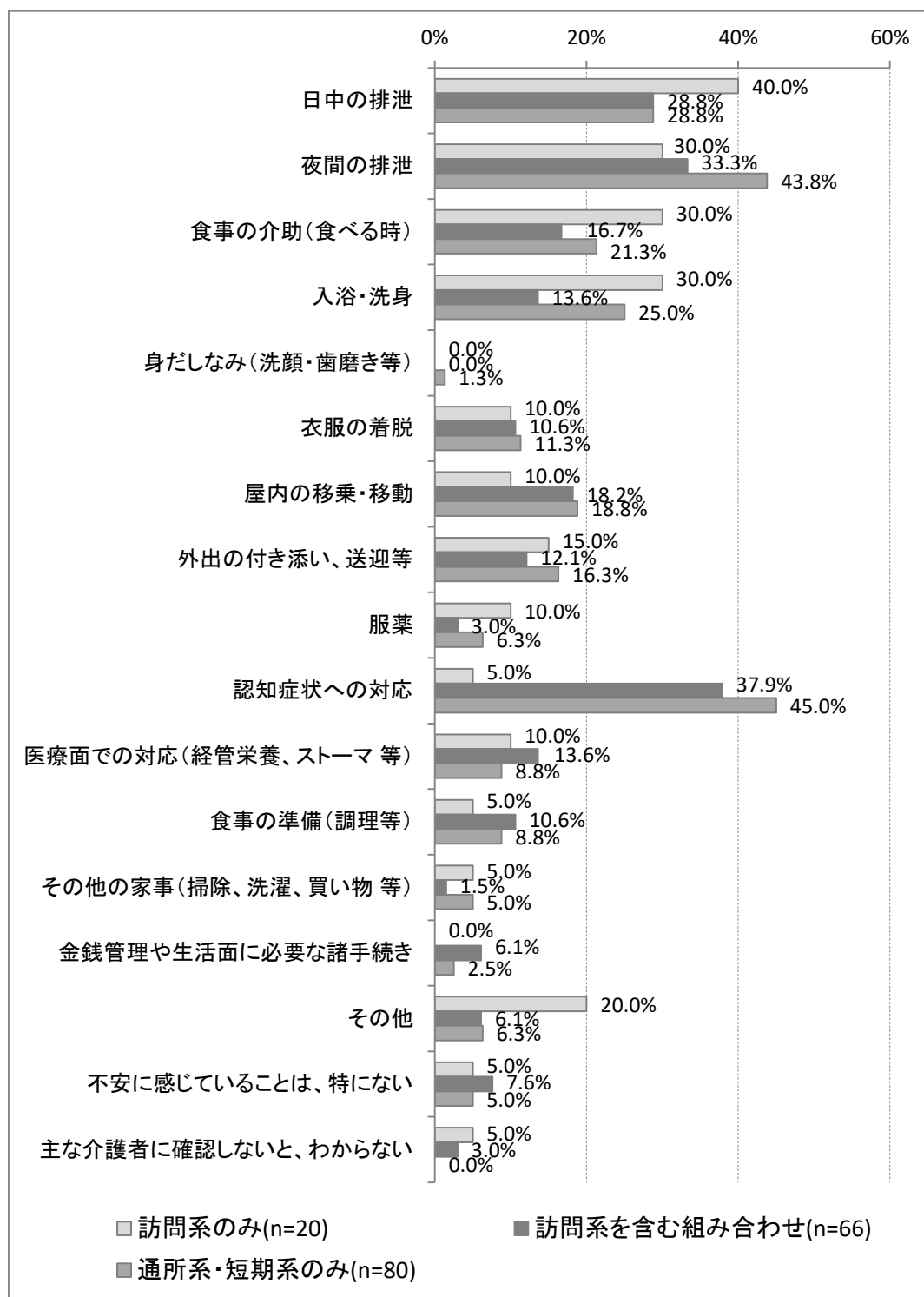
【留意事項】

- ただし、このような「サービス利用の組み合わせ」については、ケアマネジメントに直結する内容でもあることから、ここでの集計分析結果やその解釈については、ケアマネジャー等を含む専門職との議論・考察を交えながら、地域ごとにその効果等についての議論を深めていくことが重要となります。
- 例えば、「□□のサービスを利用しているケースでは、〇〇の介護について「主な介護者が不安を感じる」割合が低い」といった傾向がみられたとしても、「何故、□□のサービスを利用しているケースでは、〇〇の介護について「主な介護者が不安を感じる」割合が低いのか」といった解釈には、地域の特性や専門職の知見等を踏まえた個別の議論を行うことが必要になります。

【サービス利用の組み合わせ別・介護者が不安を感じる介護(要介護3以上)】

介護者が不安を感じる介護をサービス利用の組み合わせ別にみると、「訪問系のみ」では「日中の排泄」が40.0%ともっとも割合が高く、次いで「夜間の排泄」、「食事の介助(食べる時)」、「入浴・洗身」が30.0%となっている。「訪問系を含む組み合わせ」では「認知症状への対応」が37.9%ともっとも割合が高く、次いで「夜間の排泄」が33.3%、「日中の排泄」が28.8%となっている。「通所系・短期系のみ」では「認知症状への対応」が45.0%ともっとも割合が高く、次いで「夜間の排泄」が43.8%、「日中の排泄」が28.8%となっている。

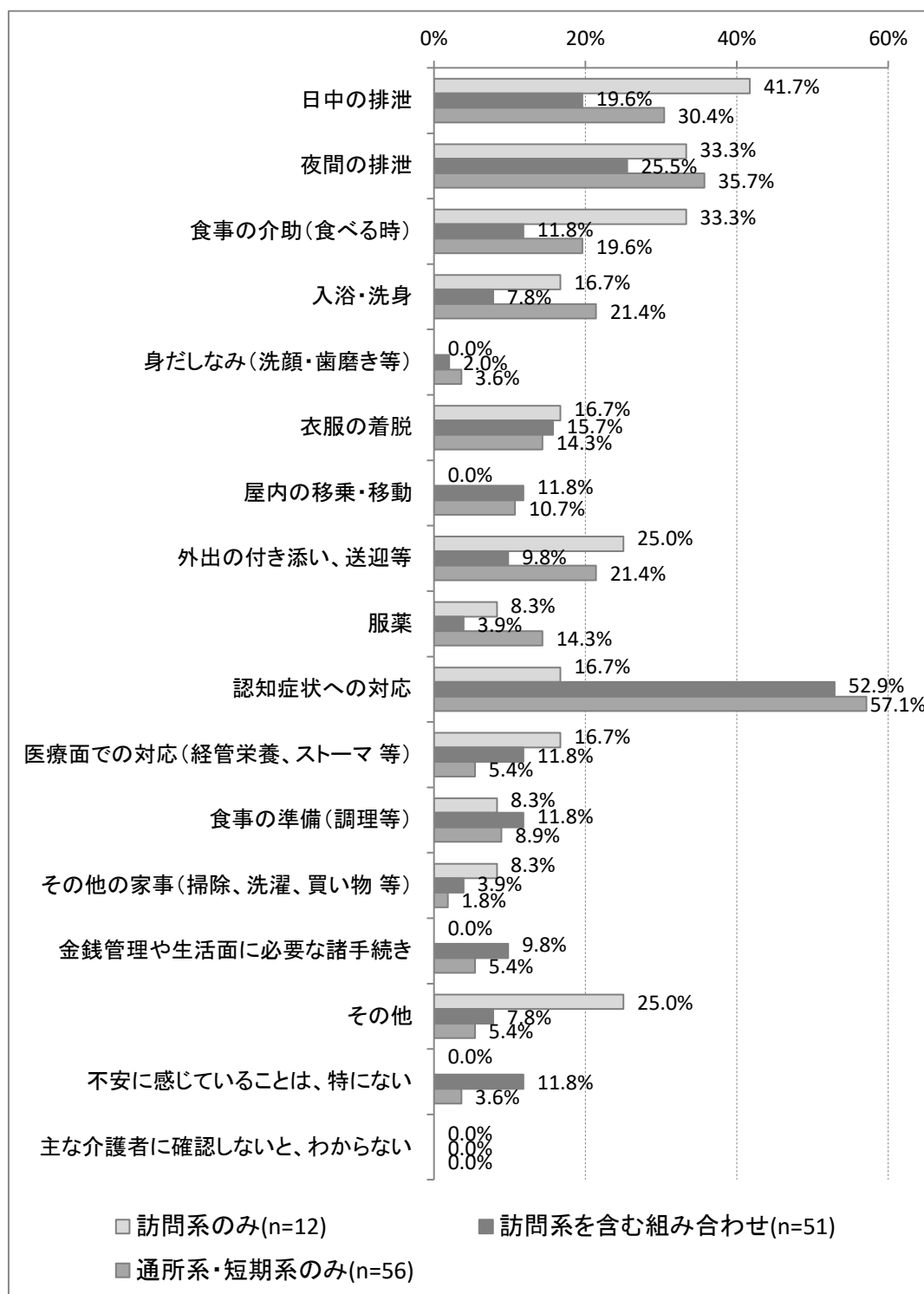
図表 1-16 サービス利用の組み合わせ別・介護者が不安を感じる介護(要介護3以上)



【サービス利用の組み合わせ別・介護者が不安を感じる介護（認知症Ⅲ以上）】

介護者が不安を感じる介護をサービス利用の組み合わせ別にみると、「訪問系のみ」では「日中の排泄」が41.7%ともっとも割合が高く、次いで「夜間の排泄」、「食事の介助（食べる時）」が33.3%、「外出の付き添い、送迎等」、「その他」が25.0%となっている。「訪問系を含む組み合わせ」では「認知症状への対応」が52.9%ともっとも割合が高く、次いで「夜間の排泄」が25.5%、「日中の排泄」が19.6%となっている。「通所系・短期系のみ」では「認知症状への対応」が57.1%ともっとも割合が高く、次いで「夜間の排泄」が35.7%、「日中の排泄」が30.4%となっている。

図表 1-17 サービス利用の組み合わせ別・介護者が不安を感じる介護（認知症Ⅲ以上）



(6) 「サービス利用の回数」と「施設等検討の状況」の関係

【着目すべきポイント】

- (4)では、「サービス利用の組み合わせ」と「施設等検討の状況」の関係を分析しましたが、ここでは「サービス利用の回数」と「施設等検討の状況」について、集計分析を行っています。それぞれ、要介護3以上と認知症自立度Ⅲ以上に分けて集計分析を行っています。
- 「施設等検討の状況」について「入所・入居は検討していない」の割合を高めることは、在宅介護実態調査で想定する「アウトカム」の1つです。
- ここでは「サービス利用の回数」との関係を集計分析することで、地域目標を達成するためのサービス整備方針の検討につなげることなどを想定しています。
- 図表 1-18 と図表 1-19 が訪問系、図表 1-20 と図表 1-21 通所系、図表 1-22 と図表 1-23 が短期系について集計分析した結果です。
- 「サービス利用の回数」の増加に伴い、施設等への入所・入居を「検討していない」割合が高くなるような支援・サービスの整備を進めていくことで、在宅限界点の向上につながるなどが期待されます。

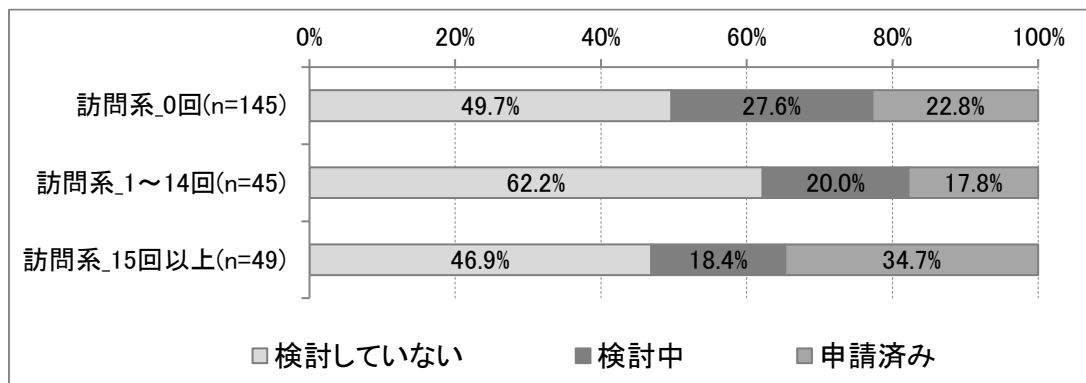
【留意事項】

- (4)の「サービス利用の組み合わせ」と、ここでの「サービス利用の回数」の2つの分析結果を参考に、在宅限界点の向上に資するサービス整備方針の検討につなげていくことが重要です。
- (4)の「サービス利用の組み合わせ」と同様、ケアマネジメントに直結する内容であることから、ここでの集計分析結果やその解釈については、ケアマネジャー等を含む専門職との議論・考察を交えながら、地域ごとにその効果等についての議論を深めていくことが重要となります。

【サービス利用回数と施設等検討の状況(訪問系、要介護3以上)】

施設等の検討状況を訪問系の利用回数別にみると、「訪問系_0回」では「検討していない」が49.7%ともっとも割合が高く、次いで「検討中」が27.6%、「申請済み」が22.8%となっている。「訪問系_1～14回」では「検討していない」が62.2%ともっとも割合が高く、次いで「検討中」が20.0%、「申請済み」が17.8%となっている。「訪問系_15回以上」では「検討していない」が46.9%ともっとも割合が高く、次いで「申請済み」が34.7%、「検討中」が18.4%となっている。

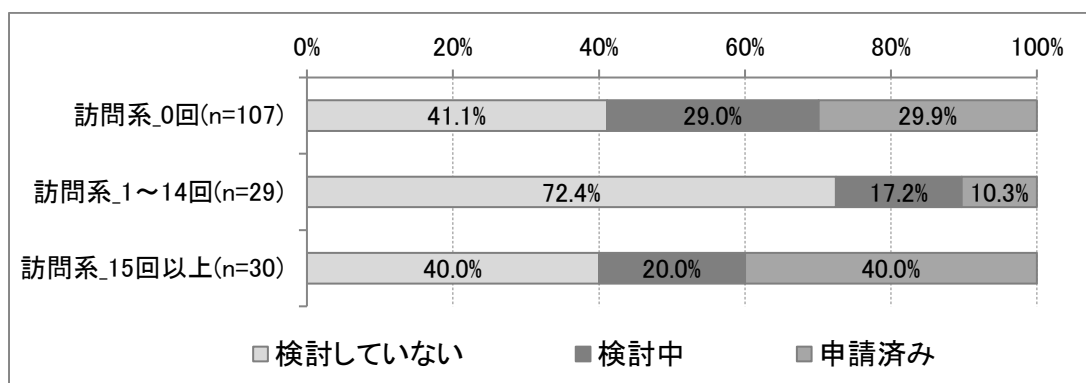
図表 1-18 サービス利用回数と施設等検討の状況 (訪問系、要介護3以上)



【サービス利用回数と施設等検討の状況(訪問系、認知症Ⅲ以上)】

施設等の検討状況を訪問系の利用回数別にみると、「訪問系_0回」では「検討していない」が41.1%ともっとも割合が高く、次いで「申請済み」が29.9%、「検討中」が29.0%となっている。「訪問系_1～14回」では「検討していない」が72.4%ともっとも割合が高く、次いで「検討中」が17.2%、「申請済み」が10.3%となっている。「訪問系_15回以上」では「検討していない」、「申請済み」が40.0%ともっとも割合が高く、次いで「検討中」が20.0%となっている。

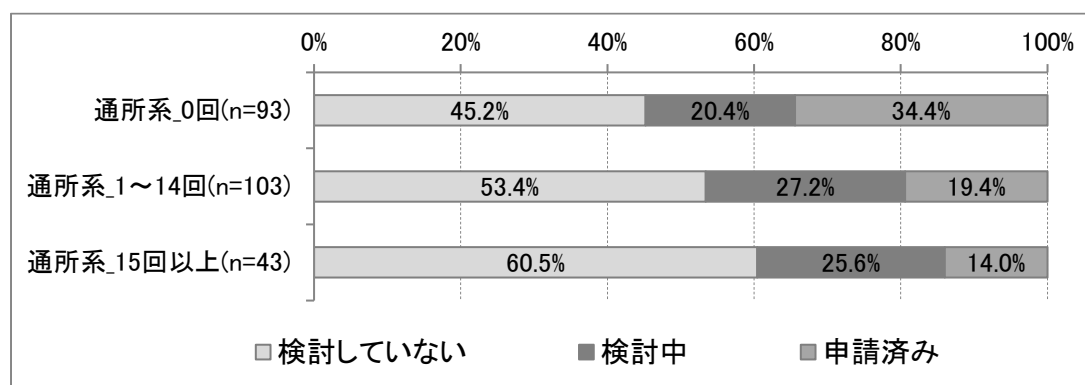
図表 1-19 サービス利用回数と施設等検討の状況 (訪問系、認知症Ⅲ以上) <*>



【サービス利用回数と施設等検討の状況(通所系、要介護3以上)】

施設等の検討状況を通所系の利用回数別にみると、「通所系_0回」では「検討していない」が45.2%ともっとも割合が高く、次いで「申請済み」が34.4%、「検討中」が20.4%となっている。「通所系_1～14回」では「検討していない」が53.4%ともっとも割合が高く、次いで「検討中」が27.2%、「申請済み」が19.4%となっている。「通所系_15回以上」では「検討していない」が60.5%ともっとも割合が高く、次いで「検討中」が25.6%、「申請済み」が14.0%となっている。

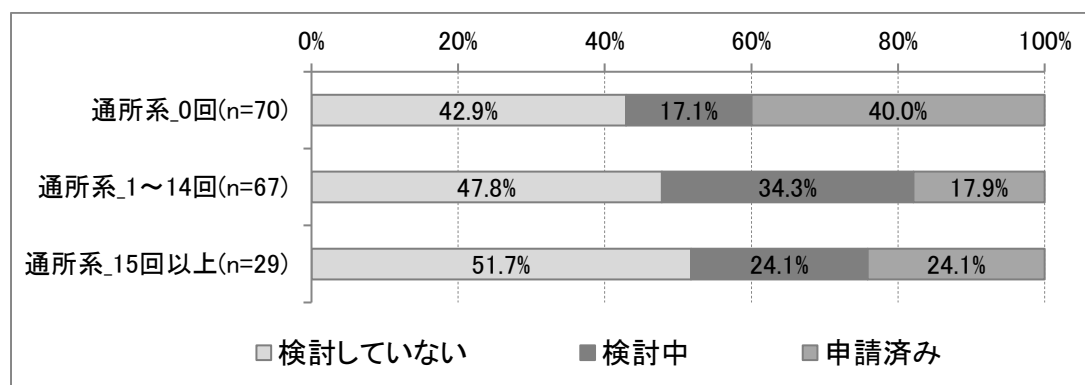
図表 1-20 サービス利用回数と施設等検討の状況（通所系、要介護3以上）<+>



【サービス利用回数と施設等検討の状況(通所系、認知症Ⅲ以上)】

施設等の検討状況を通所系の利用回数別にみると、「通所系_0回」では「検討していない」が42.9%ともっとも割合が高く、次いで「申請済み」が40.0%、「検討中」が17.1%となっている。「通所系_1～14回」では「検討していない」が47.8%ともっとも割合が高く、次いで「検討中」が34.3%、「申請済み」が17.9%となっている。「通所系_15回以上」では「検討していない」が51.7%ともっとも割合が高く、次いで「検討中」、「申請済み」が24.1%となっている。

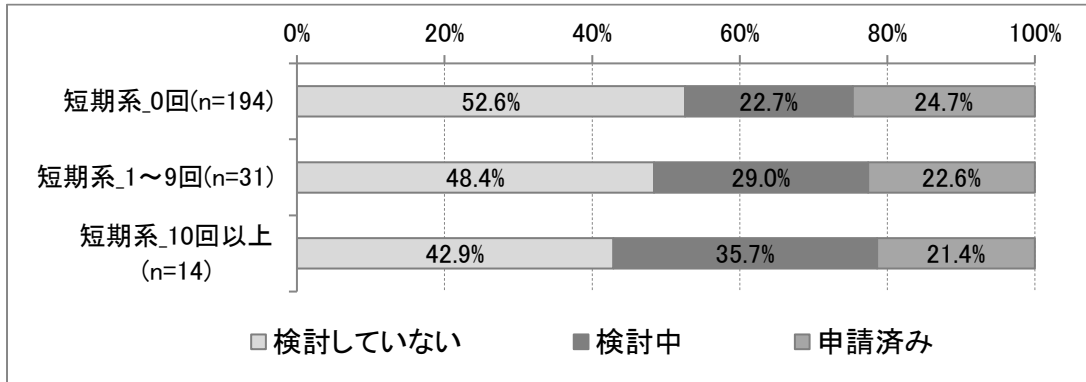
図表 1-21 サービス利用回数と施設等検討の状況（通所系、認知症Ⅲ以上）<*>



【サービス利用回数と施設等検討の状況(短期系、要介護3以上)】

施設等の検討状況を短期系の利用回数別にみると、「短期系_0回」では「検討していない」が52.6%ともっとも割合が高く、次いで「申請済み」が24.7%、「検討中」が22.7%となっている。「短期系_1～9回」では「検討していない」が48.4%ともっとも割合が高く、次いで「検討中」が29.0%、「申請済み」が22.6%となっている。「短期系_10回以上」では「検討していない」が42.9%ともっとも割合が高く、次いで「検討中」が35.7%、「申請済み」が21.4%となっている。

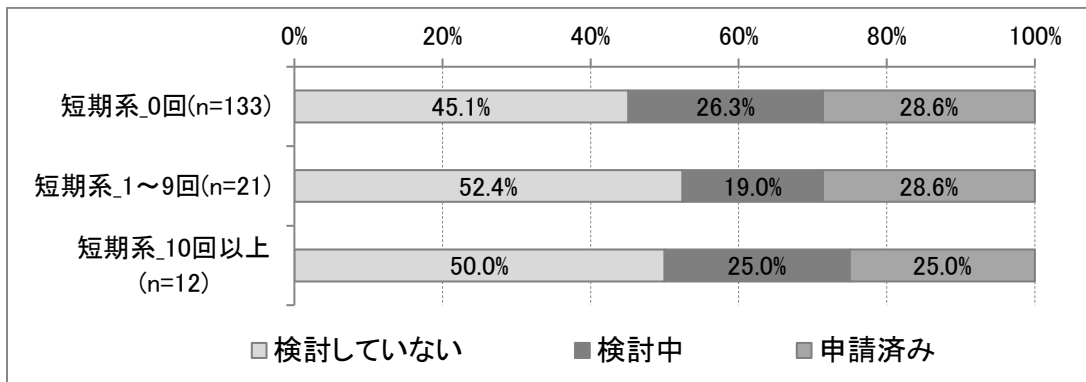
図表 1-22 サービス利用回数と施設等検討の状況 (短期系、要介護3以上)



【サービス利用回数と施設等検討の状況(短期系、認知症Ⅲ以上)】

施設等の検討状況を短期系の利用回数別にみると、「短期系_0回」では「検討していない」が45.1%ともっとも割合が高く、次いで「申請済み」が28.6%、「検討中」が26.3%となっている。「短期系_1～9回」では「検討していない」が52.4%ともっとも割合が高く、次いで「申請済み」が28.6%、「検討中」が19.0%となっている。「短期系_10回以上」では「検討していない」が50.0%ともっとも割合が高く、次いで「検討中」、「申請済み」が25.0%となっている。

図表 1-23 サービス利用回数と施設等検討の状況 (短期系、認知症Ⅲ以上)



(7) 「サービス利用の回数」と「主な介護者が不安に感じる介護」の関係

【着目すべきポイント】

- (5)では、「サービス利用の組み合わせ」と「主な介護者が不安に感じる介護」の関係を分析しましたが、ここでは「サービス利用の回数」と「主な介護者が不安に感じる介護」について、集計分析を行っています。
- 「在宅生活の継続に向けてポイントとなる介護（主な介護者の不安が大きな介護 等）」について、「主な介護者が不安に感じる」割合を下げることは、在宅介護実態調査で想定する「アウトカム」の1つです。
- ここでは「サービス利用の回数」との関係を集計分析することで、地域目標を達成するためのサービス整備方針の検討につなげることなどを想定しています。
- 図表 1-24 と図表 1-25 が訪問系、図表 1-26 と図表 1-27 が通所系、図表 1-28 と図表 1-29 が短期系について集計分析した結果です。それぞれ、要介護3以上と認知症自立度Ⅲ以上に分けて集計分析を行っています。
- 「サービス利用の回数」の増加に伴い、「主な介護者が不安に感じる」割合が低くなるような支援・サービスの整備を進めていくことで、在宅限界点の向上につながるなどが期待されます。

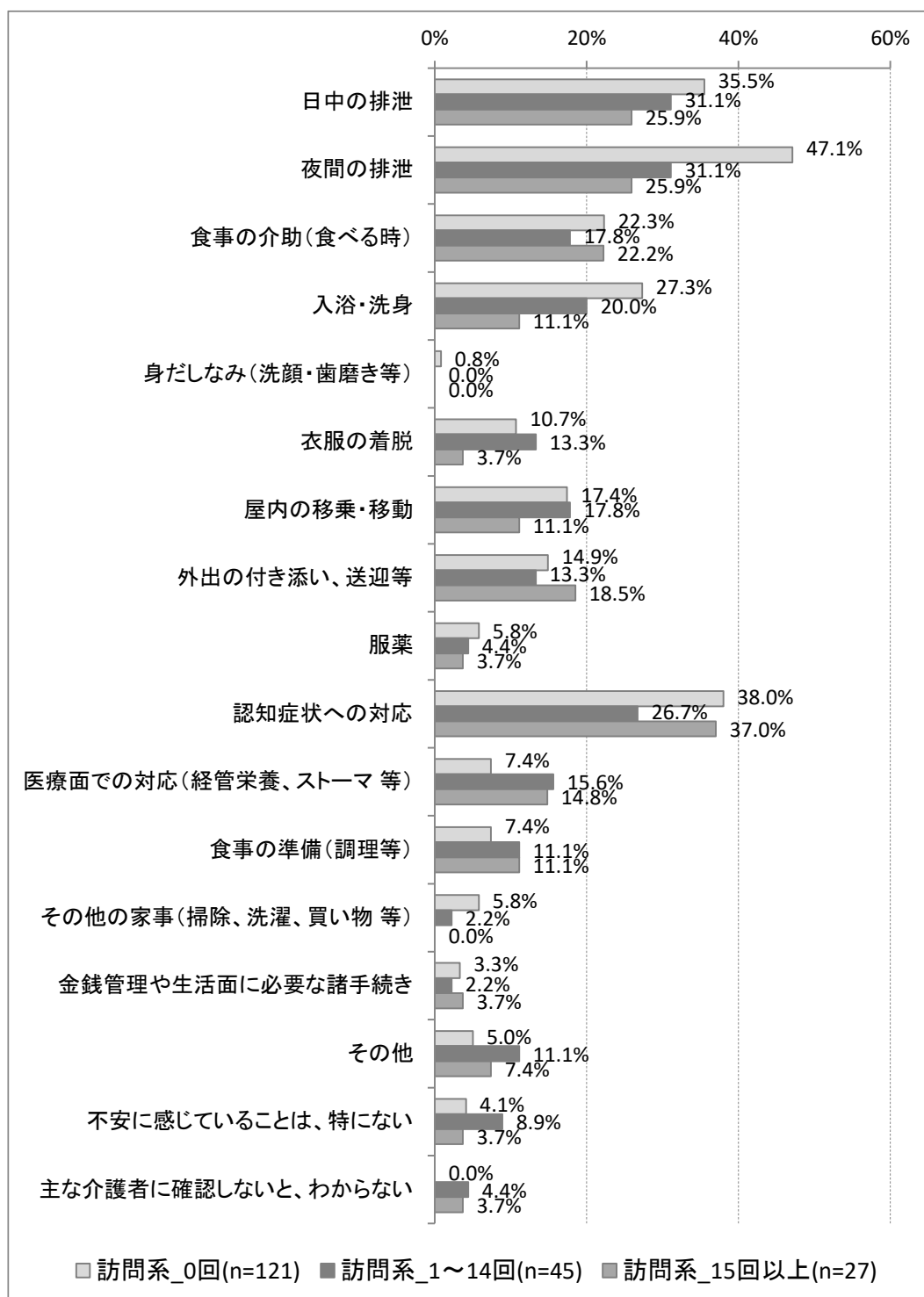
【留意事項】

- (5)の「サービス利用の組み合わせ」と、ここでの「サービス利用の回数」の2つの分析結果を参考に、介護者不安の軽減に資するサービス整備方針の検討につなげていくことが重要です。
- (5)の「サービス利用の組み合わせ」と同様、ケアマネジメントに直結する内容であることから、ここでの集計分析結果やその解釈については、ケアマネジャー等を含む専門職との議論・考察を交えながら、地域ごとにその効果等についての議論を深めていくことが重要となります。

【サービス利用回数別・介護者が不安を感じる介護（訪問系、要介護3以上）】

介護者が不安を感じる介護を訪問系の利用回数別にみると、「訪問系_0回」では「夜間の排泄」が47.1%ともっとも割合が高く、次いで「認知症状への対応」が38.0%、「日中の排泄」が35.5%となっている。「訪問系_1～14回」では「日中の排泄」、「夜間の排泄」が31.1%ともっとも割合が高く、次いで「認知症状への対応」が26.7%、「入浴・洗身」が20.0%となっている。「訪問系_15回以上」では「認知症状への対応」が37.0%ともっとも割合が高く、次いで「日中の排泄」、「夜間の排泄」が25.9%、「食事の介助（食べる時）」が22.2%となっている。

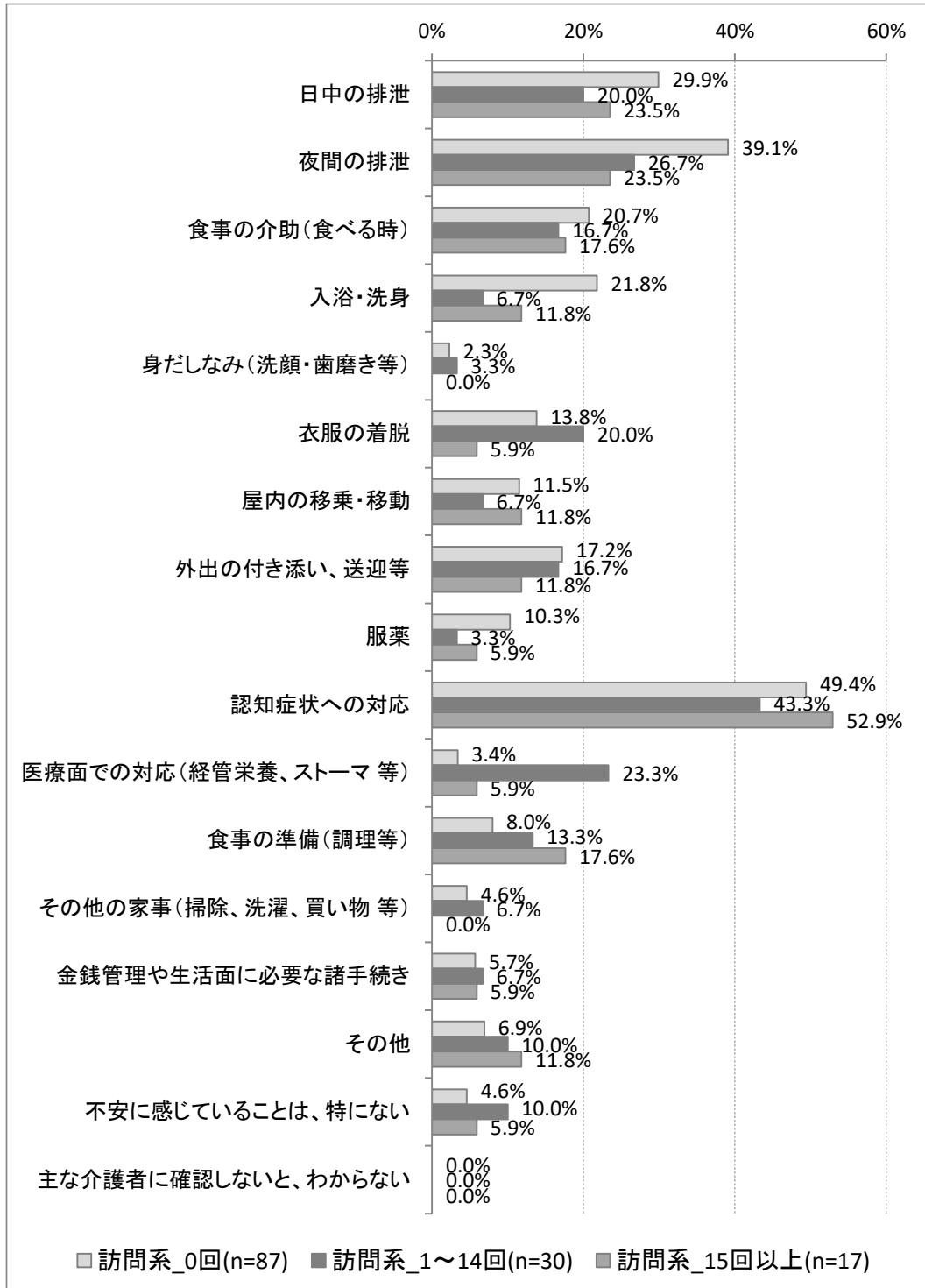
図表 1-24 サービス利用回数別・介護者が不安を感じる介護（訪問系、要介護3以上）



【サービス利用回数別・介護者が不安を感じる介護（訪問系、認知症Ⅲ以上）】

介護者が不安を感じる介護を訪問系の利用回数別にみると、「訪問系_0回」では「認知症状への対応」が49.4%ともっとも割合が高く、次いで「夜間の排泄」が39.1%、「日中の排泄」が29.9%となっている。「訪問系_1～14回」では「認知症状への対応」が43.3%ともっとも割合が高く、次いで「夜間の排泄」が26.7%、「医療面での対応（経管栄養、ストーマ等）」が23.3%となっている。「訪問系_15回以上」では「認知症状への対応」が52.9%ともっとも割合が高く、次いで「日中の排泄」、「夜間の排泄」が23.5%、「食事の介助（食べる時）」、「食事の準備（調理等）」が17.6%となっている。

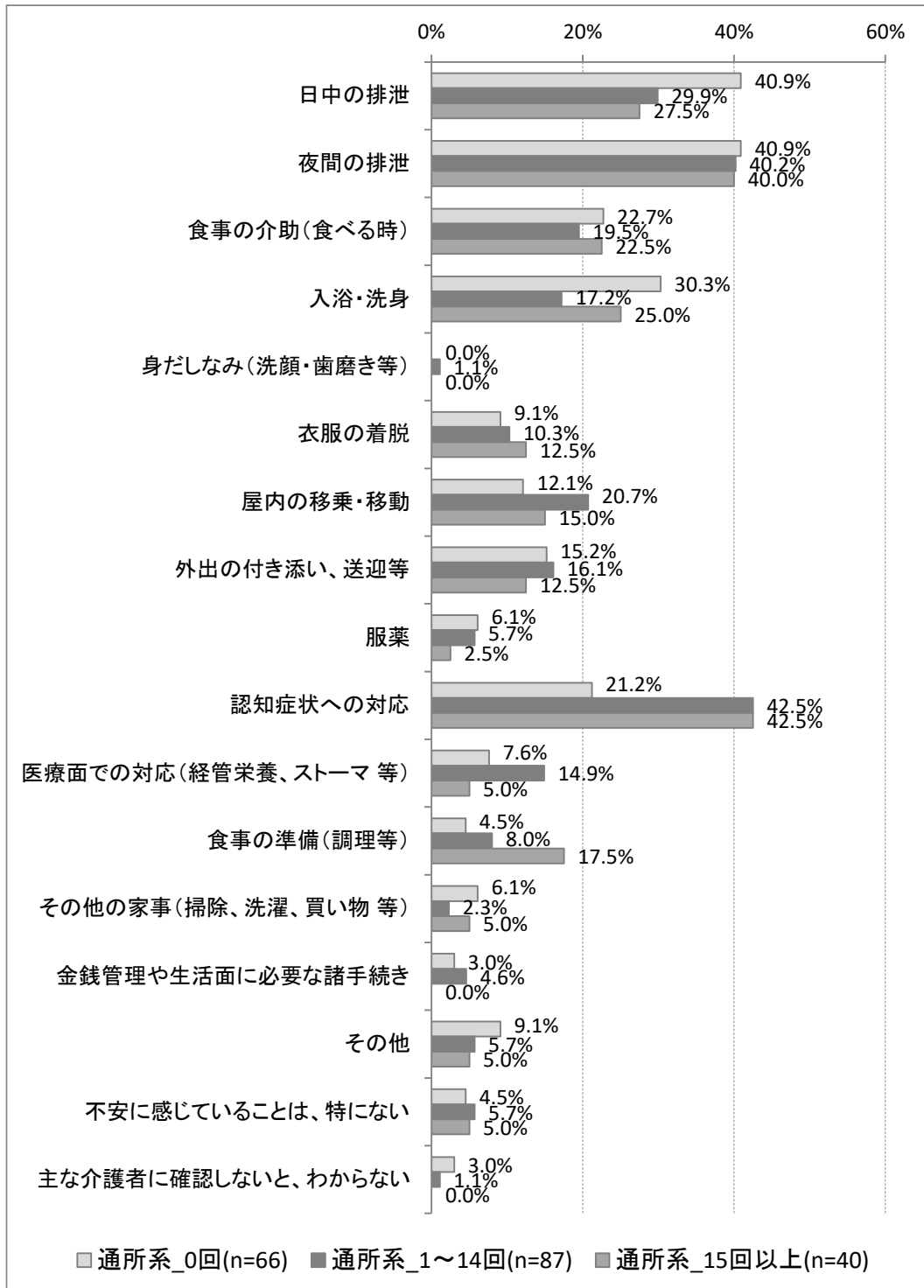
図表 1-25 サービス利用回数別・介護者が不安を感じる介護（訪問系、認知症Ⅲ以上）



【サービス利用回数別・介護者が不安を感じる介護（通所系、要介護3以上）】

介護者が不安を感じる介護を通所系の利用回数別にみると、「通所系_0回」では「日中の排泄」、「夜間の排泄」が40.9%ともっとも割合が高く、次いで「入浴・洗身」が30.3%、「食事の介助（食べる時）」が22.7%となっている。「通所系_1～14回」では「認知症状への対応」が42.5%ともっとも割合が高く、次いで「夜間の排泄」が40.2%、「日中の排泄」が29.9%となっている。「通所系_15回以上」では「認知症状への対応」が42.5%ともっとも割合が高く、次いで「夜間の排泄」が40.0%、「日中の排泄」が27.5%となっている。

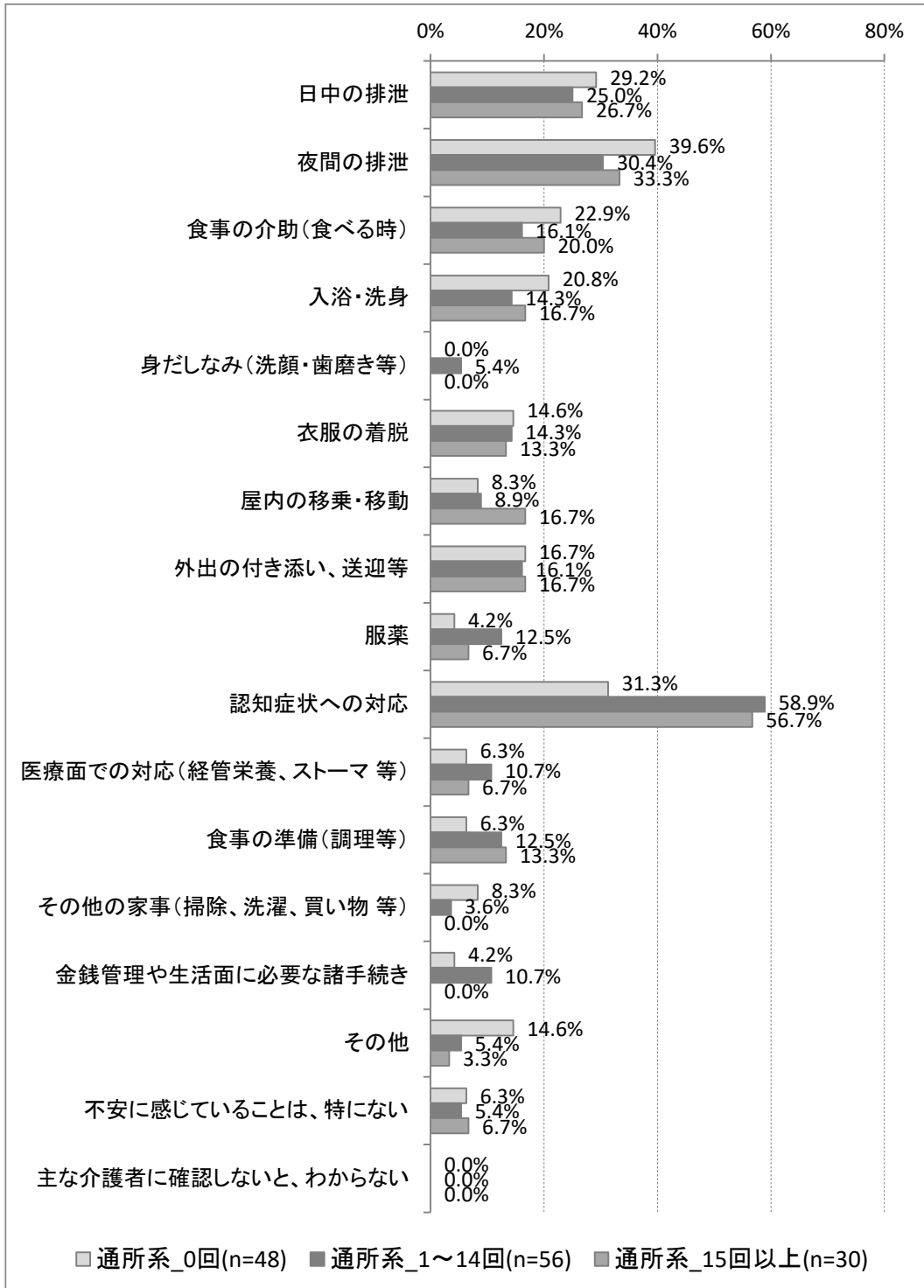
図表 1-26 サービス利用回数別・介護者が不安を感じる介護（通所系、要介護3以上）



【サービス利用回数別・介護者が不安を感じる介護（通所系、認知症Ⅲ以上）】

介護者が不安を感じる介護を通所系の利用回数別にみると、「通所系_0回」では「夜間の排泄」が39.6%ともっとも割合が高く、次いで「認知症状への対応」が31.3%、「日中の排泄」が29.2%となっている。「通所系_1～14回」では「認知症状への対応」が58.9%ともっとも割合が高く、次いで「夜間の排泄」が30.4%、「日中の排泄」が25.0%となっている。「通所系_15回以上」では「認知症状への対応」が56.7%ともっとも割合が高く、次いで「夜間の排泄」が33.3%、「日中の排泄」が26.7%となっている。

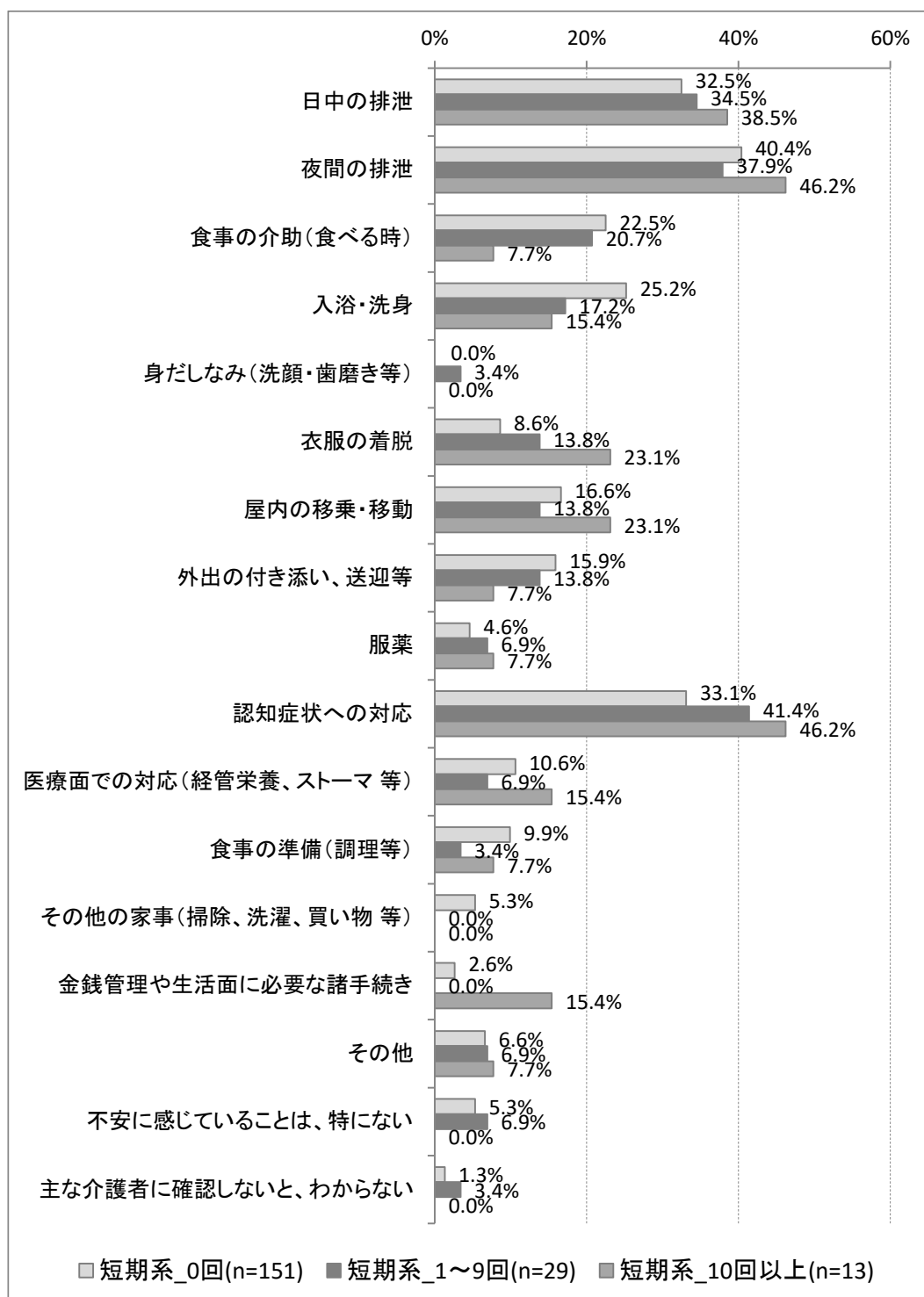
図表 1-27 サービス利用回数別・介護者が不安を感じる介護（通所系、認知症Ⅲ以上）



【サービス利用回数別・介護者が不安を感じる介護（短期系、要介護3以上）】

介護者が不安を感じる介護を短期系の利用回数別にみると、「短期系_0回」では「夜間の排泄」が40.4%ともっとも割合が高く、次いで「認知症状への対応」が33.1%、「日中の排泄」が32.5%となっている。「短期系_1～9回」では「認知症状への対応」が41.4%ともっとも割合が高く、次いで「夜間の排泄」が37.9%、「日中の排泄」が34.5%となっている。「短期系_10回以上」では「夜間の排泄」、「認知症状への対応」が46.2%ともっとも割合が高く、次いで「日中の排泄」が38.5%、「衣服の着脱」、「屋内の移乗・移動」が23.1%となっている。

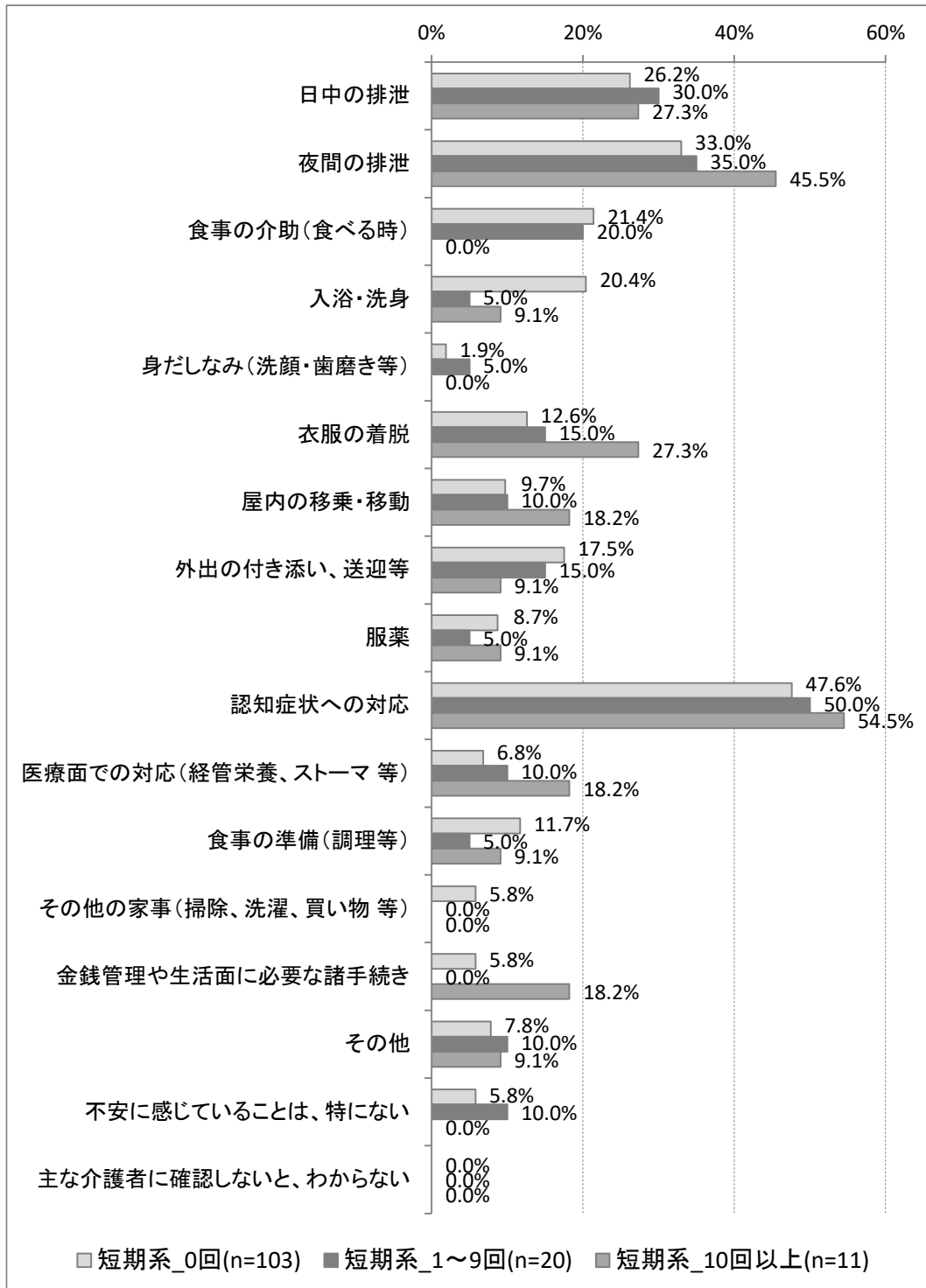
図表 1-28 サービス利用回数別・介護者が不安を感じる介護（短期系、要介護3以上）



【サービス利用回数別・介護者が不安を感じる介護（短期系、認知症Ⅲ以上）】

介護者が不安を感じる介護を短期系の利用回数別にみると、「短期系_0回」では「認知症状への対応」が47.6%ともっとも割合が高く、次いで「夜間の排泄」が33.0%、「日中の排泄」が26.2%となっている。「短期系_1～9回」では「認知症状への対応」が50.0%ともっとも割合が高く、次いで「夜間の排泄」が35.0%、「日中の排泄」が30.0%となっている。「短期系_10回以上」では「認知症状への対応」が54.5%ともっとも割合が高く、次いで「夜間の排泄」が45.5%、「日中の排泄」、「衣服の着脱」が27.3%となっている。

図表 1-29 サービス利用回数別・介護者が不安を感じる介護（短期系、認知症Ⅲ以上）



2. 仕事と介護の両立に向けた支援・サービスの提供体制の検討

2.1 集計・分析の狙い

- ここでは、介護者の就労継続見込みの向上に向けて必要となる支援・サービスを検討するために、「主な介護者の就労状況」と「主な介護者の就労継続見込み」の2つの視点からの集計を行っています。
- 具体的には、「就労している介護者（フルタイム勤務、パートタイム勤務）」と「就労していない介護者」の違いに着目し、就労している介護者の属性や介護状況の特徴別に、必要な支援を集計・分析しています。
- さらに、「どのようなサービス利用」や「働き方の調整・職場の支援」を受けている場合に、「就労を継続することができる」という見込みを持つことができるのかを分析するために、主な介護者の「就労継続見込み」と、「主な介護者が行っている介護」や「介護保険サービスの利用の有無」、「介護のための働き方の調整」などとのクロス集計を行っています。
- 上記の視点からの分析では、要介護度や認知症高齢者の日常生活自立度といった要介護者の状態別の分析も加え、要介護者の自立度が重くなっても、在宅生活や就労を継続できる支援のあり方を検討しています。

2.2 集計結果と着目すべきポイント

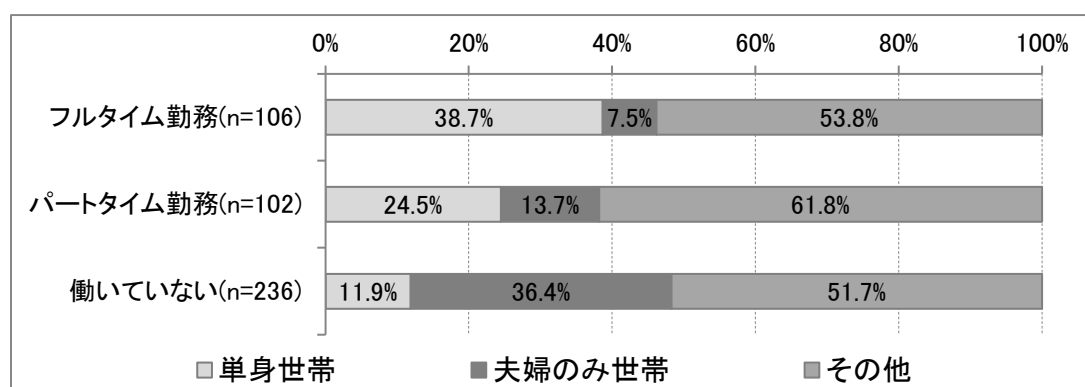
(1) 基本集計

- 主な介護者の就労状況（フルタイム勤務・パートタイム勤務・働いていない）別に、世帯や介護者の特徴などの基礎的な集計を行っています。
- 主な介護者の属性や、要介護者の要介護度・認知症自立度について、就労状況別にその状況を確認します。

【就労状況別・世帯類型】

世帯類型を介護者の勤務形態別にみると、「フルタイム勤務」では「その他」が53.8%ともっとも割合が高く、次いで「単身世帯」が38.7%、「夫婦のみ世帯」が7.5%となっている。「パートタイム勤務」では「その他」が61.8%ともっとも割合が高く、次いで「単身世帯」が24.5%、「夫婦のみ世帯」が13.7%となっている。「働いていない」では「その他」が51.7%ともっとも割合が高く、次いで「夫婦のみ世帯」が36.4%、「単身世帯」が11.9%となっている。

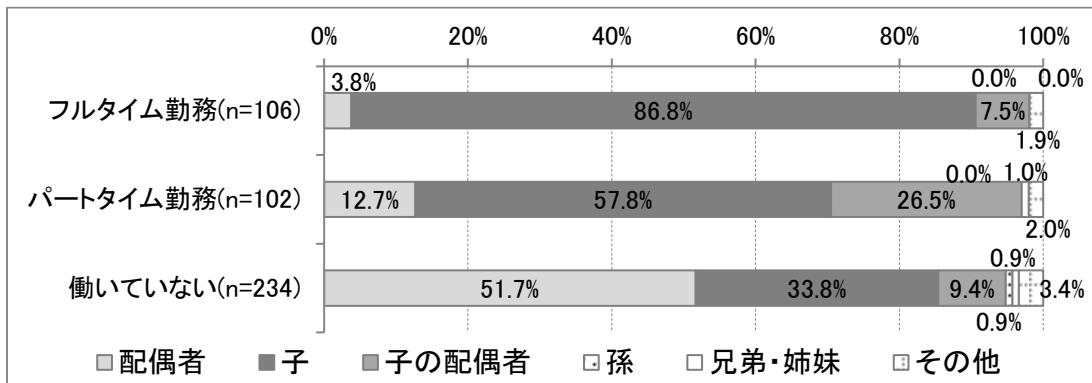
図表 2-1 就労状況別・世帯類型<***>



【就労状況別・★主な介護者の本人との関係】

主な介護者を介護者の勤務形態別にみると、「フルタイム勤務」では「子」が86.8%ともっとも割合が高く、次いで「子の配偶者」が7.5%、「配偶者」が3.8%となっている。「パートタイム勤務」では「子」が57.8%ともっとも割合が高く、次いで「子の配偶者」が26.5%、「配偶者」が12.7%となっている。「働いていない」では「配偶者」が51.7%ともっとも割合が高く、次いで「子」が33.8%、「子の配偶者」が9.4%となっている。

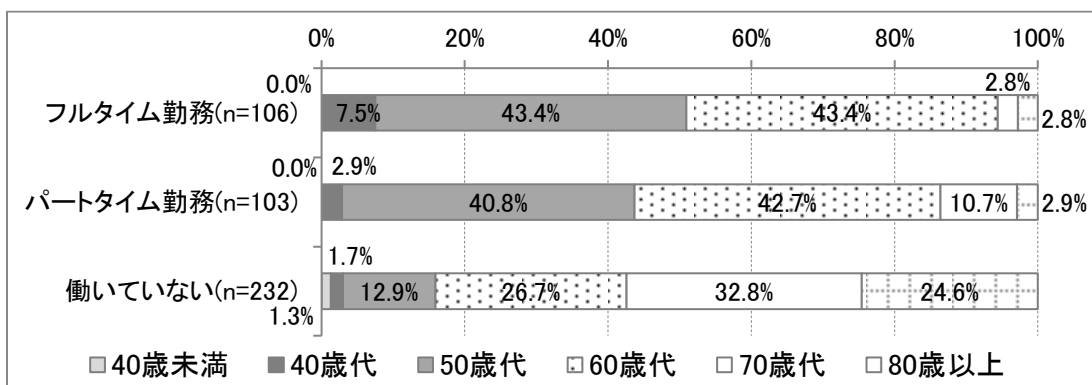
図表 2-2 就労状況別・★主な介護者の本人との関係<***>



【就労状況別・主な介護者の年齢】

介護者の年齢を介護者の勤務形態別にみると、「フルタイム勤務」では「50歳代」、「60歳代」が43.4%ともっとも割合が高く、次いで「40歳代」が7.5%、「70歳代」、「80歳以上」が2.8%となっている。「パートタイム勤務」では「60歳代」が42.7%ともっとも割合が高く、次いで「50歳代」が40.8%、「70歳代」が10.7%となっている。「働いていない」では「70歳代」が32.8%ともっとも割合が高く、次いで「60歳代」が26.7%、「80歳以上」が24.6%となっている。

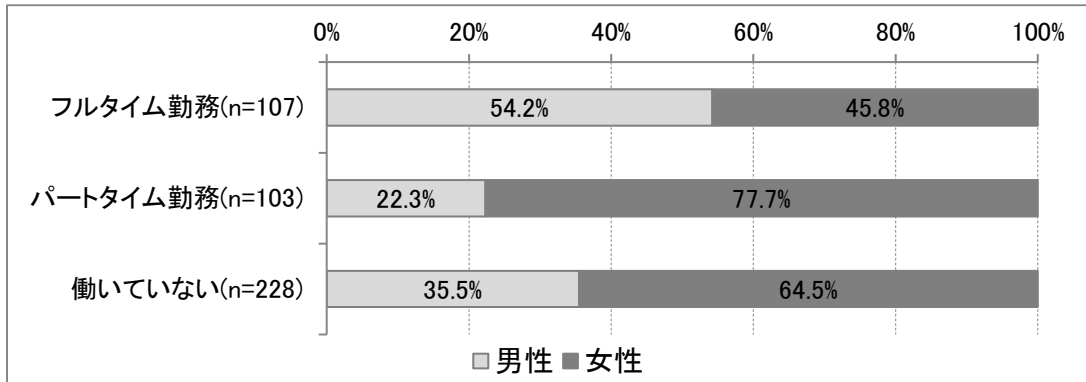
図表 2-3 就労状況別・主な介護者の年齢<***>



【就労状況別・主な介護者の性別】

介護者の性別を介護者の勤務形態別にみると、「フルタイム勤務」では「男性」が54.2%、「女性」が45.8%となっている。「パートタイム勤務」では「女性」が77.7%、「男性」が22.3%となっている。「働いていない」では「女性」が64.5%、「男性」が35.5%となっている。

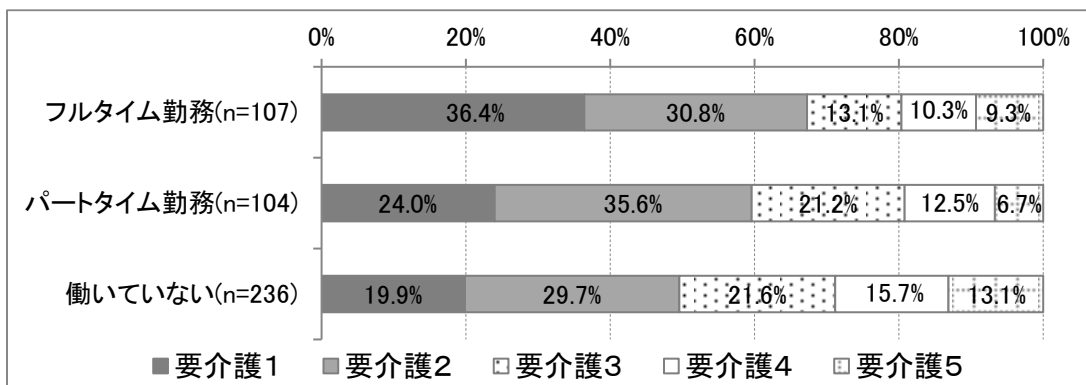
図表 2-4 就労状況別・主な介護者の性別<***>



【就労状況別・要介護度】

二次判定結果を介護者の勤務形態別にみると、「フルタイム勤務」では「要介護1」が36.4%と最も割合が高く、次いで「要介護2」が30.8%、「要介護3」が13.1%となっている。「パートタイム勤務」では「要介護2」が35.6%と最も割合が高く、次いで「要介護1」が24.0%、「要介護3」が21.2%となっている。「働いていない」では「要介護2」が29.7%と最も割合が高く、次いで「要介護3」が21.6%、「要介護1」が19.9%となっている。

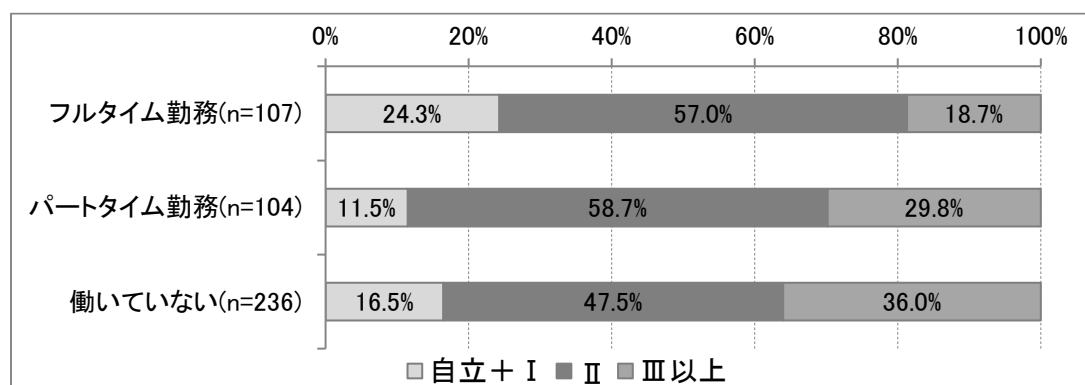
図表 2-5 就労状況別・要介護度<*>



【就労状況別・認知症自立度】

認知症高齢者自立度を介護者の勤務形態別にみると、「フルタイム勤務」では「Ⅱ」が57.0%ともっとも割合が高く、次いで「自立+Ⅰ」が24.3%、「Ⅲ以上」が18.7%となっている。「パートタイム勤務」では「Ⅱ」が58.7%ともっとも割合が高く、次いで「Ⅲ以上」が29.8%、「自立+Ⅰ」が11.5%となっている。「働いていない」では「Ⅱ」が47.5%ともっとも割合が高く、次いで「Ⅲ以上」が36.0%、「自立+Ⅰ」が16.5%となっている。

図表 2-6 就労状況別・認知症自立度<**>



(2) 就労状況別の、主な介護者が行っている介護と就労継続見込み

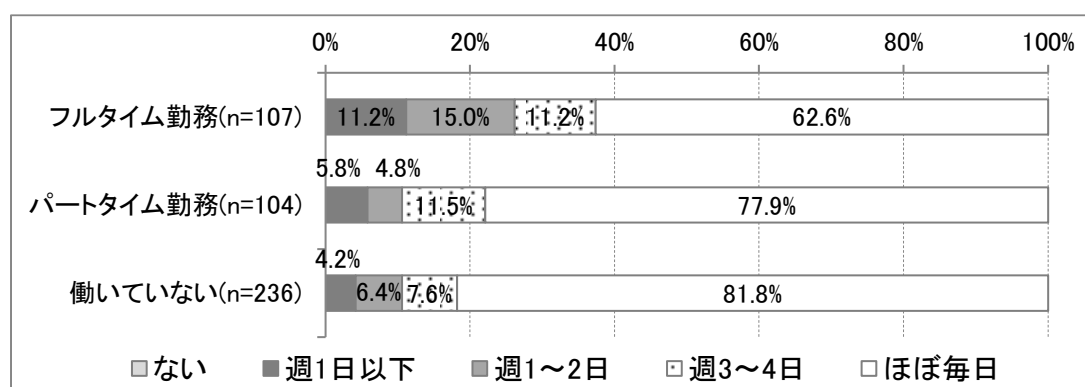
【着目すべきポイント】

- ここでは、「主な介護者が行っている介護」と「今後の就労継続見込み」について、主な介護者の就労状況別に集計分析をしています（図表 2-8、図表 2-9）。
- 「主な介護者が行っている介護」について、例えば、「働いていない」人と比較して、「フルタイム勤務」や「パートタイム勤務」で少ない介護は、働いている介護者が、他の介護者や介護サービスの支援を必要としているものと考えられます。
- 「今後の就労継続見込み」については、「就労状況」との関係に加え、「要介護度」や「認知症自立度」別についても、集計分析を行っています。これにより、要介護者の重度化に伴って就労継続見込みを困難と考える人が増加するかどうかを把握することができます。
- なお、就労継続見込みの分析においては、「問題なく、続けていける」の割合と、「問題なく、続けていける」と「問題はあるが、何とか続けていける」をあわせた「続けていける」と考えている人の割合の2つの指標に着目しています（図表 2-10、図表 2-11）。

【就労状況別・家族等による介護の頻度】

ご家族等の介護の頻度を介護者の勤務形態別にみると、「フルタイム勤務」では「ほぼ毎日」が62.6%ともっとも割合が高く、次いで「週1～2日」が15.0%、「週1日以下」、「週3～4日」が11.2%となっている。「パートタイム勤務」では「ほぼ毎日」が77.9%ともっとも割合が高く、次いで「週3～4日」が11.5%、「週1日以下」が5.8%となっている。「働いていない」では「ほぼ毎日」が81.8%ともっとも割合が高く、次いで「週3～4日」が7.6%、「週1～2日」が6.4%となっている。

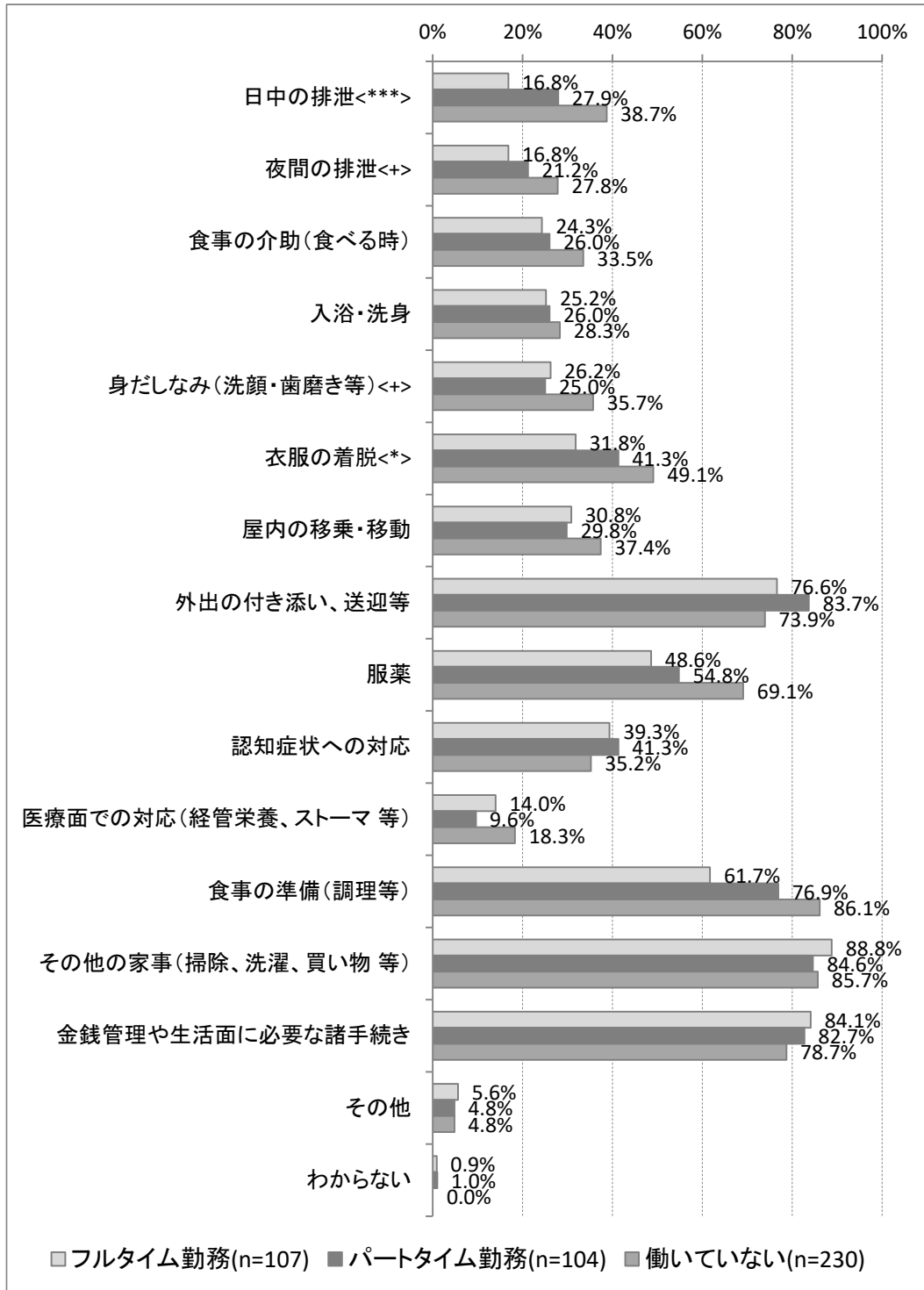
図表 2-7 就労状況別・家族等による介護の頻度<**>



【就労状況別・★主な介護者が行っている介護】

介護者が行っている介護を介護者の勤務形態別にみると、「フルタイム勤務」では「その他の家事（掃除、洗濯、買い物等）」が88.8%と最も割合が高く、次いで「金銭管理や生活面に必要な諸手続き」が84.1%、「外出の付き添い、送迎等」が76.6%となっている。「パートタイム勤務」では「その他の家事（掃除、洗濯、買い物等）」が84.6%と最も割合が高く、次いで「外出の付き添い、送迎等」が83.7%、「金銭管理や生活面に必要な諸手続き」が82.7%となっている。「働いていない」では「食事の準備（調理等）」が86.1%と最も割合が高く、次いで「その他の家事（掃除、洗濯、買い物等）」が85.7%、「金銭管理や生活面に必要な諸手続き」が78.7%となっている。

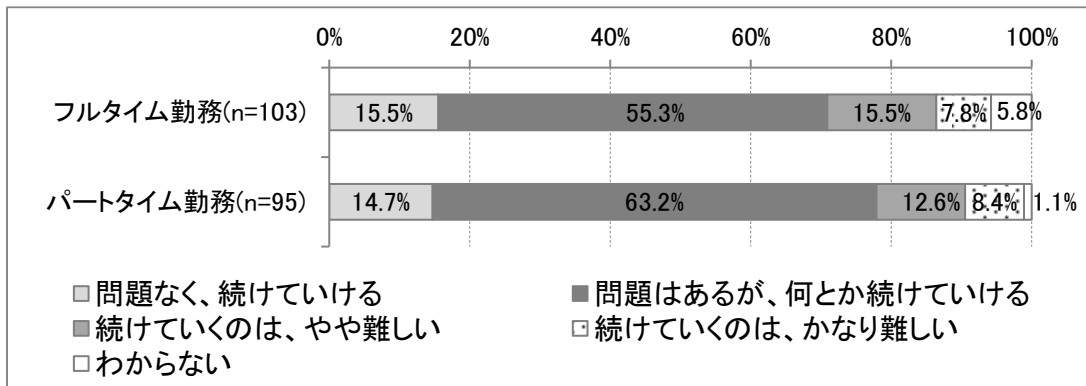
図表 2-8 就労状況別・★主な介護者が行っている介護



【就労状況別・就労継続見込み】

介護者の就労継続の可否に係る意識を介護者の勤務形態別にみると、「フルタイム勤務」では「問題はあるが、何とか続けていける」が55.3%ともっとも割合が高く、次いで「問題なく、続けていける」、「続けていくのは、やや難しい」が15.5%、「続けていくのは、かなり難しい」が7.8%となっている。「パートタイム勤務」では「問題はあるが、何とか続けていける」が63.2%ともっとも割合が高く、次いで「問題なく、続けていける」が14.7%、「続けていくのは、やや難しい」が12.6%となっている。

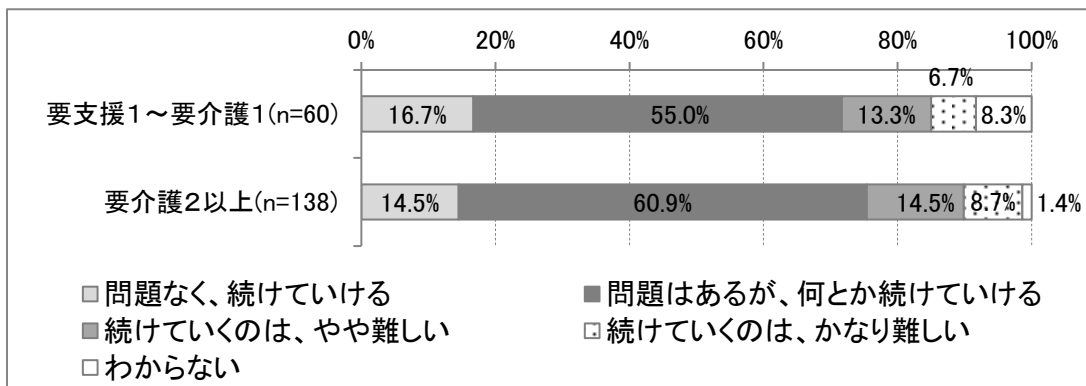
図表 2-9 就労状況別・就労継続見込み



【要介護度別・就労継続見込み(フルタイム勤務+パートタイム勤務)】

介護者の就労継続の可否に係る意識を二次判定結果別にみると、「要支援1～要介護1」では「問題はあるが、何とか続けていける」が55.0%ともっとも割合が高く、次いで「問題なく、続けていける」が16.7%、「続けていくのは、やや難しい」が13.3%となっている。「要介護2以上」では「問題はあるが、何とか続けていける」が60.9%ともっとも割合が高く、次いで「問題なく、続けていける」、「続けていくのは、やや難しい」が14.5%、「続けていくのは、かなり難しい」が8.7%となっている。

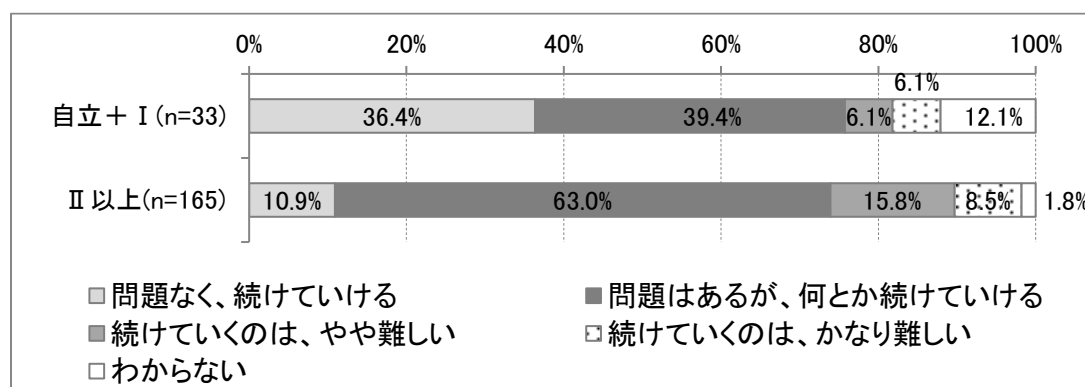
図表 2-10 要介護度別・就労継続見込み(フルタイム勤務+パートタイム勤務)



【認知症自立度別・就労継続見込み(フルタイム勤務+パートタイム勤務)】

介護者の就労継続の可否に係る意識を認知症高齢者自立度別にみると、「自立+I」では「問題はあるが、何とか続けていける」が39.4%ともっとも割合が高く、次いで「問題なく、続けていける」が36.4%、「わからない」が12.1%となっている。「II以上」では「問題はあるが、何とか続けていける」が63.0%ともっとも割合が高く、次いで「続けていくのは、やや難しい」が15.8%、「問題なく、続けていける」が10.9%となっている。

図表 2-11 認知症自立度別・就労継続見込み(フルタイム勤務+パートタイム勤務) <***>



(3) 「介護保険サービスの利用状況」・「主な介護者が不安に感じる介護」と「就労継続見込み」の関係

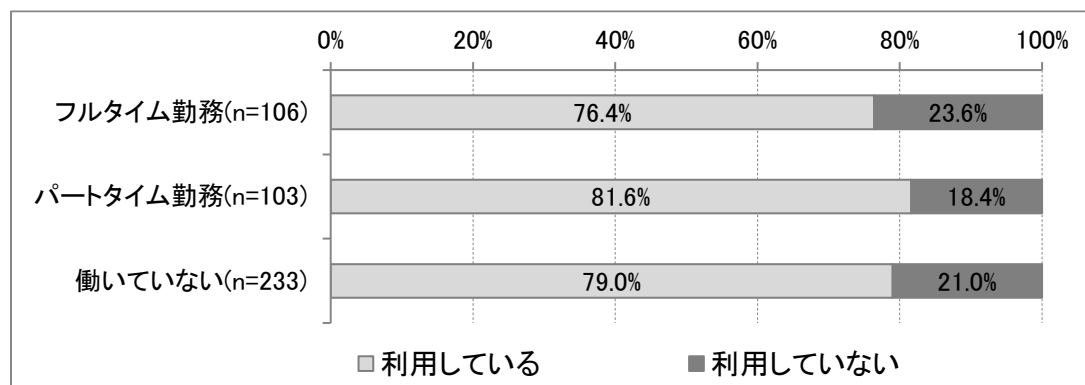
【着目すべきポイント】

- ここでは、「介護保険サービスの利用状況」と「主な介護者が不安に感じる介護」について、主な介護者の就労状況別及び就労継続見込み別に集計分析をしています（図表 2-12～図表 2-15）。
- 「介護保険サービスの利用状況」と「就労継続見込み」の関係についての集計分析から、サービス利用による就労継続見込みへの影響を把握することができます。さらに、サービスを利用していない人の「サービス未利用の理由」について、就労継続が困難と考える人が、そうでない人と比較して特徴がみられる理由に着目することで、必要なサービス利用がなされているかどうかを推測することができます。
- 例えば、就労継続が困難と考える人において、サービスを「利用していない」割合が高く、かつサービスを利用していない理由として、「現状では、サービスを利用するほどの状態ではない」が低い割合にとどまっている場合には、サービス利用の必要性が低くないにも関わらず、サービスの利用がなされていないこととなります（図表 2-13、図表 2-14）。
- 「主な介護者が不安に感じる介護」については、就労継続見込みの困難化に伴い、どのような介護等で不安が増加しているかに着目することで、在宅生活を継続しながらの就労継続について、介護者がその可否を判断するポイントとなる可能性がある介護等を把握することができます。

【就労状況別・★介護保険サービス利用の有無】

介護保険サービスの利用の有無を介護者の勤務形態別にみると、「フルタイム勤務」では「利用している」が 76.4%、「利用していない」が 23.6%となっている。「パートタイム勤務」では「利用している」が 81.6%、「利用していない」が 18.4%となっている。「働いていない」では「利用している」が 79.0%、「利用していない」が 21.0%となっている。

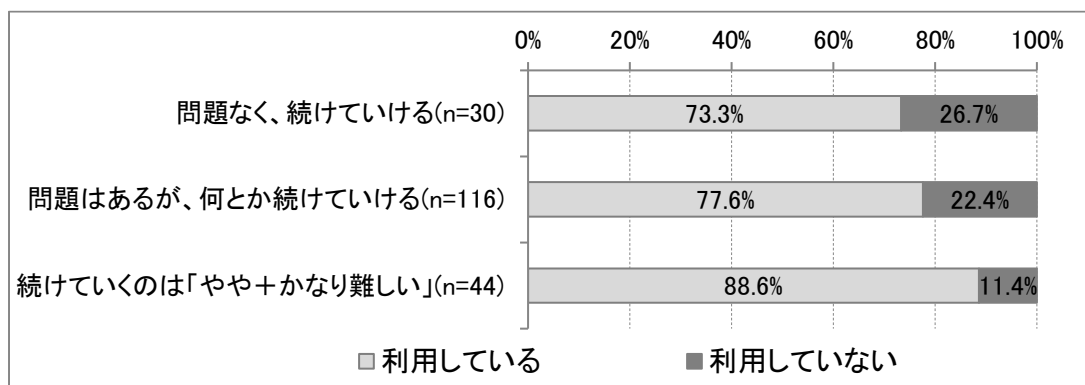
図表 2-12 就労状況別・★介護保険サービス利用の有無



【就労継続見込み別・★介護保険サービス利用の有無(フルタイム勤務+パートタイム勤務)】

介護保険サービスの利用の有無を介護者の就労継続の可否に係る意識別にみると、「問題なく、続けていける」では「利用している」が73.3%、「利用していない」が26.7%となっている。「問題はあるが、何とか続けていける」では「利用している」が77.6%、「利用していない」が22.4%となっている。「続けていくのは「やや+かなり難しい」」では「利用している」が88.6%、「利用していない」が11.4%となっている。

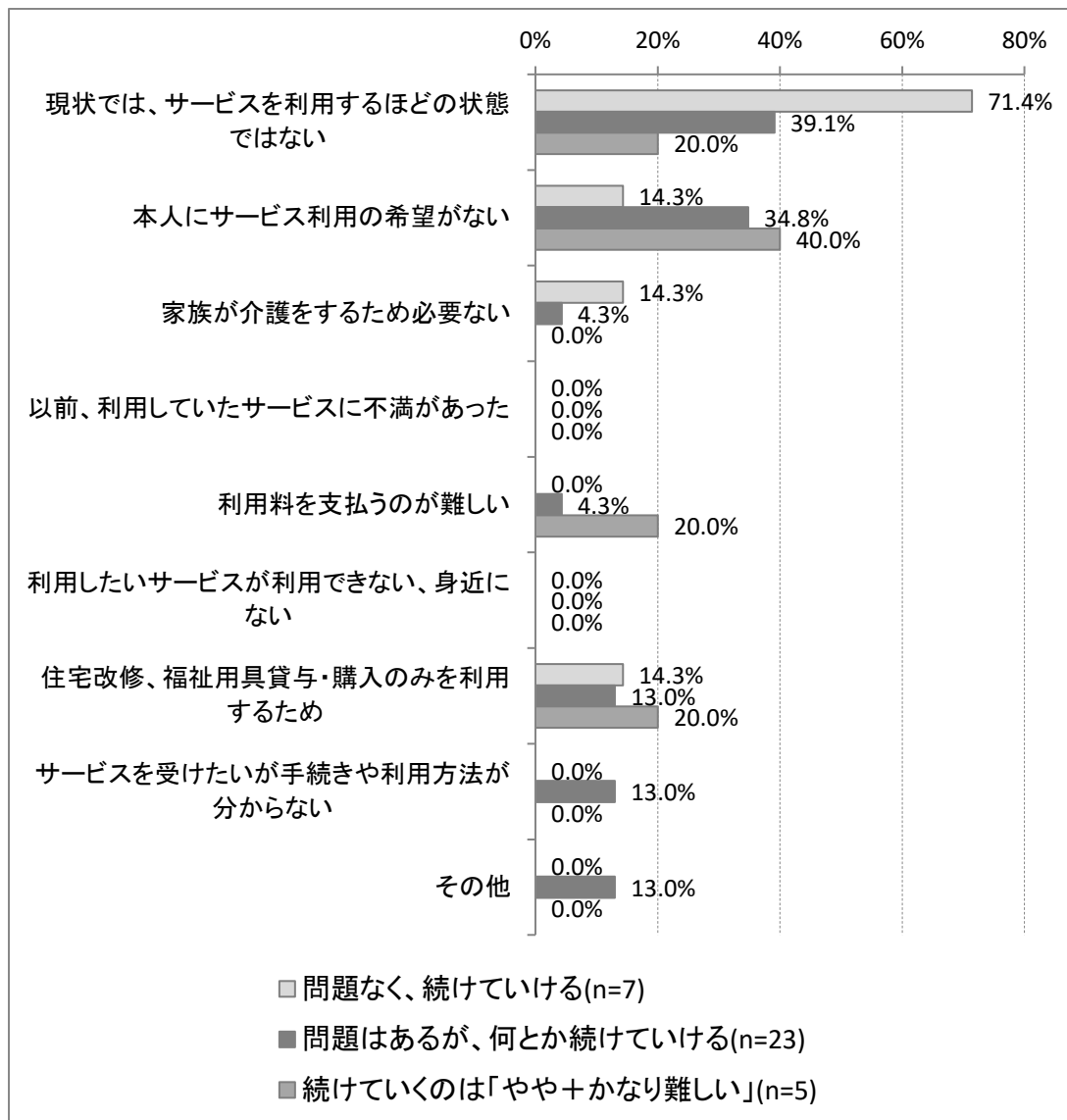
図表 2-13 就労継続見込み別・★介護保険サービス利用の有無（フルタイム勤務+パートタイム勤務）



【就労継続見込み別・★サービス未利用の理由(フルタイム勤務+パート勤務)】

未利用の理由を介護者の就労継続の可否に係る意識別にみると、「問題なく、続けていける」では「現状では、サービスを利用するほどの状態ではない」が71.4%と最も割合が高く、次いで「本人にサービス利用の希望がない」、「家族が介護をするため必要ない」、「住宅改修、福祉用具貸与・購入のみを利用するため」が14.3%となっている。「問題はあるが、何とか続けていける」では「現状では、サービスを利用するほどの状態ではない」が39.1%と最も割合が高く、次いで「本人にサービス利用の希望がない」が34.8%、「住宅改修、福祉用具貸与・購入のみを利用するため」、「サービスを受けたいが手続きや利用方法が分からない」、「その他」が13.0%となっている。「続けていくのは「やや+かなり難しい」」では「本人にサービス利用の希望がない」が40.0%と最も割合が高く、次いで「現状では、サービスを利用するほどの状態ではない」、「利用料を支払うのが難しい」、「住宅改修、福祉用具貸与・購入のみを利用するため」が20.0%となっている。

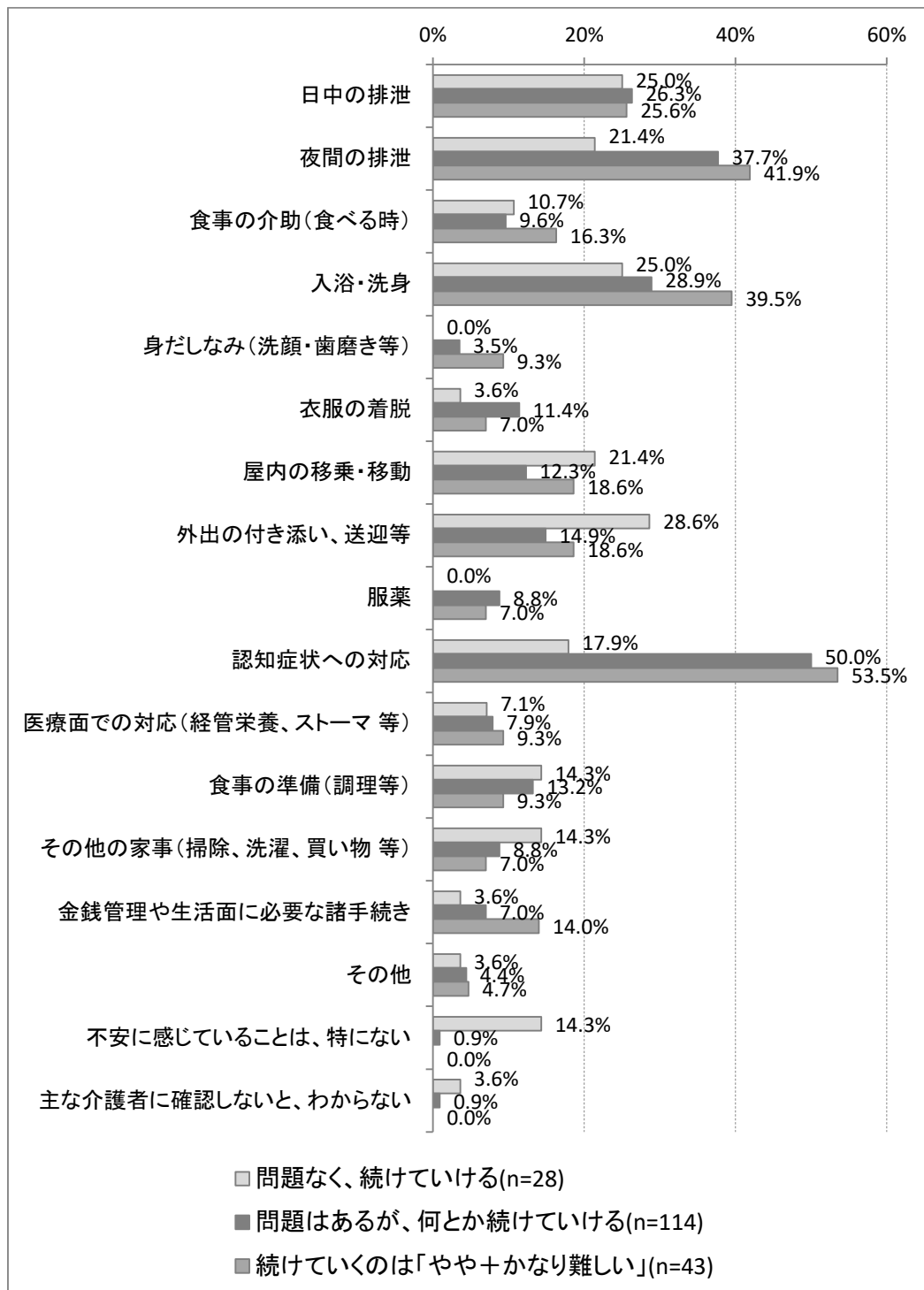
図表 2-14 就労継続見込み別・★サービス未利用の理由（フルタイム勤務+パート勤務）



【就労継続見込み別・介護者が不安に感じる介護(フルタイム勤務+パートタイム勤務)】

介護者が不安に感じる介護を介護者の就労継続の可否に係る意識別にみると、「問題なく、続けていける」では「外出の付き添い、送迎等」が28.6%ともっとも割合が高く、次いで「日中の排泄」、「入浴・洗身」が25.0%、「夜間の排泄」、「屋内の移乗・移動」が21.4%となっている。「問題はあるが、何とか続けていける」では「認知症状への対応」が50.0%ともっとも割合が高く、次いで「夜間の排泄」が37.7%、「入浴・洗身」が28.9%となっている。「続けていくのは「やや+かなり難しい」」では「認知症状への対応」が53.5%ともっとも割合が高く、次いで「夜間の排泄」が41.9%、「入浴・洗身」が39.5%となっている。

図表 2-15 就労継続見込み別・介護者が不安に感じる介護 (フルタイム勤務+パートタイム勤務)



(4) 「サービス利用の組み合わせ」と「就労継続見込み」の関係

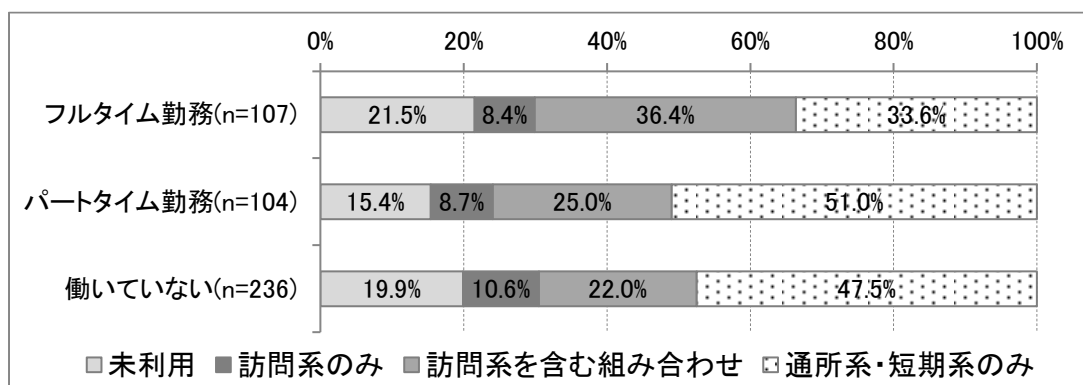
【着目すべきポイント】

- ここでは、「サービス利用の組み合わせ」について、組み合わせのパターンを簡略化し、主な介護者の就労状況別及び就労継続見込み別に集計分析をしています。さらに、訪問系サービスについては、要介護2以上、認知症自立度Ⅱ以上に分けて集計分析を行っています（図表2-16～図表2-18）。
- ここから、主な介護者の就労状況によって、「サービス利用の組み合わせ」に差がみられるかどうかを把握することができます。
- また、「訪問系サービスの利用の有無」と「就労継続見込み」の関係を集計分析することで、訪問系サービスの利用が、就労継続見込みの「問題なく、続けていける」「問題はあるが、何とか続けていける」の割合に影響を与えているかどうかを推測することが可能です。

【就労状況別・サービス利用の組み合わせ】

サービス利用の組み合わせを介護者の勤務形態別にみると、「フルタイム勤務」では「訪問系を含む組み合わせ」が36.4%と最も割合が高く、次いで「通所系・短期系のみ」が33.6%、「未利用」が21.5%となっている。「パートタイム勤務」では「通所系・短期系のみ」が51.0%と最も割合が高く、次いで「訪問系を含む組み合わせ」が25.0%、「未利用」が15.4%となっている。「働いていない」では「通所系・短期系のみ」が47.5%と最も割合が高く、次いで「訪問系を含む組み合わせ」が22.0%、「未利用」が19.9%となっている。

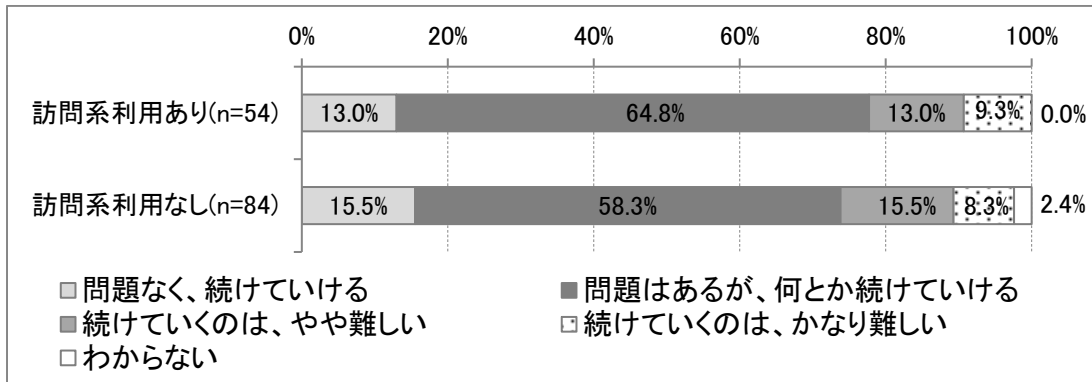
図表 2-16 就労状況別・サービス利用の組み合わせ<+>



【サービス利用の組み合わせ別・就労継続見込み(要介護2以上、フルタイム勤務+パートタイム勤務)】

介護者の就労継続の可否に係る意識を訪問系の利用の有無別にみると、「訪問系利用あり」では「問題はあるが、何とか続けていける」が64.8%ともっとも割合が高く、次いで「問題なく、続けていける」、「続けていくのは、やや難しい」が13.0%、「続けていくのは、かなり難しい」が9.3%となっている。「訪問系利用なし」では「問題はあるが、何とか続けていける」が58.3%ともっとも割合が高く、次いで「問題なく、続けていける」、「続けていくのは、やや難しい」が15.5%、「続けていくのは、かなり難しい」が8.3%となっている。

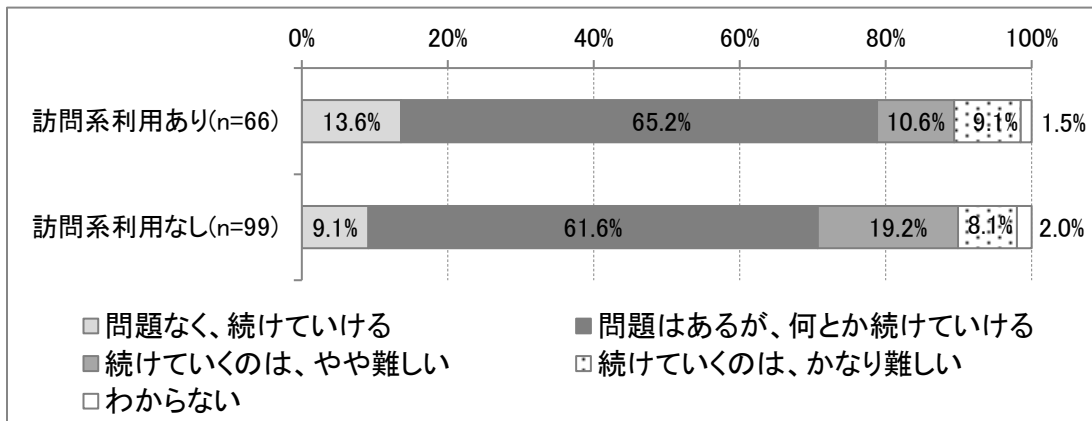
図表 2-17 サービス利用の組み合わせ別・就労継続見込み
(要介護2以上、フルタイム勤務+パートタイム勤務)



【サービス利用の組み合わせ別・就労継続見込み(認知症自立度Ⅱ以上、フルタイム勤務+パートタイム勤務)】

介護者の就労継続の可否に係る意識を訪問系の利用の有無別にみると、「訪問系利用あり」では「問題はあるが、何とか続けていける」が65.2%ともっとも割合が高く、次いで「問題なく、続けていける」が13.6%、「続けていくのは、やや難しい」が10.6%となっている。「訪問系利用なし」では「問題はあるが、何とか続けていける」が61.6%ともっとも割合が高く、次いで「続けていくのは、やや難しい」が19.2%、「問題なく、続けていける」が9.1%となっている。

図表 2-18 サービス利用の組み合わせ別・就労継続見込み
(認知症自立度Ⅱ以上、フルタイム勤務+パートタイム勤務)



(5) 就労状況別の、保険外の支援・サービスの利用状況と、施設等検討の状況

【着目すべきポイント】

- ここでは、「保険外の支援・サービスの利用状況」、「訪問診療の利用の有無」、「施設等検討の状況」について、主な介護者の就労状況別及び就労継続見込み別に集計分析をしています（図表 2-19～図表 2-22）。
- 「利用している保険外の支援・サービス」と、「在宅生活の継続に必要と感じる支援・サービス」の差をみることにより、働いている介護者が必要と感じているが、実際には利用されていない生活支援サービスを把握することができます。
- また、「訪問診療の利用の有無」と就労状況との関係を集計分析することで、訪問診療の利用が就労状況により異なるかどうかを把握することができます。
- 「施設等検討の状況」については、働いていない介護者に比べて、働いている介護者では、施設入所を必要と感じているかどうか分析することを目的としています。
- さらに、要介護2以上の中重度者については、就労継続見込みについて「続けていくのは、やや難しい」「続けていくのは、かなり難しい」と考える人のうち、どの程度の人が施設を検討しているかに着目しています。これにより、在宅での仕事と介護の両立が困難となった場合の対応として、施設対応の必要性と、在宅サービスや働き方の調整による対応の必要性のそれぞれについて、把握することができます。

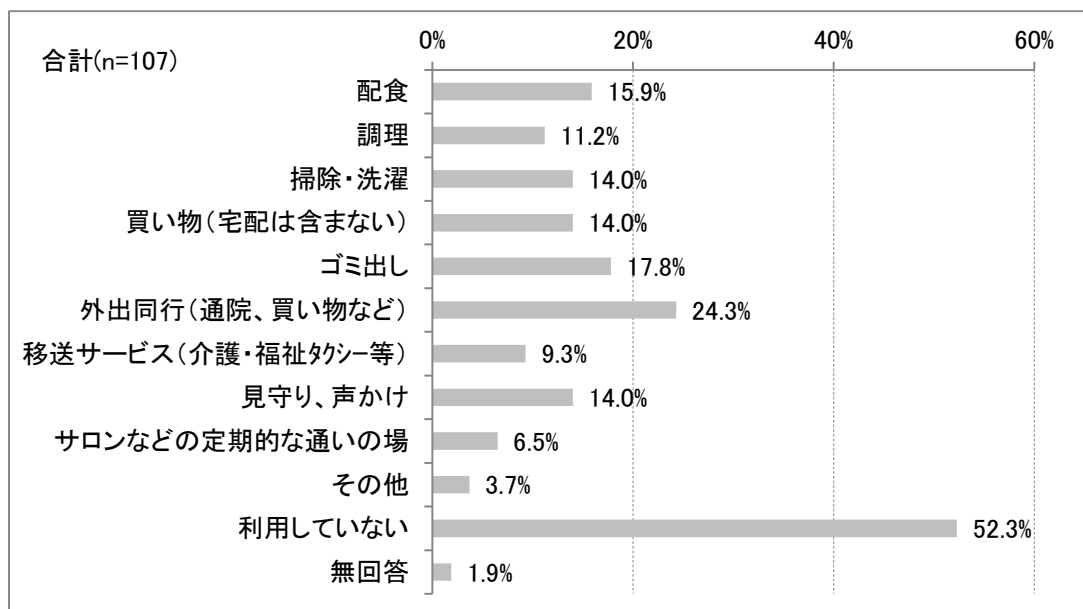
【留意事項】

- ここでの「在宅生活の継続に必要と感じる支援・サービス」とは、保険外の支援・サービスに限定されるものではありません。必要となる支援・サービスの整備方法については、必ずしも保険外のサービスに限定せず、幅広い視点から検討を進めることが重要です。
- アンケート調査の中で「必要な支援・サービス」を回答して頂くと、「無くても大丈夫であるが、無いよりはあった方が良い」といった回答も含まれることが想定されることから、回答結果は実際のニーズよりもやや過大となる可能性があります。

【★利用している保険外の支援・サービス(フルタイム勤務)】

「利用していない」の割合が最も高く 52.3%となっている。次いで、「外出同行（通院、買い物など）（24.3%）」、「ゴミ出し（17.8%）」となっている。

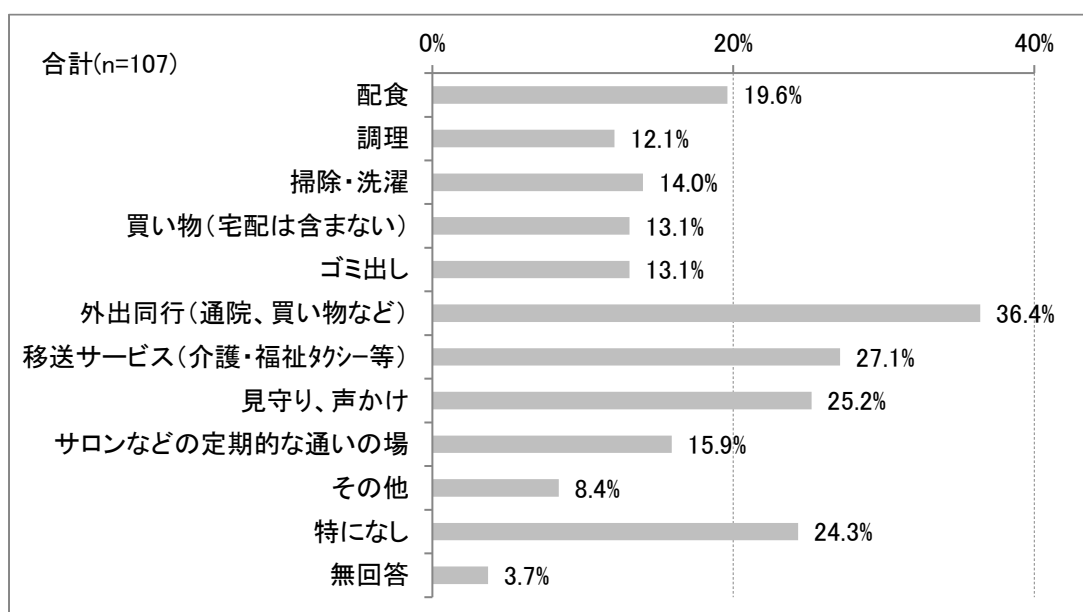
図表 2-19_1 ★利用している保険外の支援・サービス（フルタイム勤務）



【★在宅生活の継続に必要と感じる支援・サービス(フルタイム勤務)】

「外出同行（通院、買い物など）」の割合が最も高く 36.4%となっている。次いで、「移送サービス（介護・福祉タクシー等）（27.1%）」、「見守り、声かけ（25.2%）」となっている。

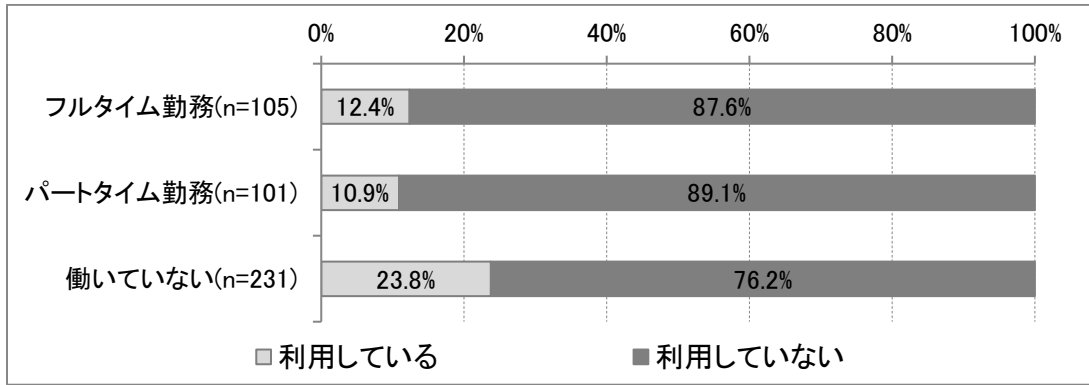
図表 2-19_2 ★在宅生活の継続に必要と感じる支援・サービス（フルタイム勤務）



【就労状況別・★訪問診療の利用の有無】

訪問診療の利用の有無を介護者の勤務形態別にみると、「フルタイム勤務」では「利用していない」が87.6%、「利用している」が12.4%となっている。「パートタイム勤務」では「利用していない」が89.1%、「利用している」が10.9%となっている。「働いていない」では「利用していない」が76.2%、「利用している」が23.8%となっている。

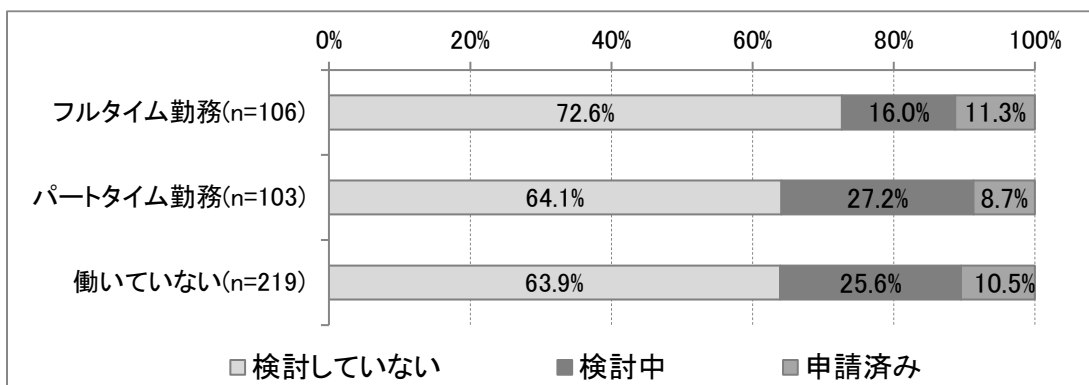
図表 2-20 就労状況別・★訪問診療の利用の有無<**>



【就労状況別・施設等検討の状況】

施設等の検討状況を介護者の勤務形態別にみると、「フルタイム勤務」では「検討していない」が72.6%と最も割合が高く、次いで「検討中」が16.0%、「申請済み」が11.3%となっている。「パートタイム勤務」では「検討していない」が64.1%と最も割合が高く、次いで「検討中」が27.2%、「申請済み」が8.7%となっている。「働いていない」では「検討していない」が63.9%と最も割合が高く、次いで「検討中」が25.6%、「申請済み」が10.5%となっている。

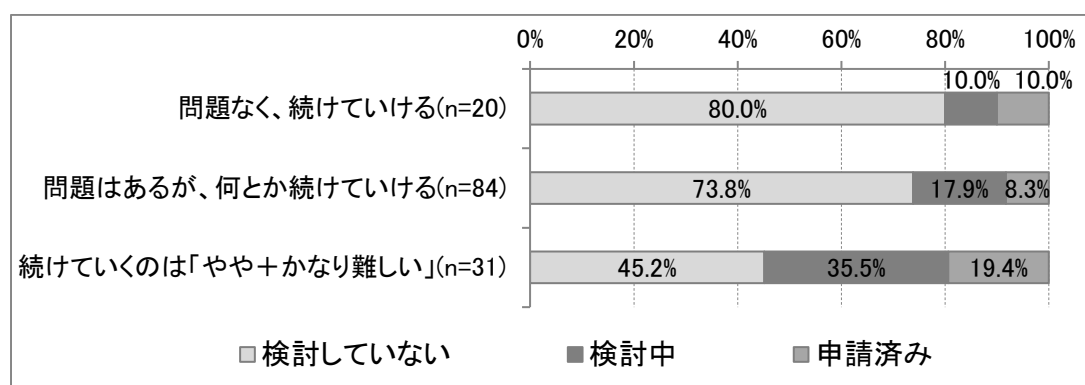
図表 2-21 就労状況別・施設等検討の状況



【就労継続見込み別・施設等検討の状況(要介護2以上、フルタイム勤務+パートタイム勤務)】

施設等の検討状況を介護者の就労継続の可否に係る意識別にみると、「問題なく、続けていける」では「検討していない」が80.0%ともっとも割合が高く、次いで「検討中」、「申請済み」が10.0%となっている。「問題はあるが、何とか続けていける」では「検討していない」が73.8%ともっとも割合が高く、次いで「検討中」が17.9%、「申請済み」が8.3%となっている。「続けていくのは「やや+かなり難しい」」では「検討していない」が45.2%ともっとも割合が高く、次いで「検討中」が35.5%、「申請済み」が19.4%となっている。

図表 2-22 就労継続見込み別・施設等検討の状況（要介護2以上、フルタイム勤務+パートタイム勤務）<*>



(6) 就労状況別の、介護のための働き方の調整と効果的な勤め先からの支援

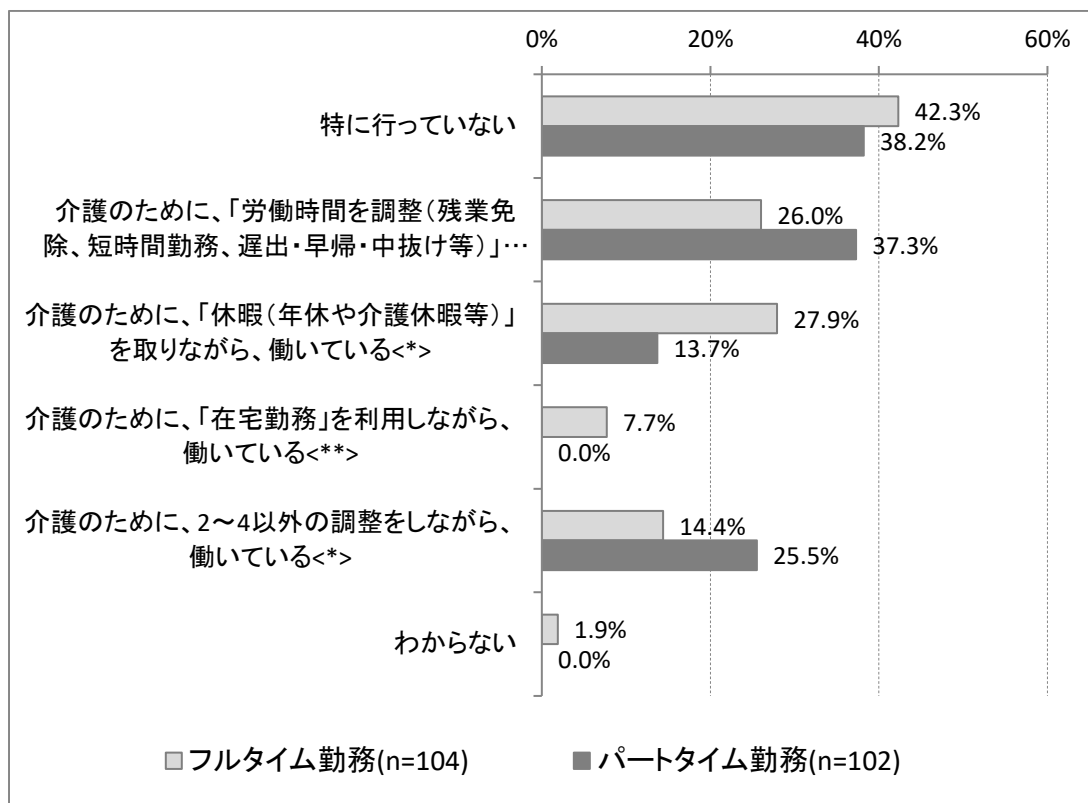
【着目すべきポイント】

- ここでは、「介護のための働き方の調整」と、「効果的な勤め先からの支援」について、主な介護者の就労状況別及び就労継続見込み別に集計分析をしています（図表 2-23～図表 2-26）。
- 就労継続見込みによって、介護のために働き方を調整している割合や、効果的と考える勤め先の支援内容がどのように変化するかに着目して集計分析をしています。
- ただし、「問題なく、続けていける」とする人において、働き方の調整を「特に行っていない」割合、もしくは効果的な勤め先の支援として「特にない」が高いケースは、職場が恒常的な長時間労働や、休暇取得が困難といった状況にはなく、介護のために特段働き方の調整や勤め先からの支援を行わなくても、両立可能な職場であることが考えられます。
- このように、職場の状況や業務の内容によっても、必要な調整や支援の内容が異なることに留意することが必要です。

【就労状況別・介護のための働き方の調整】

介護者の働き方の調整の状況を介護者の勤務形態別にみると、「フルタイム勤務」では「特に行っていない」が42.3%ともっとも割合が高く、次いで「介護のために、「休暇（年休や介護休暇等）」を取りながら、働いている」が27.9%、「介護のために、「労働時間を調整（残業免除、短時間勤務、遅出・早帰・中抜け等）」しながら、働いている」が26.0%となっている。「パートタイム勤務」では「特に行っていない」が38.2%ともっとも割合が高く、次いで「介護のために、「労働時間を調整（残業免除、短時間勤務、遅出・早帰・中抜け等）」しながら、働いている」が37.3%、「介護のために、2～4以外の調整をしながら、働いている」が25.5%となっている。

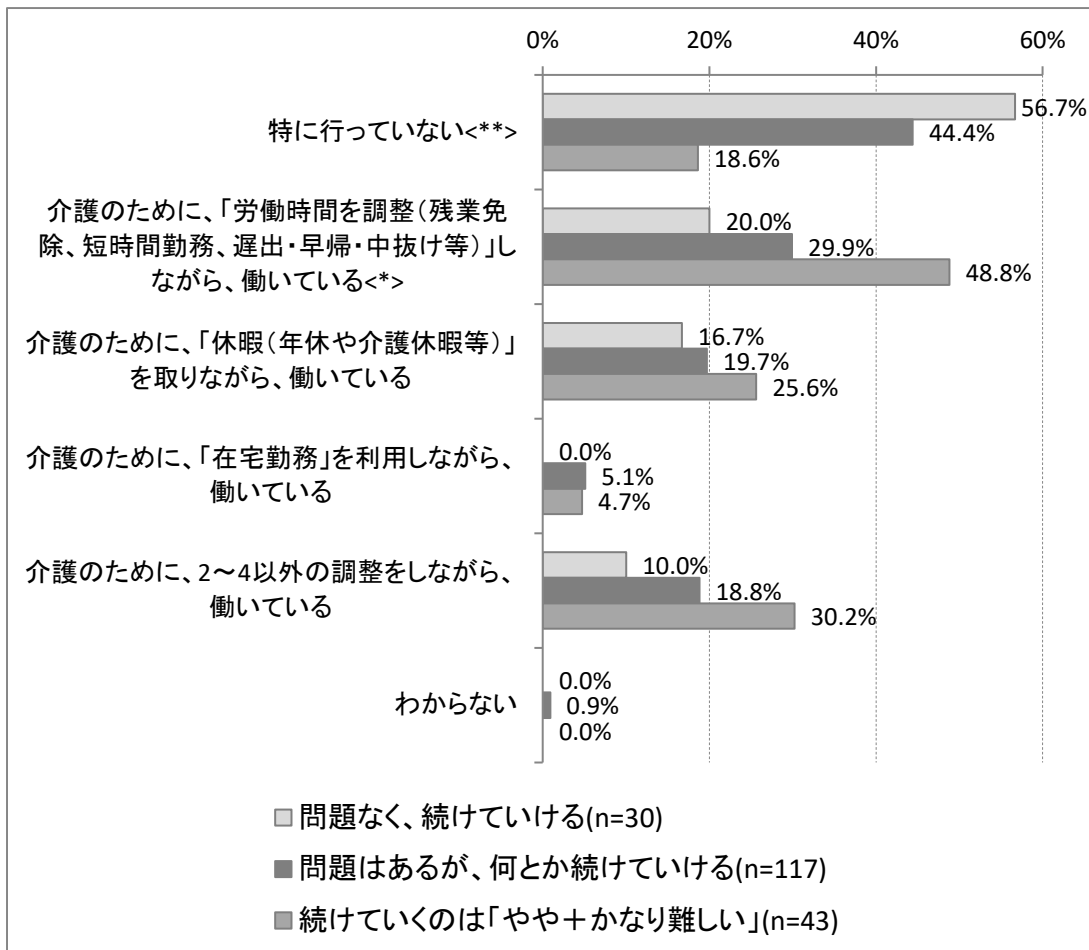
図表 2-23 就労状況別・介護のための働き方の調整



【就労継続見込み別・介護のための働き方の調整(フルタイム勤務+パートタイム勤務)】

介護者の働き方の調整の状況を介護者の就労継続の可否に係る意識別にみると、「問題なく、続けていける」では「特に行っていない」が56.7%ともっとも割合が高く、次いで「介護のために、「労働時間を調整(残業免除、短時間勤務、遅出・早帰・中抜け等)」しながら、働いている」が20.0%、「介護のために、「休暇(年休や介護休暇等)」を取りながら、働いている」が16.7%となっている。「問題はあるが、何とか続けていける」では「特に行っていない」が44.4%ともっとも割合が高く、次いで「介護のために、「労働時間を調整(残業免除、短時間勤務、遅出・早帰・中抜け等)」しながら、働いている」が29.9%、「介護のために、「休暇(年休や介護休暇等)」を取りながら、働いている」が19.7%となっている。「続けていくのは「やや+かなり難しい」」では「介護のために、「労働時間を調整(残業免除、短時間勤務、遅出・早帰・中抜け等)」しながら、働いている」が48.8%ともっとも割合が高く、次いで「介護のために、2~4以外の調整をしながら、働いている」が30.2%、「介護のために、「休暇(年休や介護休暇等)」を取りながら、働いている」が25.6%となっている。

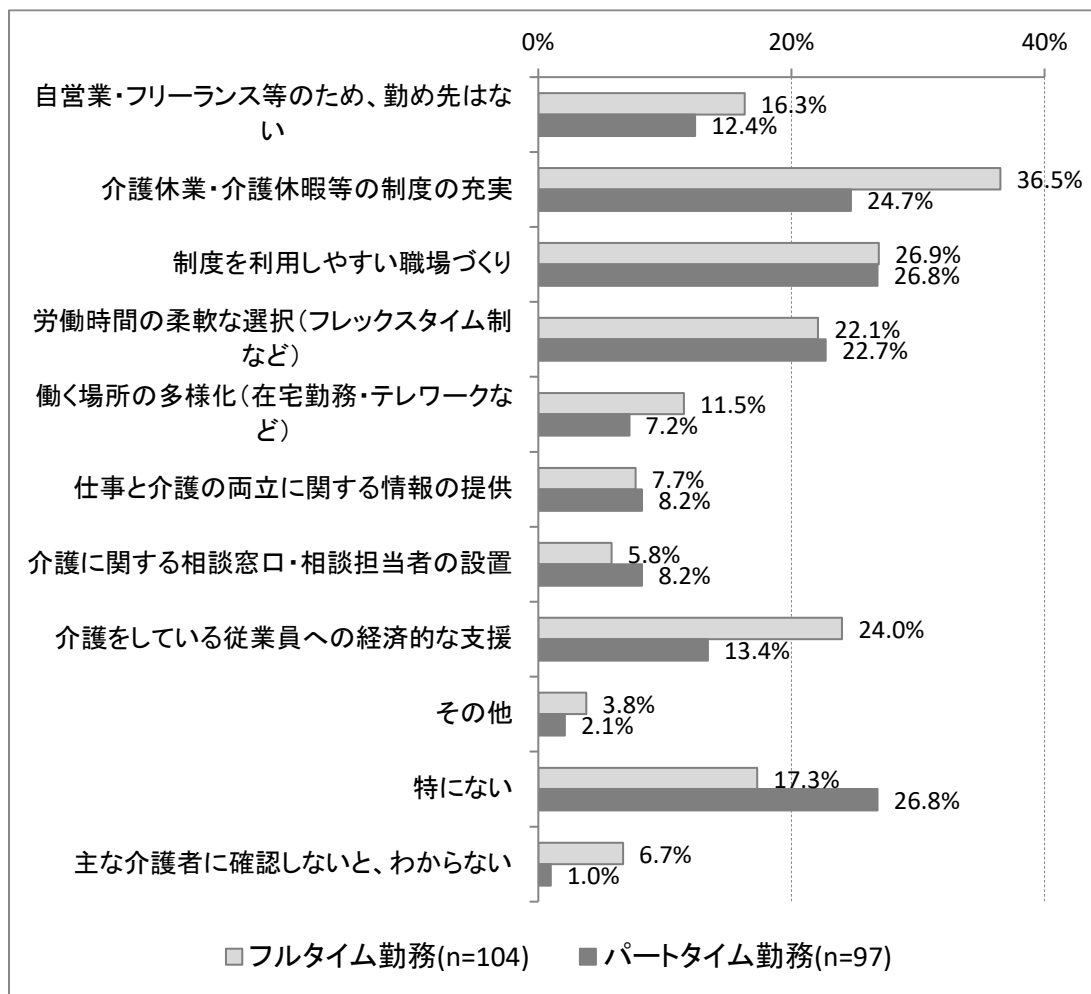
図表 2-24 就労継続見込み別・介護のための働き方の調整(フルタイム勤務+パートタイム勤務)



【就労状況別・★効果的な勤め先からの支援】

効果的な勤め先からの支援を介護者の勤務形態別にみると、「フルタイム勤務」では「介護休業・介護休暇等の制度の充実」が36.5%ともっとも割合が高く、次いで「制度を利用しやすい職場づくり」が26.9%、「介護をしている従業員への経済的な支援」が24.0%となっている。「パートタイム勤務」では「制度を利用しやすい職場づくり」、「特にない」が26.8%ともっとも割合が高く、次いで「介護休業・介護休暇等の制度の充実」が24.7%、「労働時間の柔軟な選択（フレックスタイム制など）」が22.7%となっている。

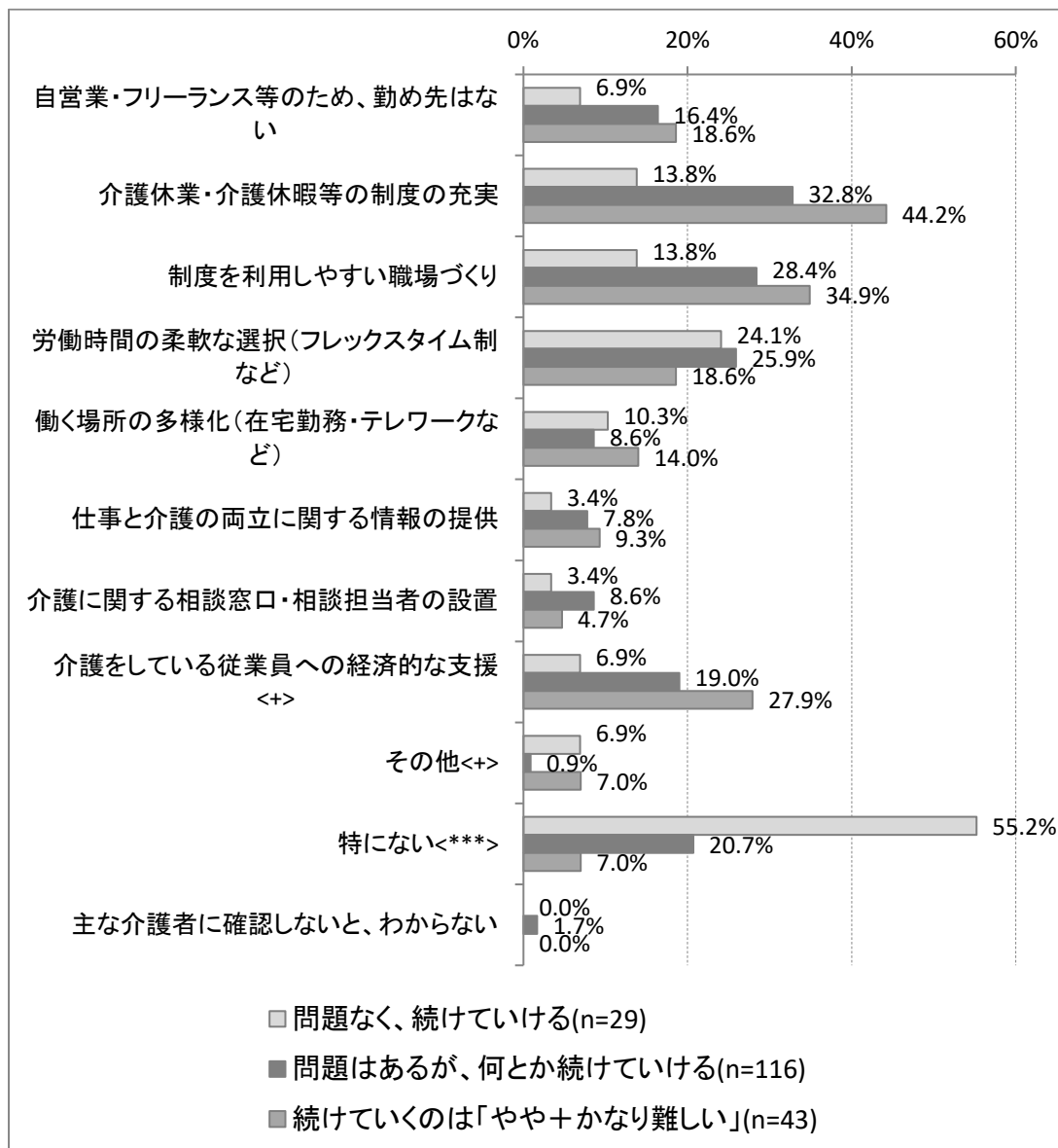
図表 2-25 就労状況別・★効果的な勤め先からの支援



【就労継続見込み別・★効果的な勤め先からの支援(フルタイム勤務+パートタイム勤務)】

効果的な勤め先からの支援を介護者の就労継続の可否に係る意識別にみると、「問題なく、続けていける」では「特にない」が55.2%ともっとも割合が高く、次いで「労働時間の柔軟な選択(フレックスタイム制など)」が24.1%、「介護休業・介護休暇等の制度の充実」、「制度を利用しやすい職場づくり」が13.8%となっている。「問題はあるが、何とか続けていける」では「介護休業・介護休暇等の制度の充実」が32.8%ともっとも割合が高く、次いで「制度を利用しやすい職場づくり」が28.4%、「労働時間の柔軟な選択(フレックスタイム制など)」が25.9%となっている。「続けていくのは「やや+かなり難しい」」では「介護休業・介護休暇等の制度の充実」が44.2%ともっとも割合が高く、次いで「制度を利用しやすい職場づくり」が34.9%、「介護をしている従業員への経済的な支援」が27.9%となっている。

図表 2-26 就労継続見込み別・★効果的な勤め先からの支援(フルタイム勤務+パートタイム勤務)



3. 保険外の支援・サービスを中心とした地域資源の整備の検討

3.1 集計・分析の狙い

- ここでは、在宅限界点の向上に向けて必要となる支援・サービスを検討するために、特に「保険外の支援・サービス」に焦点を当てた集計を行っています。ここで把握された現状やニーズは、生活支援体制整備事業の推進のために活用していくことなどが考えられます。
- 具体的には、「現在利用している保険外の支援・サービス」と「在宅生活の継続に必要と感じる支援・サービス（現在利用しているが、さらなる充実が必要と感じる支援・サービスを含む）」について、要介護度別や世帯類型別のクロス集計を行い、現在の利用状況の把握と今後さらに充実が必要となる支援・サービスについての分析を行います。
- なお、調査の中では、総合事業に基づく支援・サービスは介護保険サービスに含めるとともに、「在宅生活の継続に必要と感じる支援・サービス」については、介護保険サービスか保険外の支援・サービスであるかは区別していません。

3.2 集計結果と着目すべきポイント

(1) 基礎集計

【着目すべきポイント】

- 「保険外の支援・サービスの利用状況」と、「在宅生活の継続に必要と感じる支援・サービス」について、集計分析をしています（図表 3-1、図表 3-2）。
- 例えば、「保険外の支援・サービスの利用状況」については、現状の把握のみでなく、保険外の支援・サービスの利用促進の取組に係るアウトプットとして、その「利用割合」を設定することで、経年的にその成果をモニタリングしていくことも可能になると考えられます。
- さらに、「在宅生活の継続に必要と感じる支援・サービス」からは、在宅限界点の向上という地域目標の達成に向けて、その地域において特に重要となる支援・サービスの種類を把握することができます。

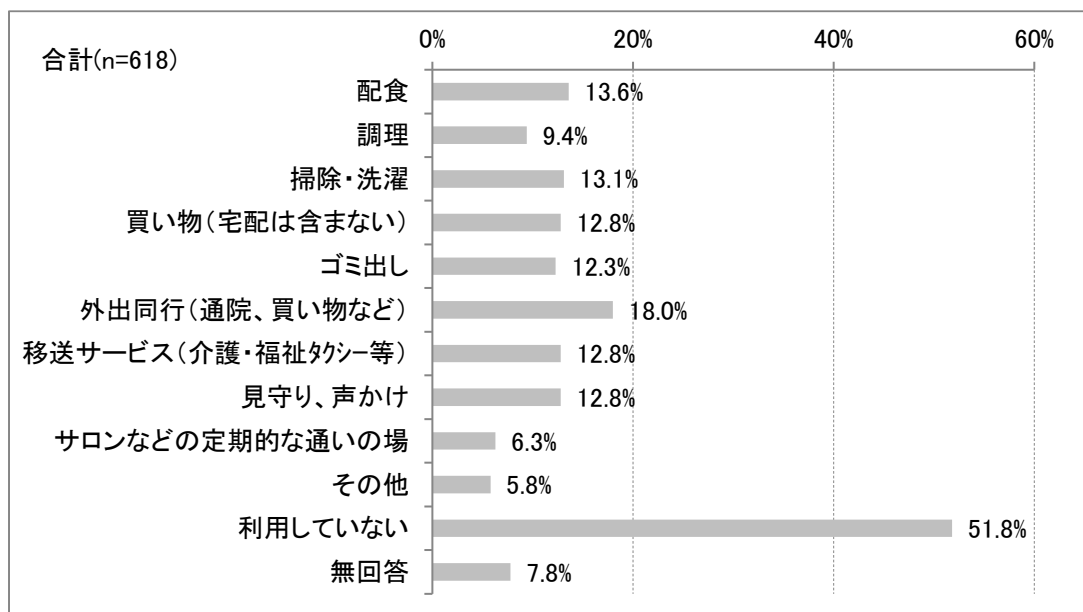
【留意事項】

- ここでの「在宅生活の継続に必要と感じる支援・サービス」とは、保険外の支援・サービスに限定されるものではありません。必要となる支援・サービスの整備方法については、必ずしも保険外のサービスに限定せず、幅広い視点から検討を進めることが重要です。

【★保険外の支援・サービスの利用状況】

「利用していない」の割合が最も高く 51.8%となっている。次いで、「外出同行（通院、買い物など）（18.0%）」、「配食（13.6%）」となっている。

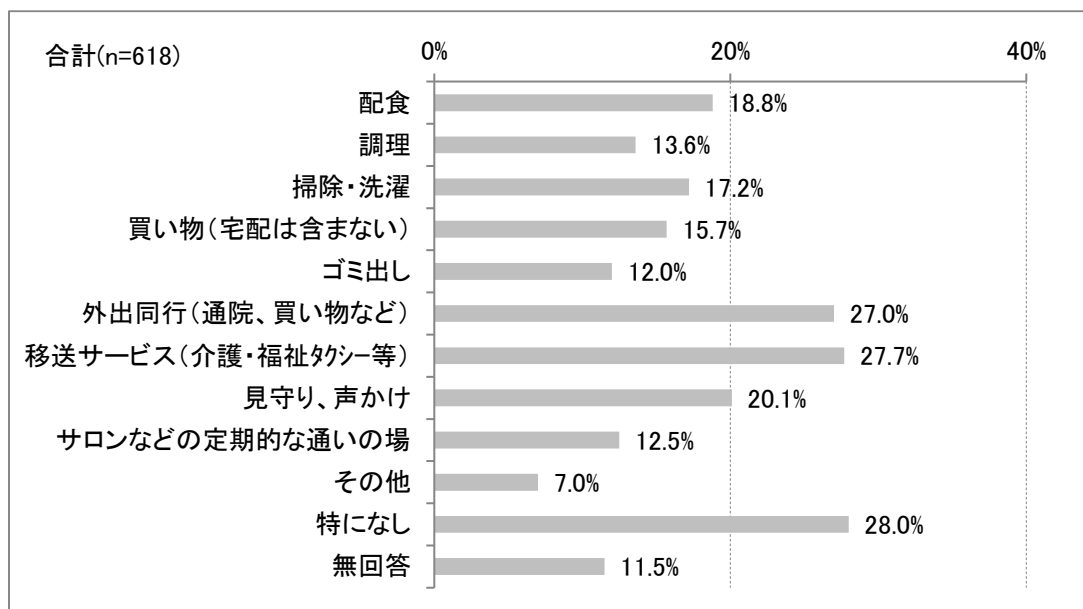
図表 3-1 ★保険外の支援・サービスの利用状況



【★在宅生活の継続に必要と感じる支援・サービス】

「特になし」の割合が最も高く 28.0%となっている。次いで、「移送サービス（介護・福祉タクシー等）（27.7%）」、「外出同行（通院、買い物など）（27.0%）」となっている。

図表 3-2 ★在宅生活の継続に必要と感じる支援・サービス



(2) 世帯類型別の、保険外の支援・サービスの利用状況と必要と感じる支援・サービス

【着目すべきポイント】

- 世帯類型別に「保険外の支援・サービスの利用状況」と、「在宅生活の継続に必要と感じる支援・サービス」について、集計分析をしています（図表 3-3、図表 3-4）。
- 「保険外の支援・サービスの利用割合」については、世帯類型別の割合をアウトプット指標としてモニタリングしていくも考えられます。
- また、「在宅生活の継続に必要と感じる支援・サービス」については、世帯類型別に異なる傾向がみられた場合は、世帯類型に応じたアプローチを検討していくことが重要になると考えられます。

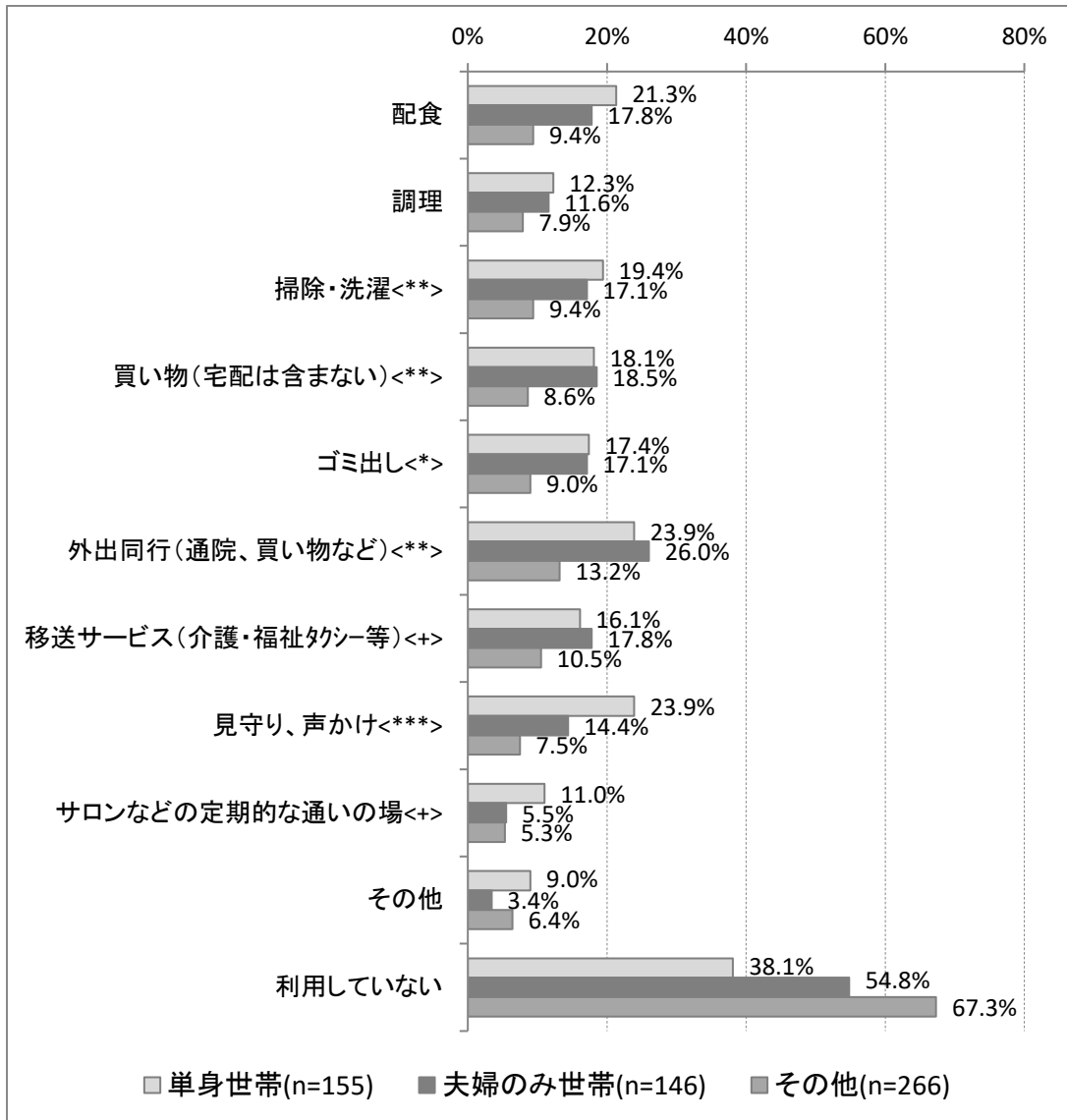
【留意事項】

- アンケート調査の中で「必要な支援・サービス」を回答して頂くと、「無くても大丈夫であるが、無いよりはあった方が良い」といった回答も含まれることが想定されることから、回答結果は実際のニーズよりもやや過大となる可能性があります。
- 「在宅生活の継続に必要と感じる支援・サービス」については、特に「複数の支援・サービスを比較して、より優先順位の高い支援・サービスを明らかにする」といった視点でみることが重要です。

【世帯類型別・★保険外の支援・サービスの利用状況】

保険外の支援・サービスの利用状況を世帯類型別にみると、「単身世帯」では「利用していない」が38.1%と最も割合が高く、次いで「外出同行（通院、買い物など）」、「見守り、声かけ」が23.9%、「配食」が21.3%となっている。「夫婦のみ世帯」では「利用していない」が54.8%と最も割合が高く、次いで「外出同行（通院、買い物など）」が26.0%、「買い物（宅配は含まない）」が18.5%となっている。「その他」では「利用していない」が67.3%と最も割合が高く、次いで「外出同行（通院、買い物など）」が13.2%、「移送サービス（介護・福祉タクシー等）」が10.5%となっている。

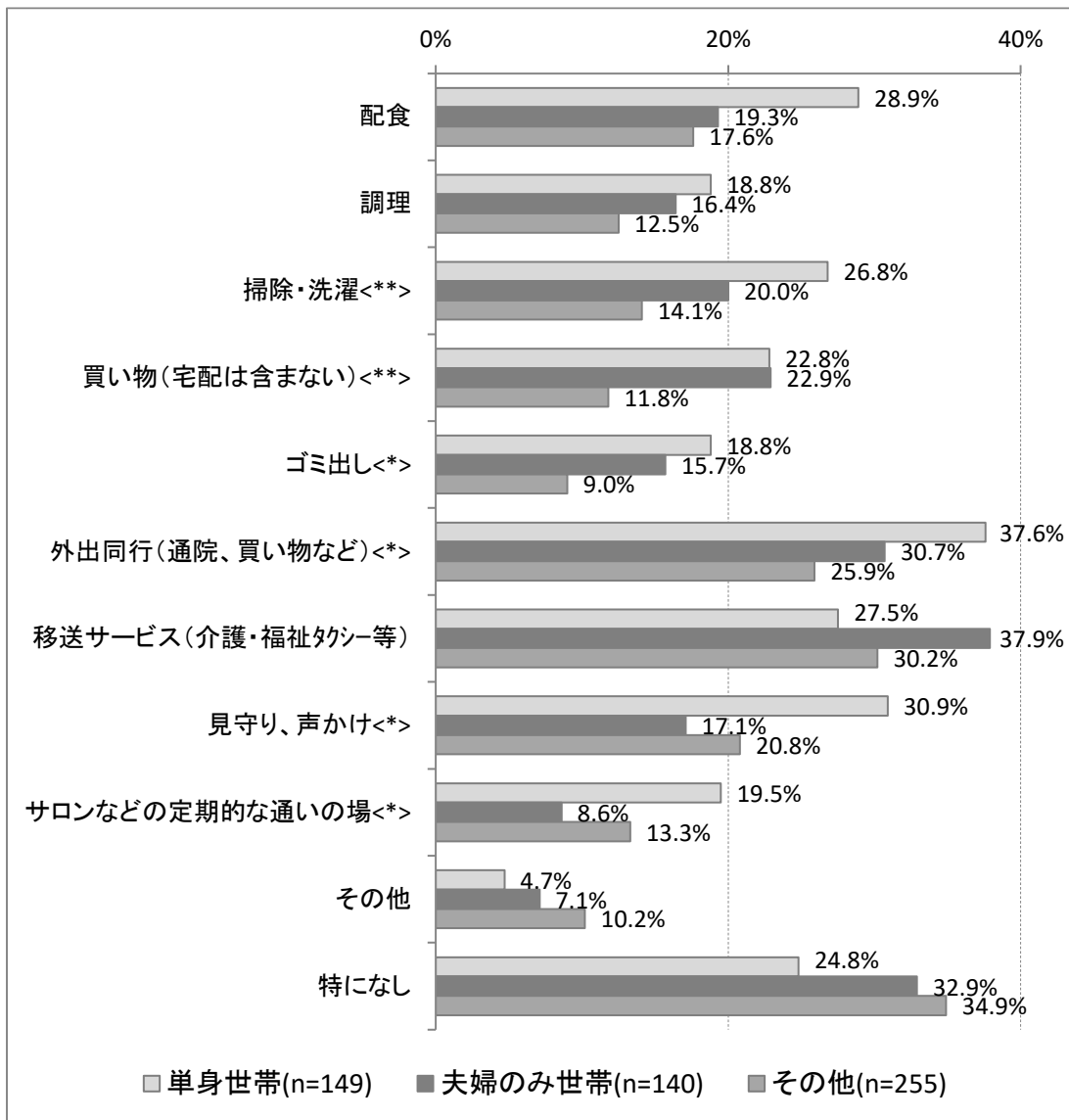
図表 3-3 世帯類型別・★保険外の支援・サービスの利用状況



【世帯類型別・★在宅生活の継続に必要と感じる支援・サービス】

保険外の支援・サービスの必要性を世帯類型別にみると、「単身世帯」では「外出同行（通院、買い物など）」が37.6%ともっとも割合が高く、次いで「見守り、声かけ」が30.9%、「配食」が28.9%となっている。「夫婦のみ世帯」では「移送サービス（介護・福祉タクシー等）」が37.9%ともっとも割合が高く、次いで「特になし」が32.9%、「外出同行（通院、買い物など）」が30.7%となっている。「その他」では「特になし」が34.9%ともっとも割合が高く、次いで「移送サービス（介護・福祉タクシー等）」が30.2%、「外出同行（通院、買い物など）」が25.9%となっている。

図表 3-4 世帯類型別・★在宅生活の継続に必要と感じる支援・サービス



(3) 「世帯類型」×「要介護度」×「保険外の支援・サービスの利用状況」

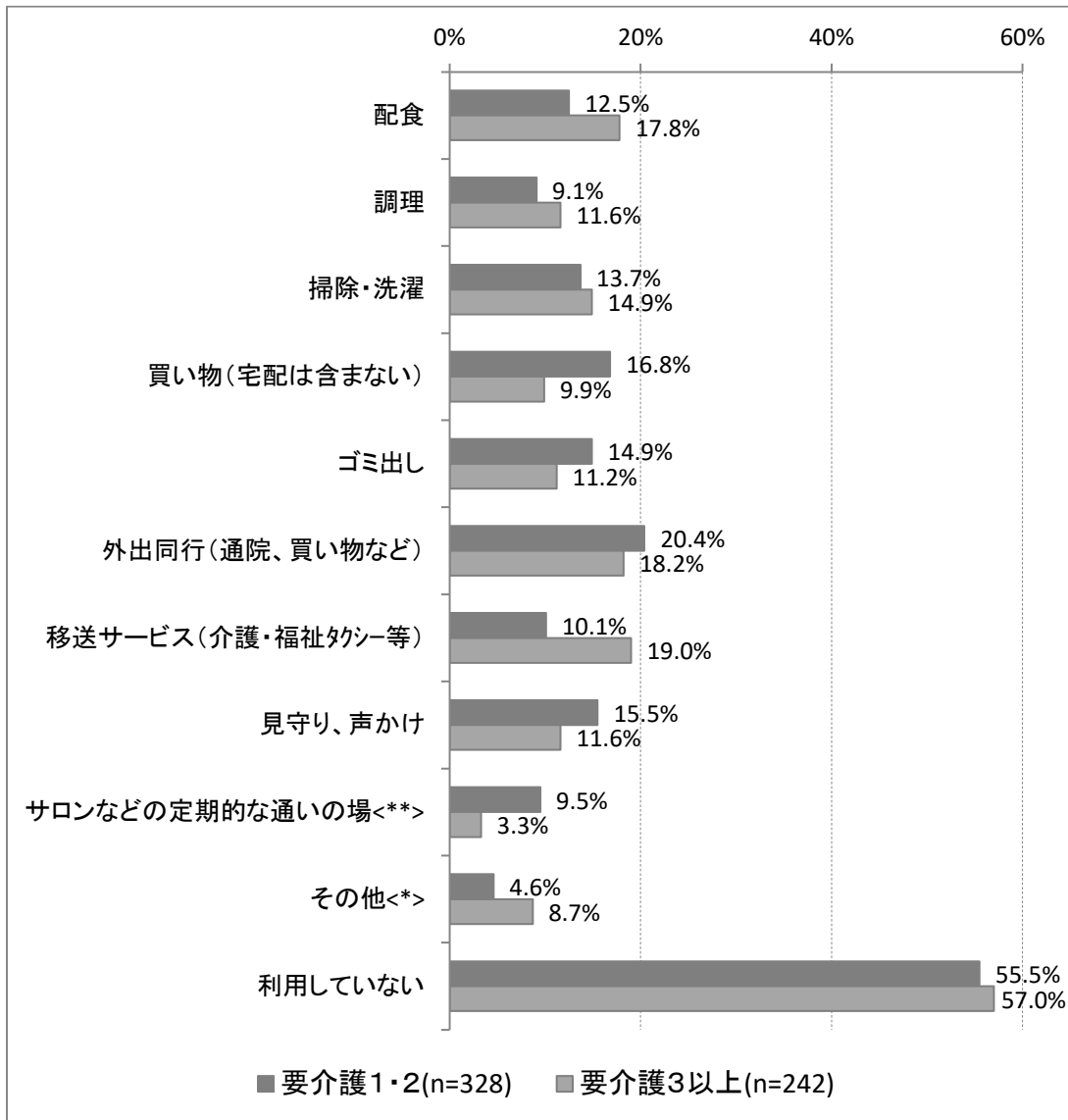
【着目すべきポイント】

- 世帯類型別・要介護度別に「保険外の支援・サービスの利用状況」について、集計分析をしています（図表 3-5～図表 3-8）。
- 利用割合の低い世帯類型であっても、要介護度の重度化に伴い利用割合が増加している支援・サービスがあることも考えられます。
- 介護保険サービスと同様、重度化に伴い、どのような支援・サービスの利用割合が増加しているかに着目することで、現在在宅で生活をする中重度の要介護者が、どのような支援・サービス利用を増加させることで在宅生活を維持しているかを把握することができます。

【要介護度別・★保険外の支援・サービスの利用状況】

保険外の支援・サービスの利用状況を二次判定結果別にみると、「要介護1・2」では「利用していない」が55.5%ともっとも割合が高く、次いで「外出同行（通院、買い物など）」が20.4%、「買い物（宅配は含まない）」が16.8%となっている。「要介護3以上」では「利用していない」が57.0%ともっとも割合が高く、次いで「移送サービス（介護・福祉タクシー等）」が19.0%、「外出同行（通院、買い物など）」が18.2%となっている。

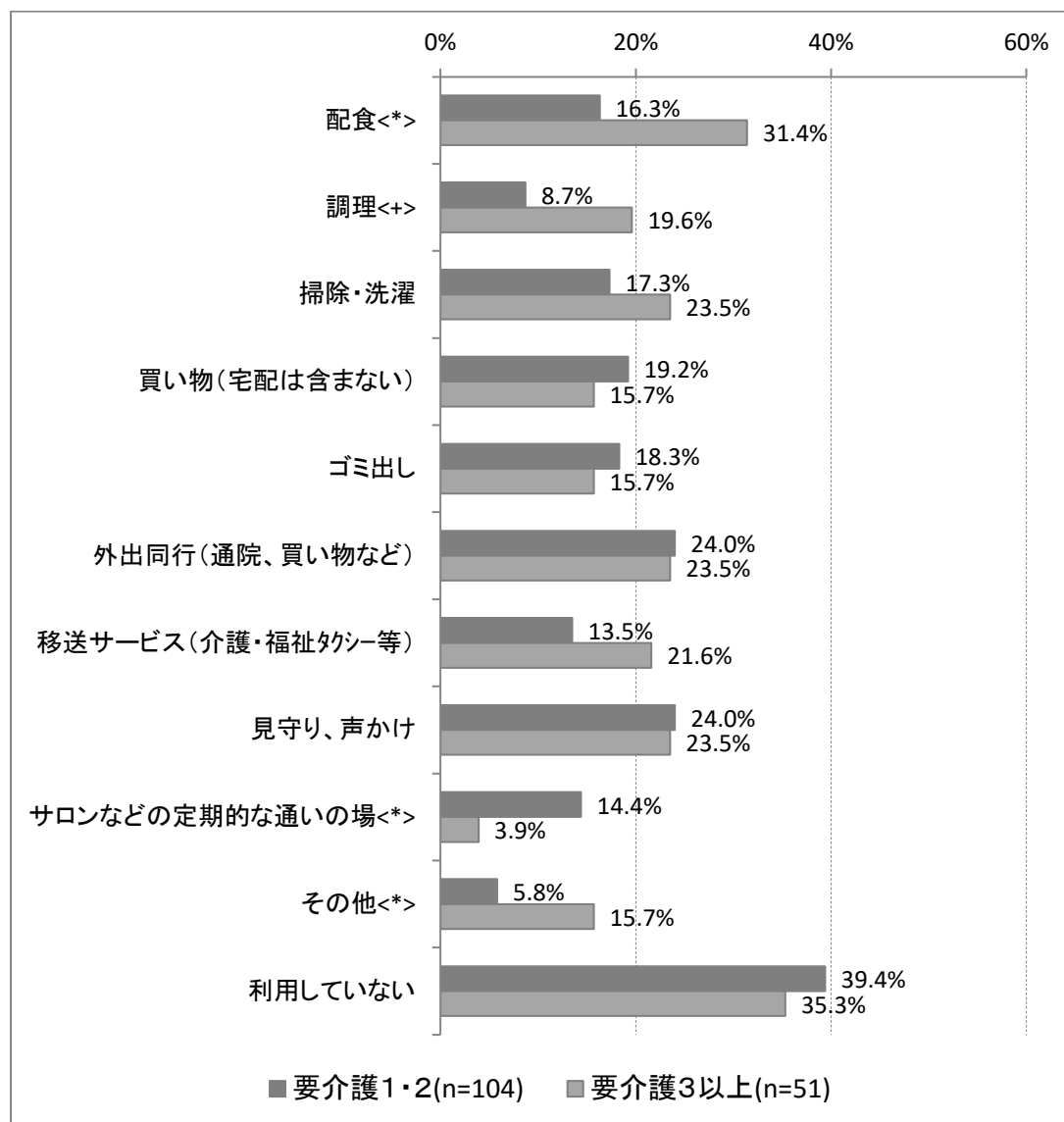
図表 3-5 要介護度別・★保険外の支援・サービスの利用状況



【要介護度別・★保険外の支援・サービスの利用状況(単身世帯)】

保険外の支援・サービスの利用状況を二次判定結果別にみると、「要介護1・2」では「利用していない」が39.4%ともっとも割合が高く、次いで「外出同行(通院、買い物など)」、「見守り、声かけ」が24.0%、「買い物(宅配は含まない)」が19.2%となっている。「要介護3以上」では「利用していない」が35.3%ともっとも割合が高く、次いで「配食」が31.4%、「掃除・洗濯」、「外出同行(通院、買い物など)」、「見守り、声かけ」が23.5%となっている。

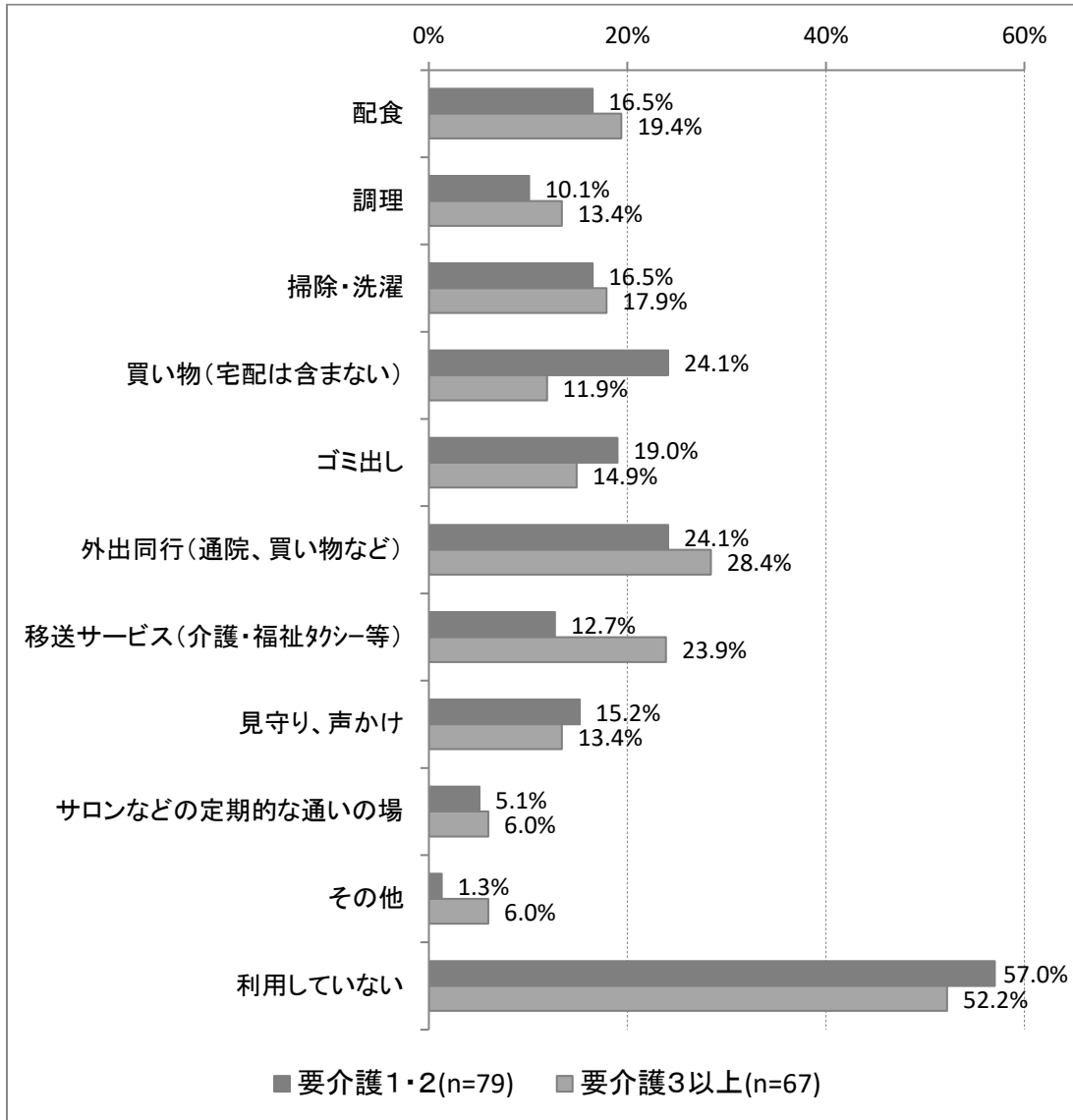
図表 3-6 要介護度別・★保険外の支援・サービスの利用状況(単身世帯)



【要介護度別・★保険外の支援・サービスの利用状況(夫婦のみ世帯)】

保険外の支援・サービスの利用状況を二次判定結果別にみると、「要介護1・2」では「利用していない」が57.0%ともっとも割合が高く、次いで「買い物(宅配は含まない)」、「外出同行(通院、買い物など)」が24.1%、「ゴミ出し」が19.0%となっている。「要介護3以上」では「利用していない」が52.2%ともっとも割合が高く、次いで「外出同行(通院、買い物など)」が28.4%、「移送サービス(介護・福祉タクシー等)」が23.9%となっている。

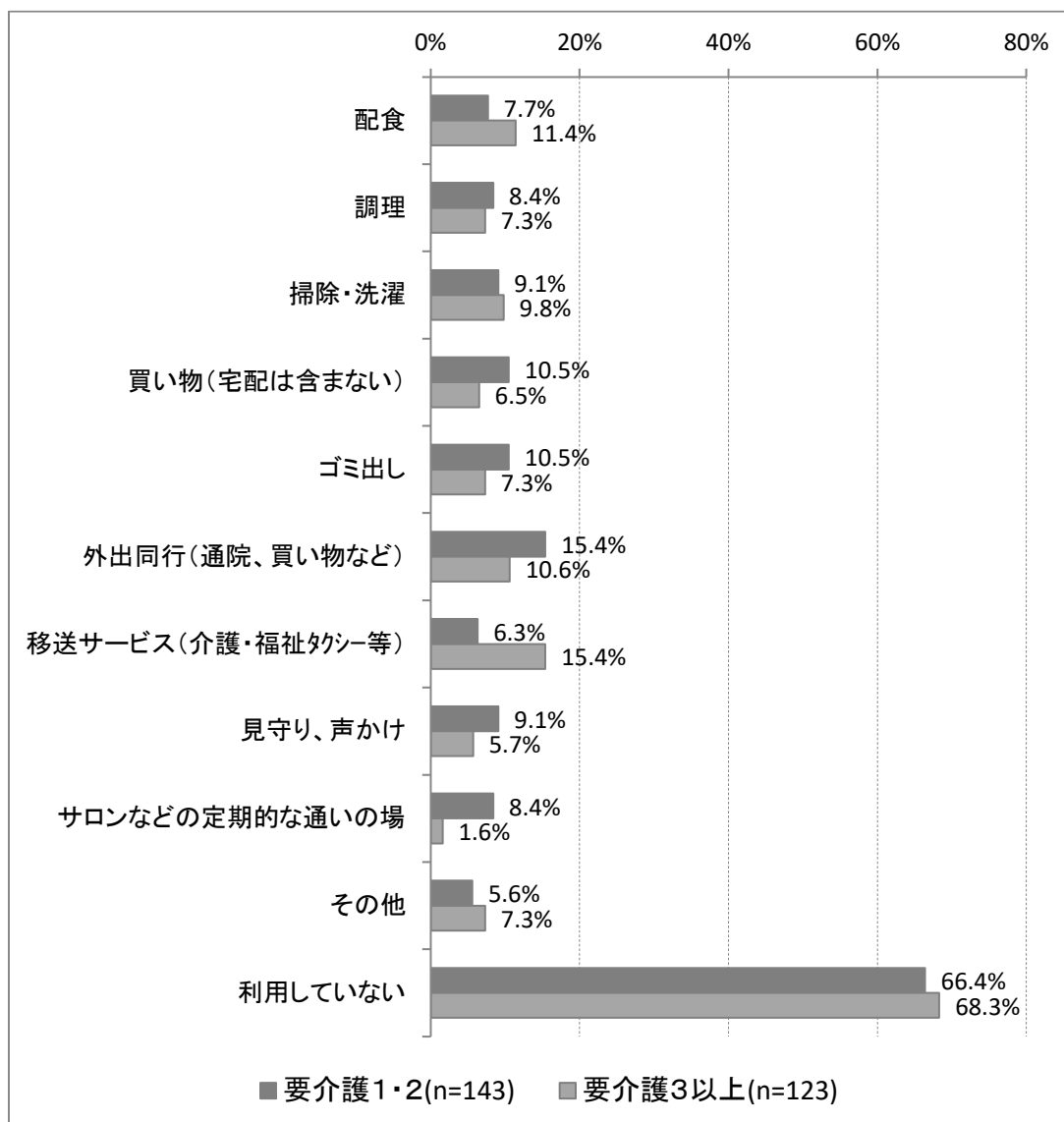
図表 3-7 要介護度別・★保険外の支援・サービスの利用状況(夫婦のみ世帯)



【要介護度別・★保険外の支援・サービスの利用状況(その他世帯)】

保険外の支援・サービスの利用状況を二次判定結果別にみると、「要介護1・2」では「利用していない」が66.4%ともっとも割合が高く、次いで「外出同行(通院、買い物など)」が15.4%、「買い物(宅配は含まない)」、「ゴミ出し」が10.5%となっている。「要介護3以上」では「利用していない」が68.3%ともっとも割合が高く、次いで「移送サービス(介護・福祉タクシー等)」が15.4%、「配食」が11.4%となっている。

図表 3-8 要介護度別・★保険外の支援・サービスの利用状況(その他世帯)



(4) 「世帯類型」×「要介護度」×「必要と感じる支援・サービス」

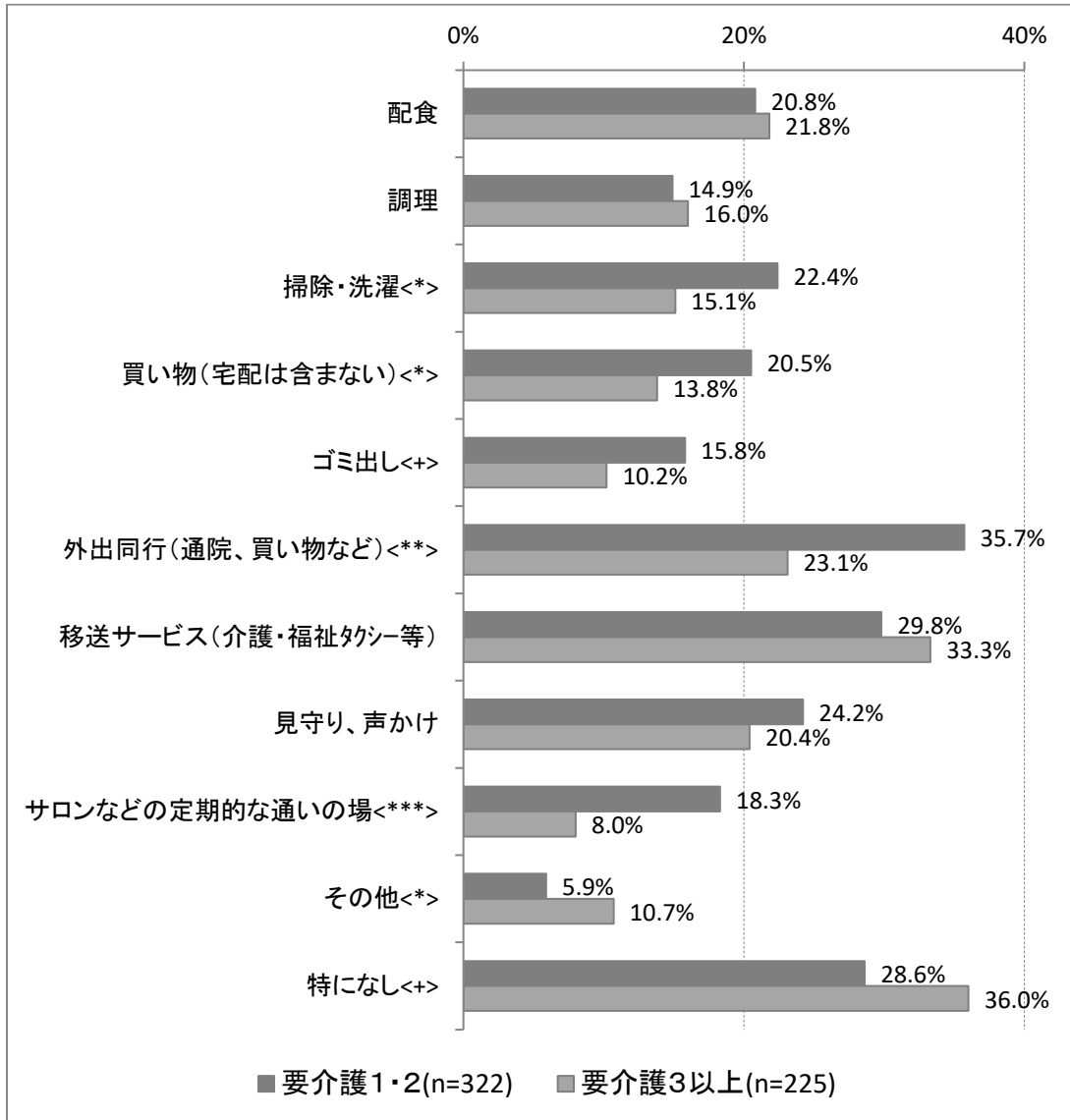
【着目すべきポイント】

- 世帯類型別・要介護度別に「必要と感じる支援・サービス」について、集計分析をしています（図表 3-9～図表 3-12）。
- 特に、各世帯類型の要介護度別のニーズに着目しながら、各地域の実情に応じた取組を推進していく必要があります。

【要介護度別・★在宅生活の継続に必要と感じる支援・サービス】

保険外の支援・サービスの必要性を二次判定結果別にみると、「要介護1・2」では「外出同行（通院、買い物など）」が35.7%と最も割合が高く、次いで「移送サービス（介護・福祉タクシー等）」が29.8%、「特になし」が28.6%となっている。「要介護3以上」では「特になし」が36.0%と最も割合が高く、次いで「移送サービス（介護・福祉タクシー等）」が33.3%、「外出同行（通院、買い物など）」が23.1%となっている。

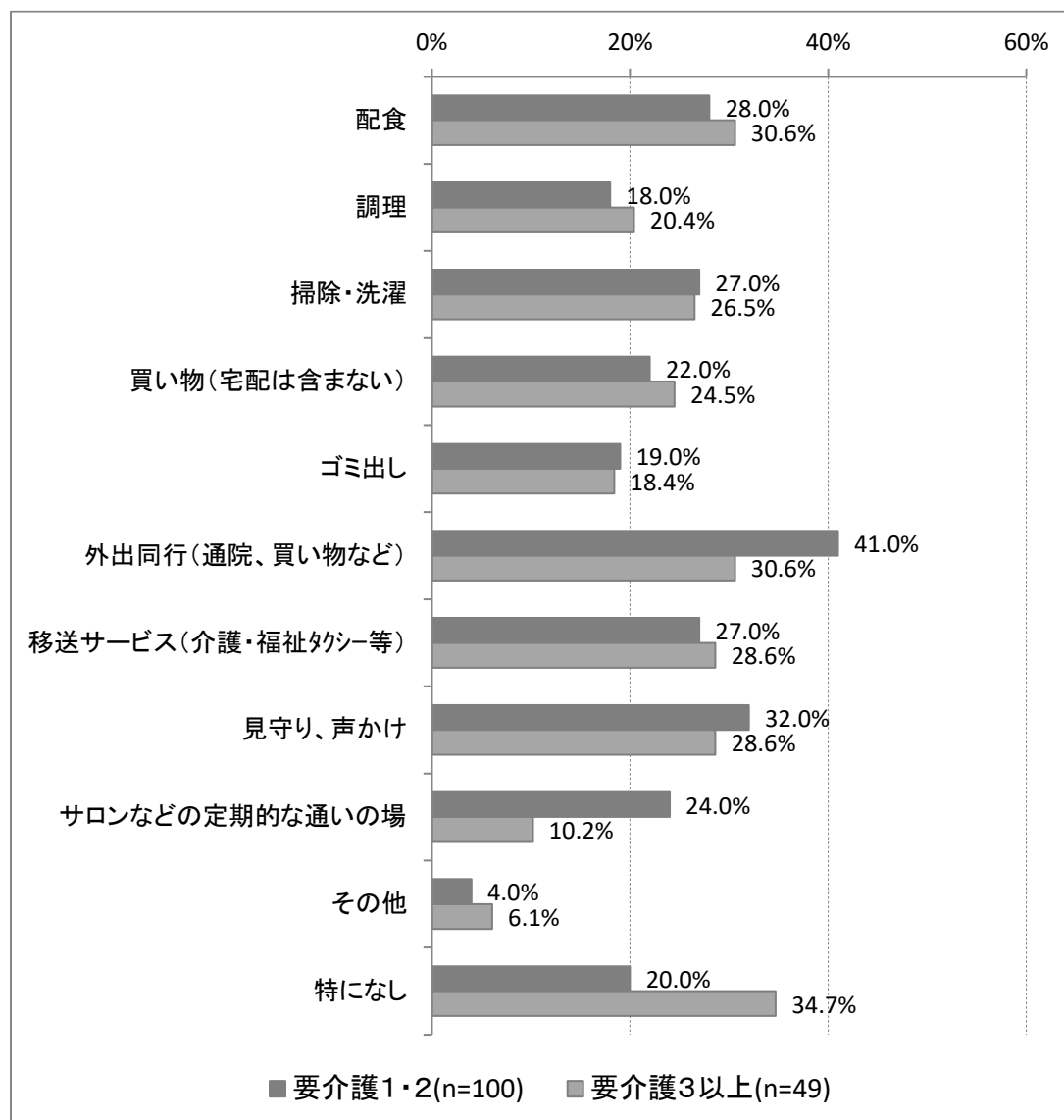
図表 3-9 要介護度別・★在宅生活の継続に必要と感じる支援・サービス



【要介護度別・★在宅生活の継続に必要と感じる支援・サービス(単身世帯)】

保険外の支援・サービスの必要性を二次判定結果別にみると、「要介護1・2」では「外出同行(通院、買い物など)」が41.0%と最も割合が高く、次いで「見守り、声かけ」が32.0%、「配食」が28.0%となっている。「要介護3以上」では「特になし」が34.7%と最も割合が高く、次いで「配食」、「外出同行(通院、買い物など)」が30.6%、「移送サービス(介護・福祉タクシー等)」、「見守り、声かけ」が28.6%となっている。

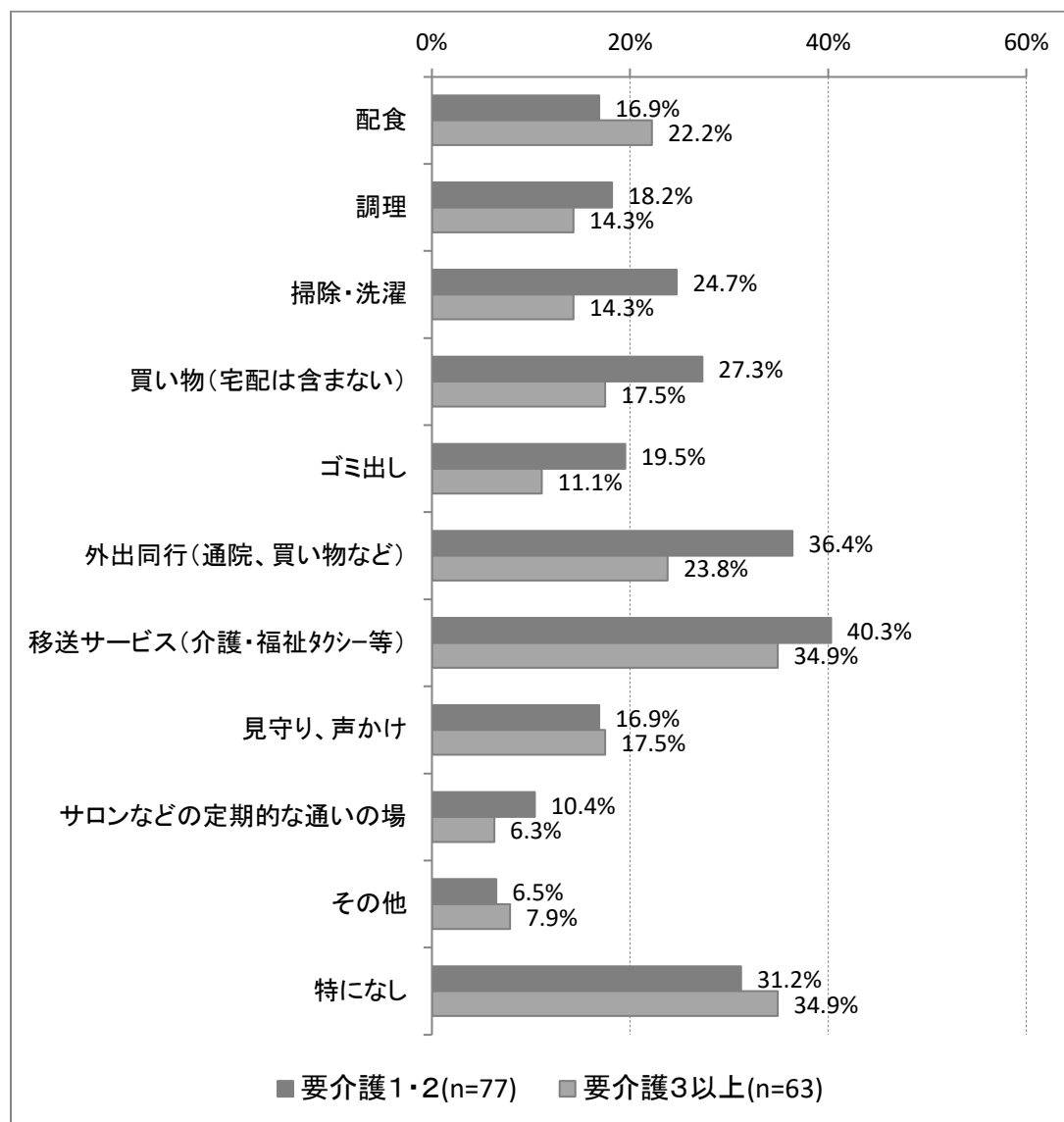
図表 3-10 要介護度別・★在宅生活の継続に必要と感じる支援・サービス(単身世帯)



【要介護度別・★在宅生活の継続に必要と感じる支援・サービス(夫婦のみ世帯)】

保険外の支援・サービスの必要性を二次判定結果別にみると、「要介護1・2」では「移送サービス(介護・福祉タクシー等)」が40.3%ともっとも割合が高く、次いで「外出同行(通院、買い物など)」が36.4%、「特になし」が31.2%となっている。「要介護3以上」では「移送サービス(介護・福祉タクシー等)」、「特になし」が34.9%ともっとも割合が高く、次いで「外出同行(通院、買い物など)」が23.8%、「配食」が22.2%となっている。

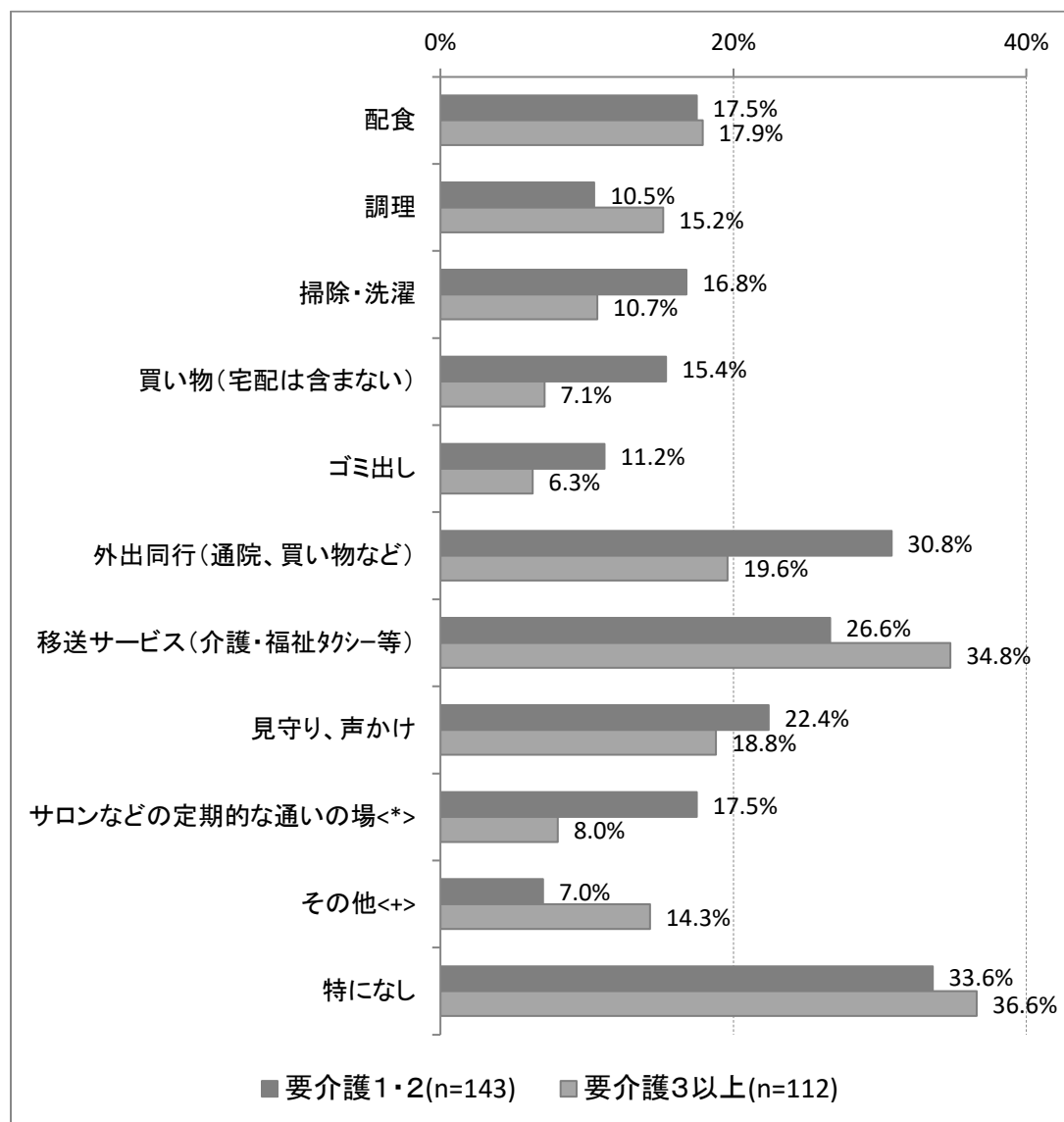
図表 3-11 要介護度別・★在宅生活の継続に必要と感じる支援・サービス(夫婦のみ世帯)



【要介護度別・★在宅生活の継続に必要と感じる支援・サービス(その他世帯)】

保険外の支援・サービスの必要性を二次判定結果別にみると、「要介護1・2」では「特になし」が33.6%ともっとも割合が高く、次いで「外出同行(通院、買い物など)」が30.8%、「移送サービス(介護・福祉タクシー等)」が26.6%となっている。「要介護3以上」では「特になし」が36.6%ともっとも割合が高く、次いで「移送サービス(介護・福祉タクシー等)」が34.8%、「外出同行(通院、買い物など)」が19.6%となっている。

図表 3-12 要介護度別・★在宅生活の継続に必要と感じる支援・サービス(その他世帯)



4. 将来の世帯類型の変化に応じた支援・サービスの提供体制の検討

4.1 集計・分析の狙い

- ここでは、在宅限界点の向上のための、将来の世帯類型の変化に応じた支援・サービスの提供体制の検討につなげるため、特に世帯類型別の「サービス利用の特徴」や「施設等検討の状況」に焦点を当てた集計を行っています。
- 具体的には、世帯類型別の「家族等による介護の頻度」、「サービス利用の組み合わせ」、「施設等検討の状況」などの分析を行います。
- 将来の高齢世帯の世帯類型の構成は、地域ごとに異なりますので、それぞれ地域の実情に応じた支援・サービスの検討につなげていくことが重要となります。

4.2 集計結果と着目すべきポイント

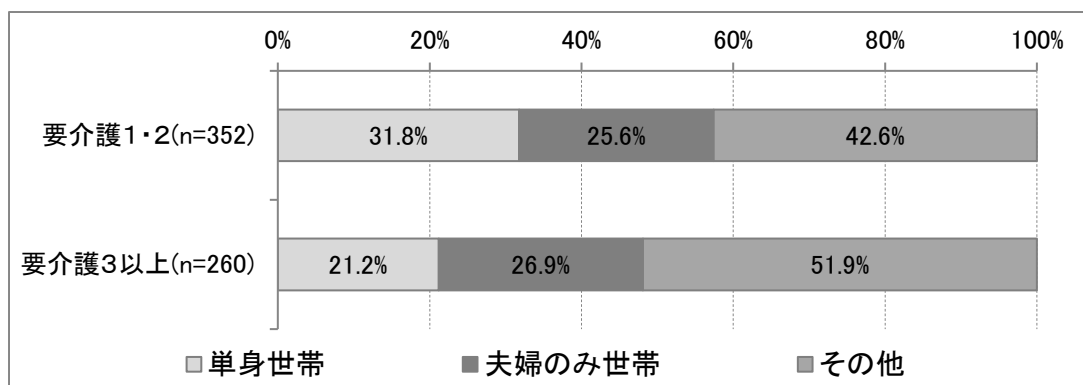
(1) 基礎集計

- 「要介護度別の世帯類型の割合」および「世帯類型別の要介護度の割合」を集計しています（図表4-1、図表4-2）。
- 要介護度の重度化に伴う、世帯類型の変化などを確認します。

【要介護度別・世帯類型】

世帯類型を二次判定結果別にみると、「要介護1・2」では「その他」が42.6%ともっとも割合が高く、次いで「単身世帯」が31.8%、「夫婦のみ世帯」が25.6%となっている。「要介護3以上」では「その他」が51.9%ともっとも割合が高く、次いで「夫婦のみ世帯」が26.9%、「単身世帯」が21.2%となっている。

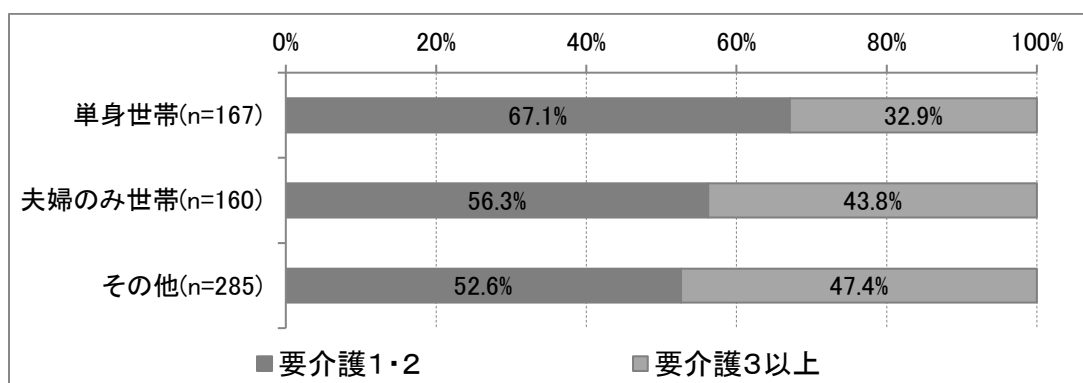
図表 4-1 要介護度別・世帯類型<*>



【世帯類型別・要介護度】

二次判定結果を世帯類型別にみると、「単身世帯」では「要介護1・2」が67.1%ともっとも割合が高く、次いで「要介護3以上」が32.9%となっている。「夫婦のみ世帯」では「要介護1・2」が56.3%ともっとも割合が高く、次いで「要介護3以上」が43.8%となっている。「その他」では「要介護1・2」が52.6%ともっとも割合が高く、次いで「要介護3以上」が47.4%となっている。

図表 4-2 世帯類型別・要介護度<*>



(2) 「要介護度別・世帯類型別」の「家族等による介護の頻度」

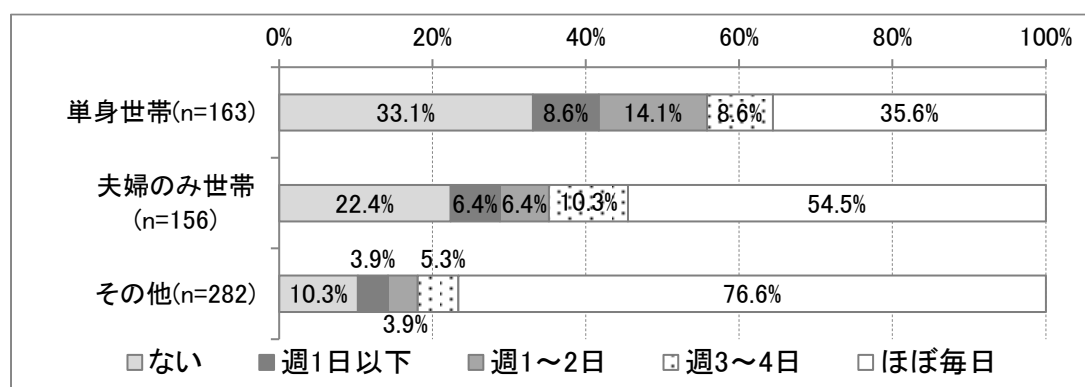
【着目すべきポイント】

- 図表 4-3 では、「世帯類型別」の「家族等による介護の頻度」の割合を集計しています。また、図表 4-4～図表 4-6 では、世帯類型別に「要介護度別」の「家族等による介護の頻度」を集計しています。
- 「単身世帯」については、同居の家族等はいなくても、近居の家族等による介護が行われているケースも多いと考えられます。中重度の単身世帯のうち、家族等の介護がない中で在宅生活を送っているケースがどの程度あるかなど、現状について確認します。

【世帯類型別・家族等による介護の頻度】

ご家族等の介護の頻度を世帯類型別にみると、「単身世帯」では「ほぼ毎日」が 35.6% ともっとも割合が高く、次いで「ない」が 33.1%、「週 1～2 日」が 14.1% となっている。「夫婦のみ世帯」では「ほぼ毎日」が 54.5% ともっとも割合が高く、次いで「ない」が 22.4%、「週 3～4 日」が 10.3% となっている。「その他」では「ほぼ毎日」が 76.6% ともっとも割合が高く、次いで「ない」が 10.3%、「週 3～4 日」が 5.3% となっている。

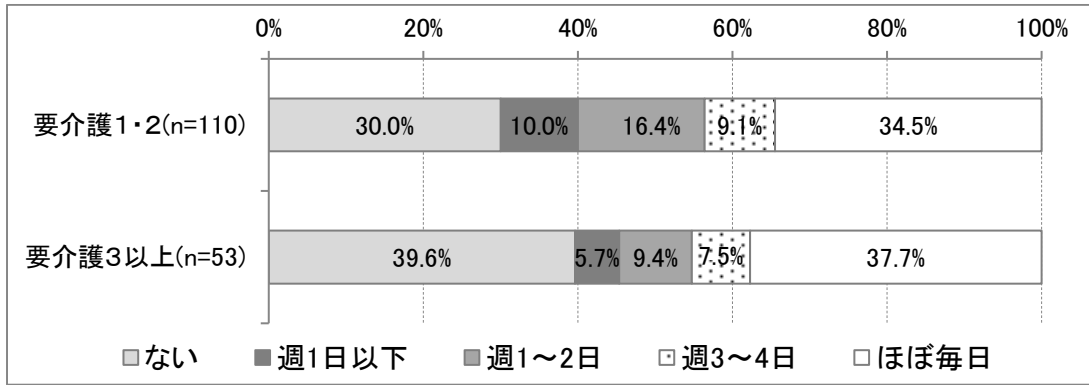
図表 4-3 世帯類型別・家族等による介護の頻度<***>



【要介護度別・家族等による介護の頻度(単身世帯)】

ご家族等の介護の頻度を二次判定結果別にみると、「要介護1・2」では「ほぼ毎日」が34.5%と最も割合が高く、次いで「ない」が30.0%、「週1～2日」が16.4%となっている。「要介護3以上」では「ない」が39.6%と最も割合が高く、次いで「ほぼ毎日」が37.7%、「週1～2日」が9.4%となっている。

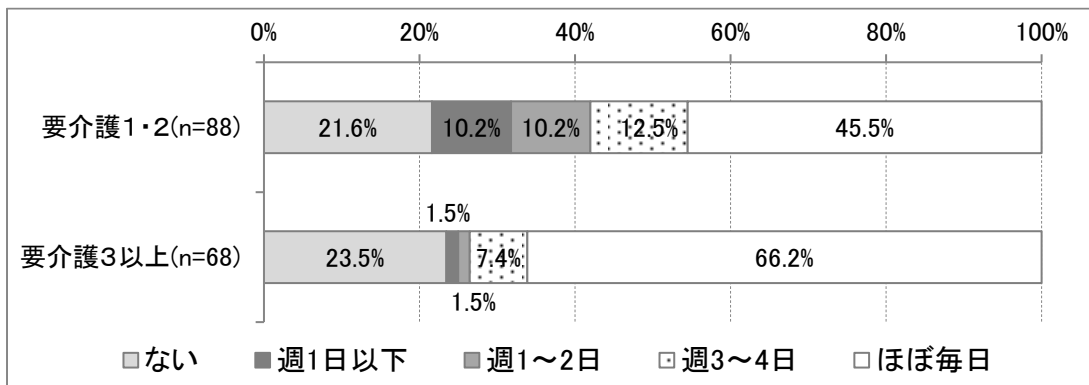
図表 4-4 要介護度別・家族等による介護の頻度 (単身世帯)



【要介護度別・家族等による介護の頻度(夫婦のみ世帯)】

ご家族等の介護の頻度を二次判定結果別にみると、「要介護1・2」では「ほぼ毎日」が45.5%と最も割合が高く、次いで「ない」が21.6%、「週3～4日」が12.5%となっている。「要介護3以上」では「ほぼ毎日」が66.2%と最も割合が高く、次いで「ない」が23.5%、「週3～4日」が7.4%となっている。

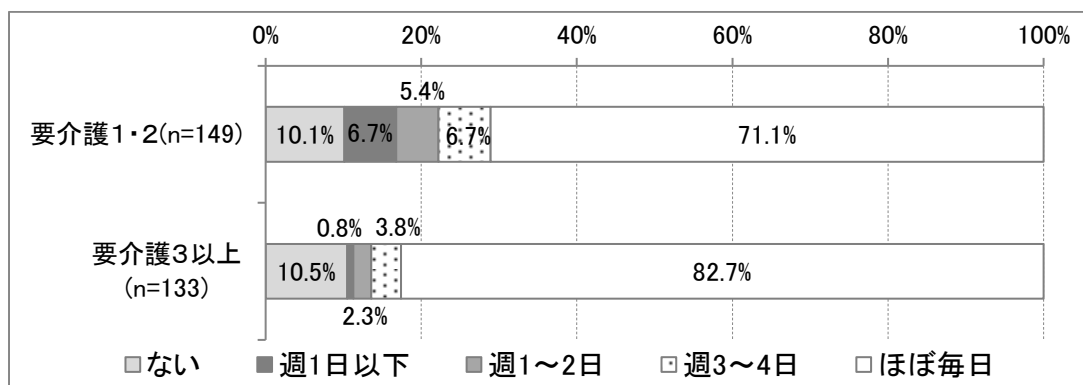
図表 4-5 要介護度別・家族等による介護の頻度 (夫婦のみ世帯) <*>



【要介護度別・家族等による介護の頻度(その他世帯)】

ご家族等の介護の頻度を二次判定結果別にみると、「要介護1・2」では「ほぼ毎日」が71.1%と最も割合が高く、次いで「ない」が10.1%、「週1日以下」、「週3～4日」が6.7%となっている。「要介護3以上」では「ほぼ毎日」が82.7%と最も割合が高く、次いで「ない」が10.5%、「週3～4日」が3.8%となっている。

図表 4-6 要介護度別・家族等による介護の頻度(その他世帯) <*>



(3) 「要介護度別・認知症自立度別」の「世帯類型別のサービス利用の組み合わせ」

【着目すべきポイント】

- 要介護度別・認知症自立度別の「世帯類型別のサービス利用の組み合わせ」について、集計分析をしています（図表 4-7～図表 4-12）。
- サービス利用の組み合わせは、「訪問系のみ」のサービス利用と、レスパイト機能をもつ「通所系」および「短期系」のみのサービス利用、さらにその2つを組み合わせた「訪問系を含むサービス利用」の3種類（未利用除く）に簡略化したものを使用しています。
- 重度化に伴い、どのようなサービス利用の組み合わせが増加しているかに着目することで、現在在宅で生活をする中重度の要介護者が、どのような組み合わせのサービス利用を増加させることで在宅生活を維持しているかを、世帯類型別に把握することができます。
- また、世帯類型別の要介護者の増加に伴い、どのような「サービス利用の組み合わせ」のニーズが大きくなると考えられるかを推測することも可能になります。
- 例えば、特に今後「要介護度が中重度の単身世帯」が増加すると見込まれる場合は、単身世帯の要介護者が要介護度の重度化に伴いどのようなサービス利用の組み合わせを増加させているかに着目し、推測することなどが考えられます。

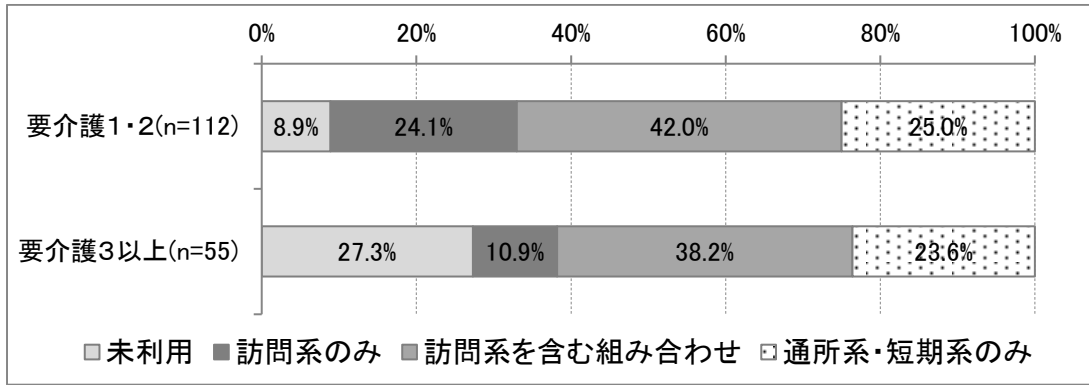
【留意事項】

- ただし、現在利用しているサービスが「地域目標を達成するためのサービス」であるとは限らない点には注意が必要です。

【要介護度別・サービス利用の組み合わせ(単身世帯)】

サービス利用の組み合わせを二次判定結果別にみると、「要介護1・2」では「訪問系を含む組み合わせ」が42.0%ともっとも割合が高く、次いで「通所系・短期系のみ」が25.0%、「訪問系のみ」が24.1%となっている。「要介護3以上」では「訪問系を含む組み合わせ」が38.2%ともっとも割合が高く、次いで「未利用」が27.3%、「通所系・短期系のみ」が23.6%となっている。

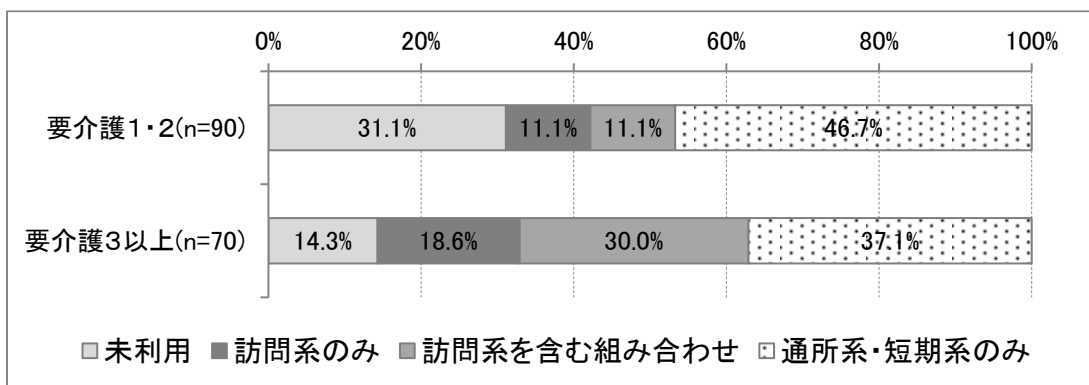
図表 4-7 要介護度別・サービス利用の組み合わせ (単身世帯) <**>



【要介護度別・サービス利用の組み合わせ(夫婦のみ世帯)】

サービス利用の組み合わせを二次判定結果別にみると、「要介護1・2」では「通所系・短期系のみ」が46.7%ともっとも割合が高く、次いで「未利用」が31.1%、「訪問系のみ」、「訪問系を含む組み合わせ」が11.1%となっている。「要介護3以上」では「通所系・短期系のみ」が37.1%ともっとも割合が高く、次いで「訪問系を含む組み合わせ」が30.0%、「訪問系のみ」が18.6%となっている。

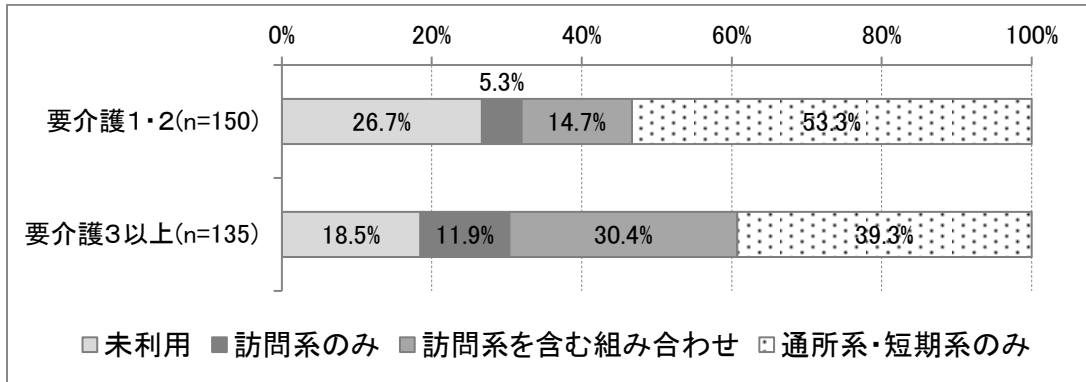
図表 4-8 要介護度別・サービス利用の組み合わせ (夫婦のみ世帯) <**>



【要介護度別・サービス利用の組み合わせ(その他世帯)】

サービス利用の組み合わせを二次判定結果別にみると、「要介護1・2」では「通所系・短期系のみ」が53.3%ともっとも割合が高く、次いで「未利用」が26.7%、「訪問系を含む組み合わせ」が14.7%となっている。「要介護3以上」では「通所系・短期系のみ」が39.3%ともっとも割合が高く、次いで「訪問系を含む組み合わせ」が30.4%、「未利用」が18.5%となっている。

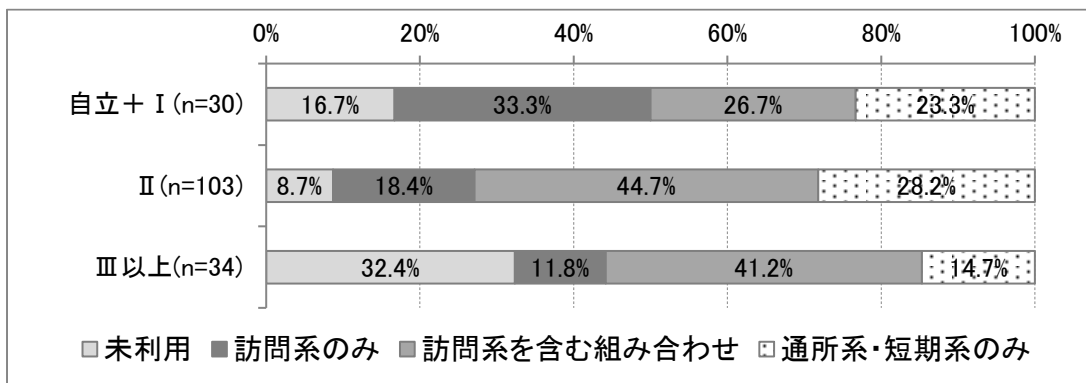
図表 4-9 要介護度別・サービス利用の組み合わせ(その他世帯) <***>



【認知症自立度別・サービス利用の組み合わせ(単身世帯)】

サービス利用の組み合わせを認知症高齢者自立度別にみると、「自立+Ⅰ」では「訪問系のみ」が33.3%ともっとも割合が高く、次いで「訪問系を含む組み合わせ」が26.7%、「通所系・短期系のみ」が23.3%となっている。「Ⅱ」では「訪問系を含む組み合わせ」が44.7%ともっとも割合が高く、次いで「通所系・短期系のみ」が28.2%、「訪問系のみ」が18.4%となっている。「Ⅲ以上」では「訪問系を含む組み合わせ」が41.2%ともっとも割合が高く、次いで「未利用」が32.4%、「通所系・短期系のみ」が14.7%となっている。

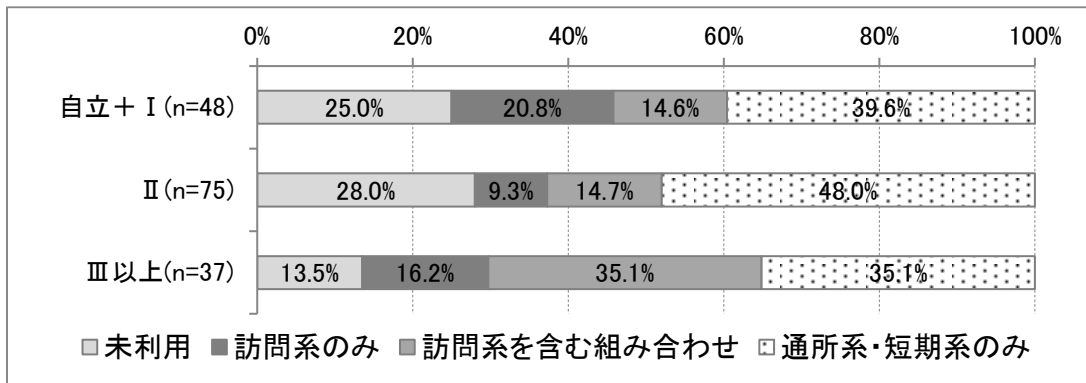
図表 4-10 認知症自立度別・サービス利用の組み合わせ(単身世帯) <**>



【認知症自立度別・サービス利用の組み合わせ(夫婦のみ世帯)】

サービス利用の組み合わせを認知症高齢者自立度別にみると、「自立+Ⅰ」では「通所系・短期系のみ」が39.6%ともっとも割合が高く、次いで「未利用」が25.0%、「訪問系のみ」が20.8%となっている。「Ⅱ」では「通所系・短期系のみ」が48.0%ともっとも割合が高く、次いで「未利用」が28.0%、「訪問系を含む組み合わせ」が14.7%となっている。「Ⅲ以上」では「訪問系を含む組み合わせ」、「通所系・短期系のみ」が35.1%ともっとも割合が高く、次いで「訪問系のみ」が16.2%、「未利用」が13.5%となっている。

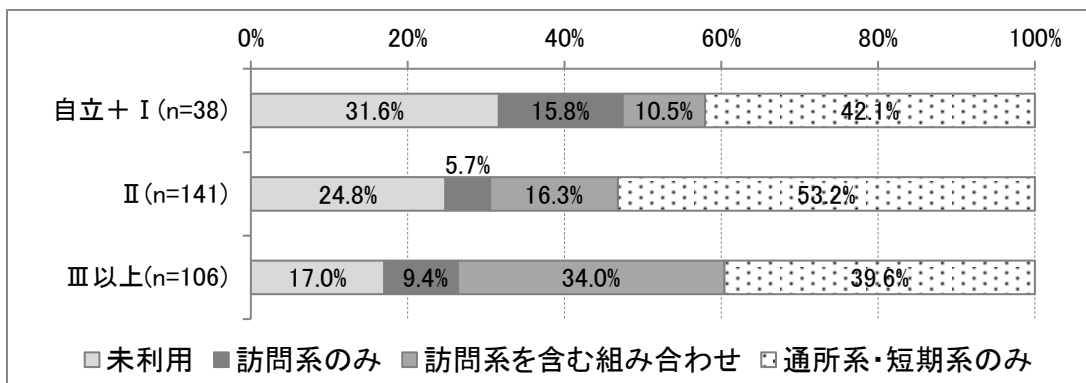
図表 4-11 認知症自立度別・サービス利用の組み合わせ(夫婦のみ世帯) <+>



【認知症自立度別・サービス利用の組み合わせ(その他世帯)】

サービス利用の組み合わせを認知症高齢者自立度別にみると、「自立+Ⅰ」では「通所系・短期系のみ」が42.1%ともっとも割合が高く、次いで「未利用」が31.6%、「訪問系のみ」が15.8%となっている。「Ⅱ」では「通所系・短期系のみ」が53.2%ともっとも割合が高く、次いで「未利用」が24.8%、「訪問系を含む組み合わせ」が16.3%となっている。「Ⅲ以上」では「通所系・短期系のみ」が39.6%ともっとも割合が高く、次いで「訪問系を含む組み合わせ」が34.0%、「未利用」が17.0%となっている。

図表 4-12 認知症自立度別・サービス利用の組み合わせ(その他世帯) <*>



(4) 「要介護度別・認知症自立度別」の「世帯類型別の施設等検討の状況」

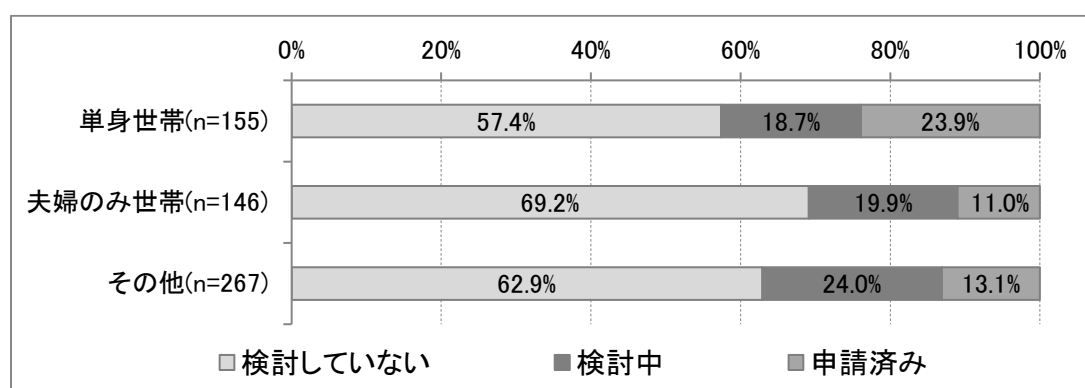
【着目すべきポイント】

- ここでは、「要介護度別・認知症自立度別」の「世帯類型別の施設等検討の状況」について、集計分析をしています（図表 4-13～図表 4-19）。
- 「施設等検討の状況」について「入所・入居は検討していない」の割合を高めることは、在宅介護実態調査で想定する「アウトカム」の1つです。
- ここでは「世帯類型」ごとの特徴を集計分析することで、地域目標を達成するためのサービス整備方針の検討につなげることなどを想定しています。

【世帯類型別・施設等検討の状況(全要介護度)】

施設等の検討状況を世帯類型別にみると、「単身世帯」では「検討していない」が57.4%ともっとも割合が高く、次いで「申請済み」が23.9%、「検討中」が18.7%となっている。「夫婦のみ世帯」では「検討していない」が69.2%ともっとも割合が高く、次いで「検討中」が19.9%、「申請済み」が11.0%となっている。「その他」では「検討していない」が62.9%ともっとも割合が高く、次いで「検討中」が24.0%、「申請済み」が13.1%となっている。

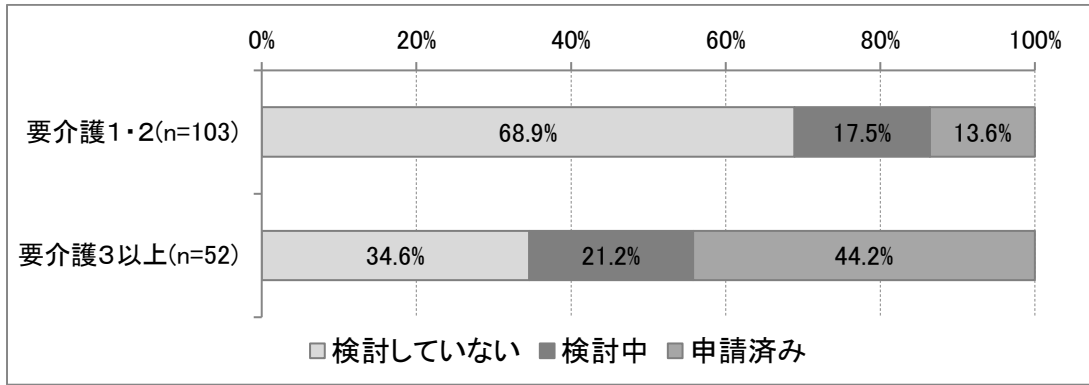
図表 4-13 世帯類型別・施設等検討の状況（全要介護度）〈*〉



【要介護度別・施設等検討の状況(単身世帯)】

施設等の検討状況を二次判定結果別にみると、「要介護1・2」では「検討していない」が68.9%ともっとも割合が高く、次いで「検討中」が17.5%、「申請済み」が13.6%となっている。「要介護3以上」では「申請済み」が44.2%ともっとも割合が高く、次いで「検討していない」が34.6%、「検討中」が21.2%となっている。

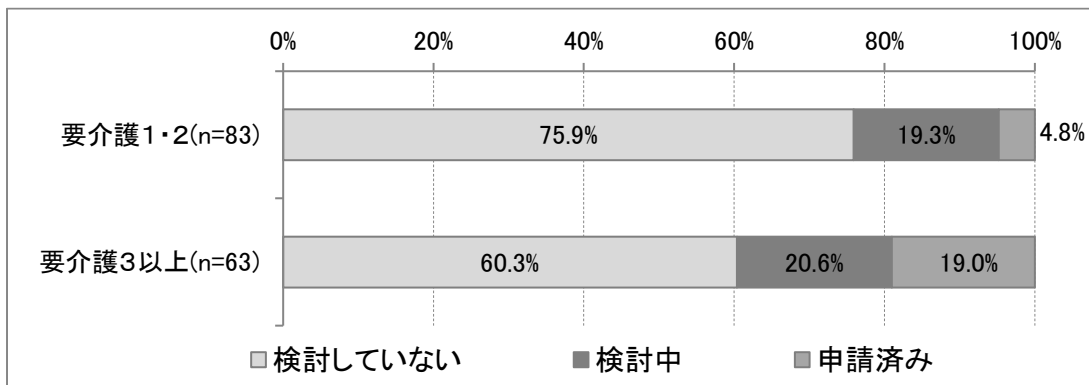
図表 4-14 要介護度別・施設等検討の状況 (単身世帯) <***>



【要介護度別・施設等検討の状況(夫婦のみ世帯)】

施設等の検討状況を二次判定結果別にみると、「要介護1・2」では「検討していない」が75.9%ともっとも割合が高く、次いで「検討中」が19.3%、「申請済み」が4.8%となっている。「要介護3以上」では「検討していない」が60.3%ともっとも割合が高く、次いで「検討中」が20.6%、「申請済み」が19.0%となっている。

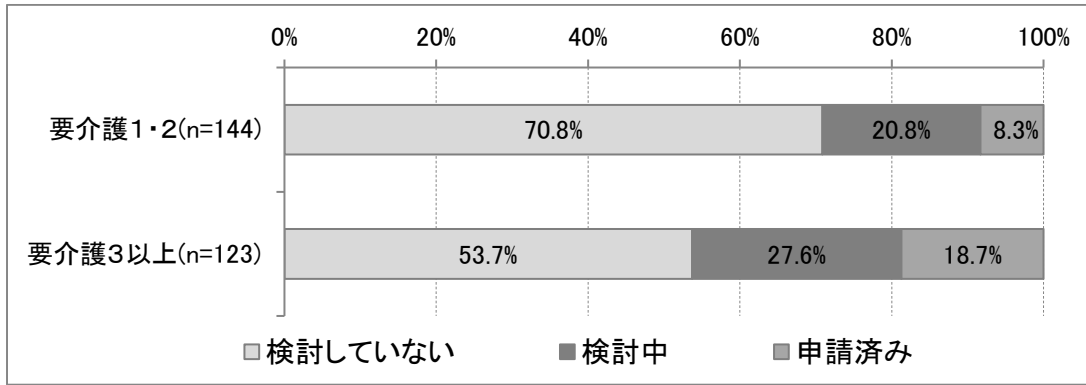
図表 4-15 要介護度別・施設等検討の状況 (夫婦のみ世帯) <*>



【要介護度別・施設等検討の状況(その他世帯)】

施設等の検討状況を二次判定結果別にみると、「要介護1・2」では「検討していない」が70.8%ともっとも割合が高く、次いで「検討中」が20.8%、「申請済み」が8.3%となっている。「要介護3以上」では「検討していない」が53.7%ともっとも割合が高く、次いで「検討中」が27.6%、「申請済み」が18.7%となっている。

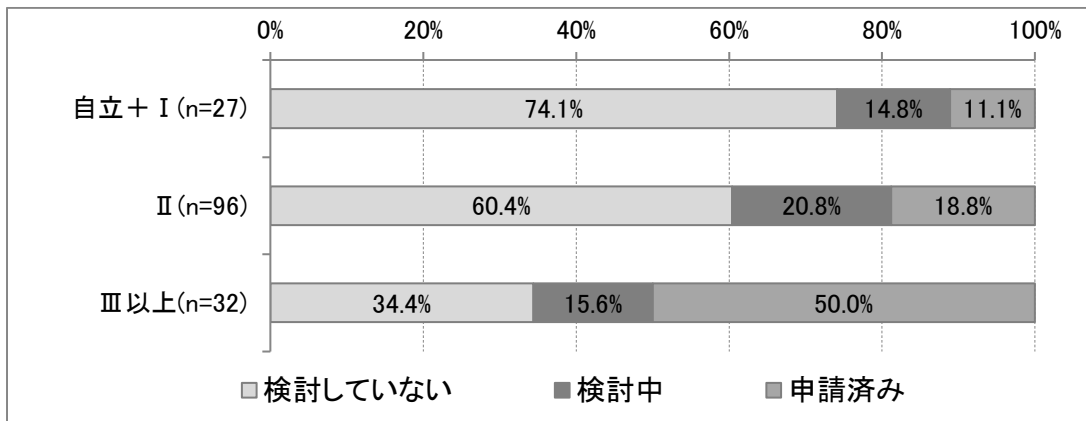
図表 4-16 要介護度別・施設等検討の状況 (その他世帯) <**>



【認知症自立度別・施設等検討の状況(単身世帯)】

施設等の検討状況を認知症高齢者自立度別にみると、「自立+Ⅰ」では「検討していない」が74.1%ともっとも割合が高く、次いで「検討中」が14.8%、「申請済み」が11.1%となっている。「Ⅱ」では「検討していない」が60.4%ともっとも割合が高く、次いで「検討中」が20.8%、「申請済み」が18.8%となっている。「Ⅲ以上」では「申請済み」が50.0%ともっとも割合が高く、次いで「検討していない」が34.4%、「検討中」が15.6%となっている。

図表 4-17 認知症自立度別・施設等検討の状況 (単身世帯) <**>

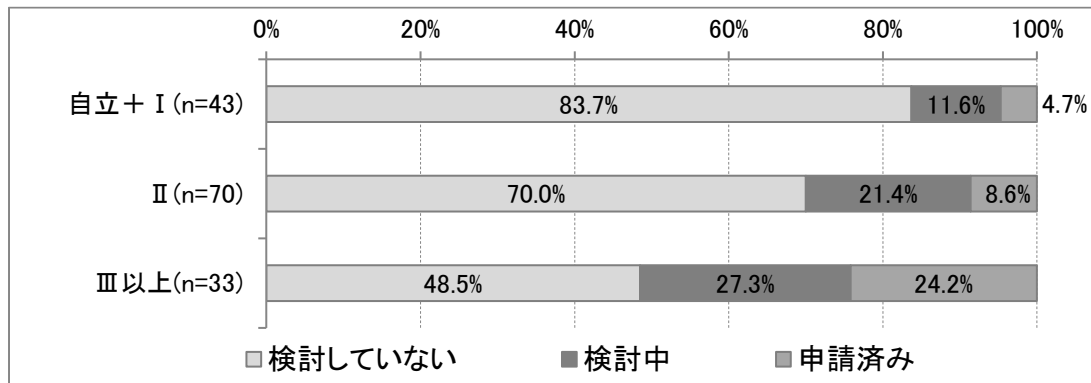


【認知症自立度別・施設等検討の状況(夫婦のみ世帯)】

施設等の検討状況を認知症高齢者自立度別にみると、「自立+ I」では「検討していない」が83.7%ともっとも割合が高く、次いで「検討中」が11.6%、「申請済み」が4.7%となっている。

「II」では「検討していない」が70.0%ともっとも割合が高く、次いで「検討中」が21.4%、「申請済み」が8.6%となっている。「III以上」では「検討していない」が48.5%ともっとも割合が高く、次いで「検討中」が27.3%、「申請済み」が24.2%となっている。

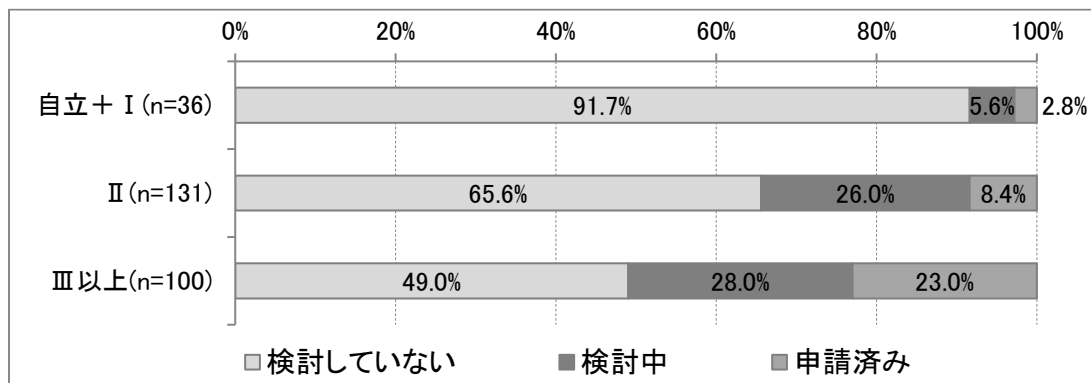
図表 4-18 認知症自立度別・施設等検討の状況(夫婦のみ世帯) <*>



【認知症自立度別・施設等検討の状況(その他の世帯)】

施設等の検討状況を認知症高齢者自立度別にみると、「自立+ I」では「検討していない」が91.7%ともっとも割合が高く、次いで「検討中」が5.6%、「申請済み」が2.8%となっている。「II」では「検討していない」が65.6%ともっとも割合が高く、次いで「検討中」が26.0%、「申請済み」が8.4%となっている。「III以上」では「検討していない」が49.0%ともっとも割合が高く、次いで「検討中」が28.0%、「申請済み」が23.0%となっている。

図表 4-19 認知症自立度別・施設等検討の状況(その他の世帯) <***>



5. 医療ニーズの高い在宅療養者を支える支援・サービスの提供体制の検討

5.1 集計・分析の狙い

- ここでは、医療ニーズの高い在宅療養者を支える支援・サービスの検討につなげるための集計を行います。
- 具体的には、世帯類型別・要介護度別の「主な介護者が行っている介護」や「訪問診療の利用の有無」、「訪問診療の利用の有無別のサービス利用の組み合わせ」などの分析を行います。

5.2 集計結果と着目すべきポイント

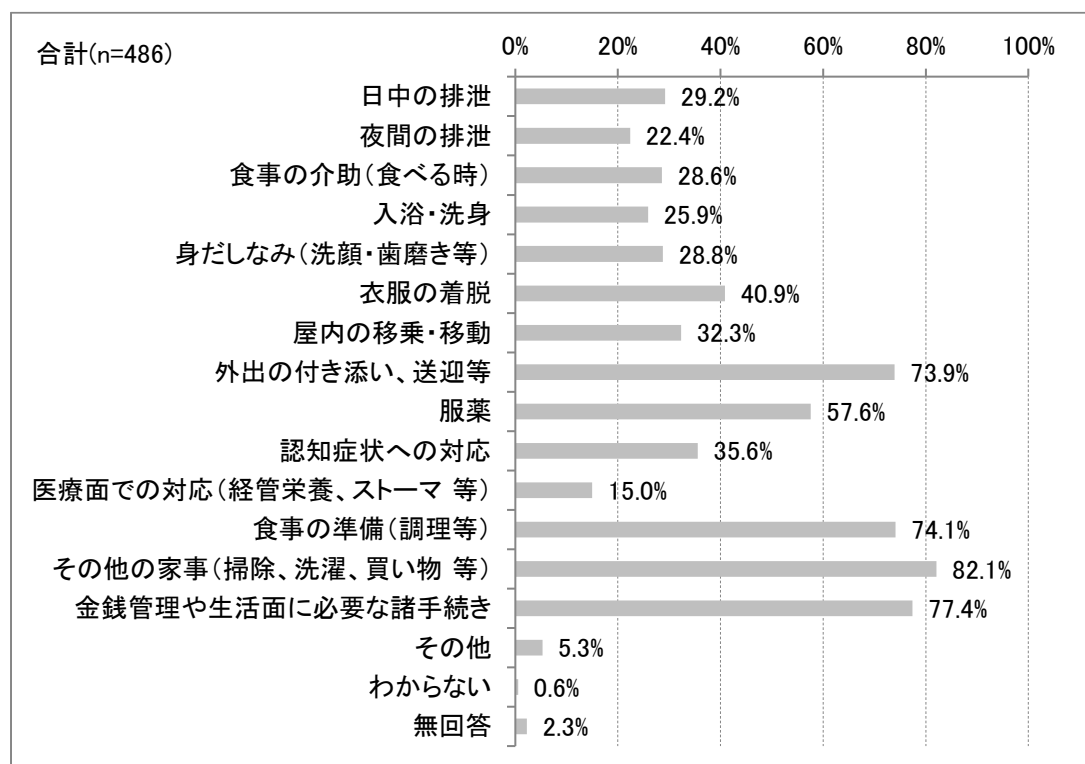
(1) 基礎集計

- 「主な介護者が行っている介護」について、要介護度別・世帯類型別の集計を行っています（図表 5-1～図表 5-3）。
- ここでは、特に「医療面での対応（経管栄養、ストーマ等）」に着目し、家族等の主な介護者が「医療面での対応」を行っている割合を把握することができます。

【★主な介護者が行っている介護】

「その他の家事（掃除、洗濯、買い物等）」の割合が最も高く 82.1%となっている。次いで、「金銭管理や生活面に必要な諸手続き（77.4%）」、「食事の準備（調理等）（74.1%）」となっている。

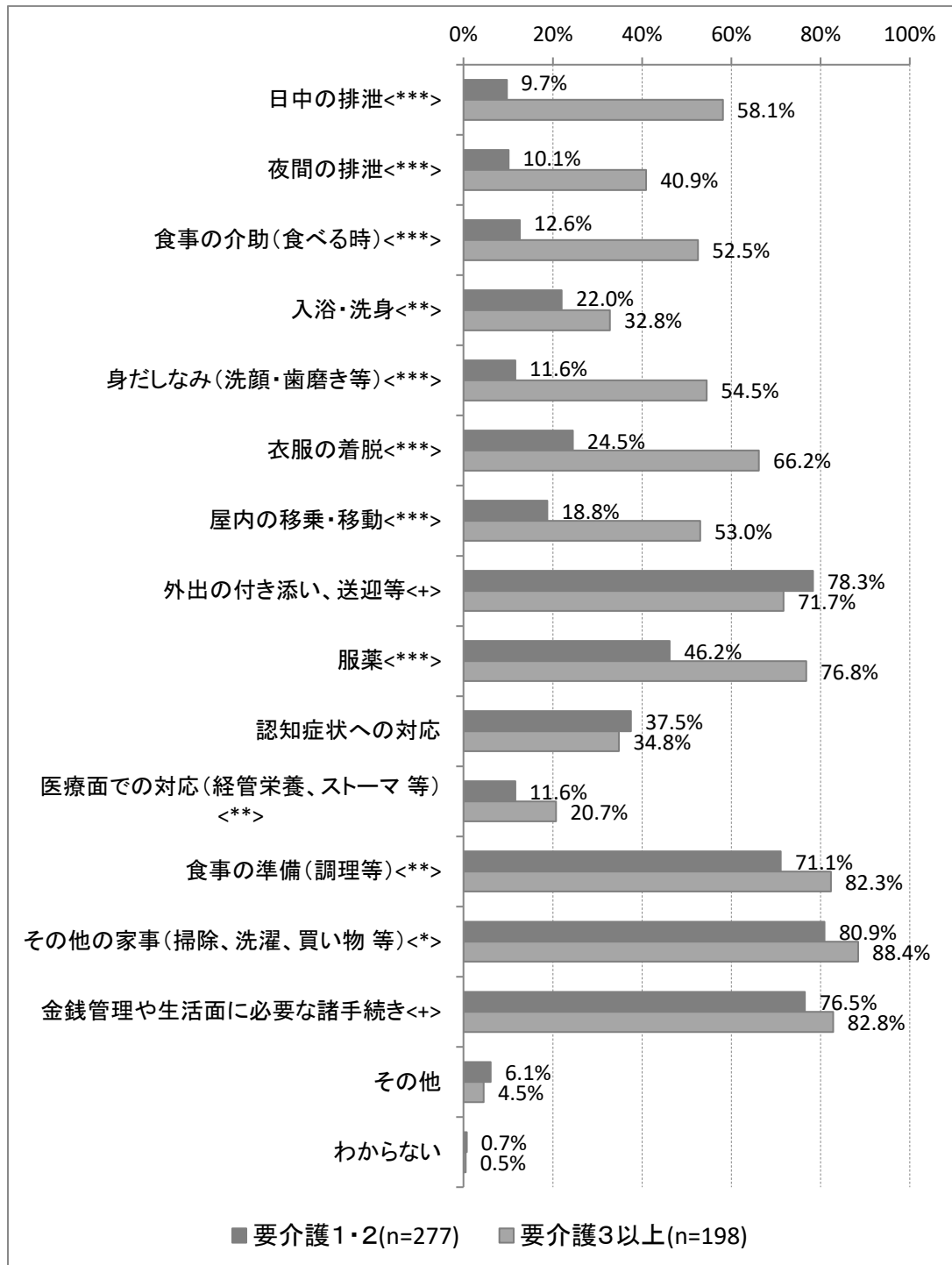
図表 5-1 ★主な介護者が行っている介護



【要介護度別・★主な介護者が行っている介護】

介護者が行っている介護を二次判定結果別にみると、「要介護1・2」では「その他の家事（掃除、洗濯、買い物等）」が80.9%ともっとも割合が高く、次いで「外出の付き添い、送迎等」が78.3%、「金銭管理や生活面に必要な諸手続き」が76.5%となっている。「要介護3以上」では「その他の家事（掃除、洗濯、買い物等）」が88.4%ともっとも割合が高く、次いで「金銭管理や生活面に必要な諸手続き」が82.8%、「食事の準備（調理等）」が82.3%となっている。

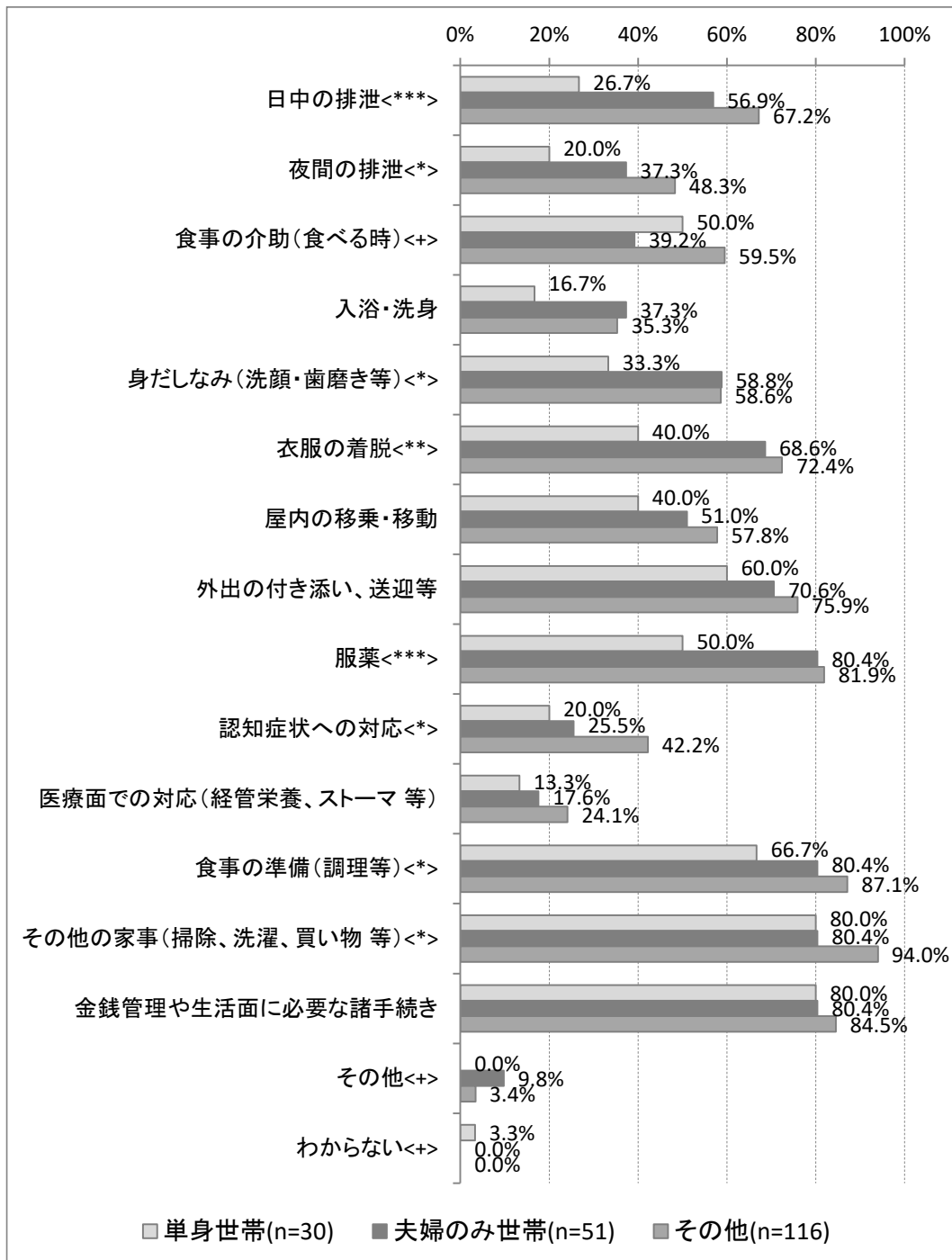
図表 5-2 要介護度別・★主な介護者が行っている介護



【世帯類型別・★主な介護者が行っている介護(要介護3以上)】

介護者が行っている介護を世帯類型別にみると、「単身世帯」では「その他の家事（掃除、洗濯、買い物等）」、「金銭管理や生活面に必要な諸手続き」が80.0%ともっとも割合が高く、次いで「食事の準備（調理等）」が66.7%、「外出の付き添い、送迎等」が60.0%となっている。「夫婦のみ世帯」では「服薬」、「食事の準備（調理等）」、「その他の家事（掃除、洗濯、買い物等）」、「金銭管理や生活面に必要な諸手続き」が80.4%ともっとも割合が高く、次いで「外出の付き添い、送迎等」が70.6%、「衣服の着脱」が68.6%となっている。「その他」では「その他の家事（掃除、洗濯、買い物等）」が94.0%ともっとも割合が高く、次いで「食事の準備（調理等）」が87.1%、「金銭管理や生活面に必要な諸手続き」が84.5%となっている。

図表 5-3 世帯類型別・★主な介護者が行っている介護（要介護3以上）



(2) 訪問診療の利用割合

【着目すべきポイント】

- 「訪問診療の利用の有無」について、世帯類型別・要介護度別の集計を行っています（図表 5-4～図表 5-6）。
- 特に、「要介護度別の訪問診療の利用割合」を「将来の要介護度別の在宅療養者数」に乗じることで、「将来の在宅における訪問診療の利用者数」の粗推計を行うことも可能です。

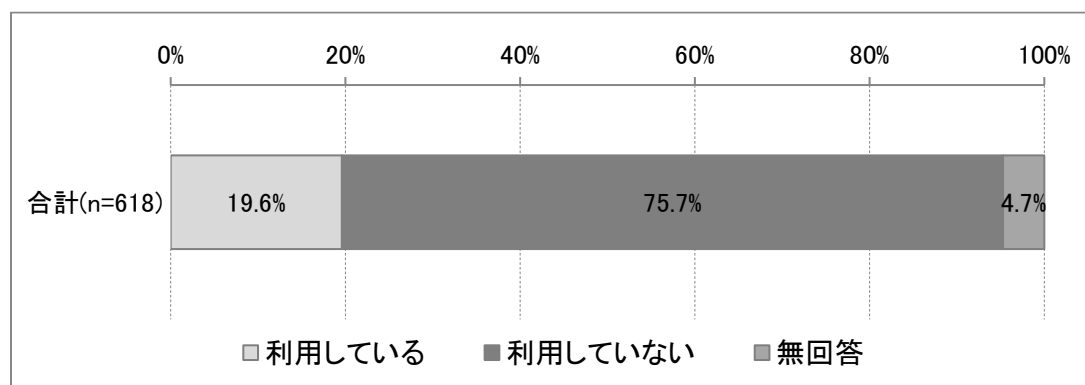
【留意事項】

- ここでの「訪問診療」には、訪問歯科診療や居宅療養管理指導等は含まれていません。
- また、上述の「将来の在宅における訪問診療の利用者数」を推計方法は、現在の訪問診療の利用割合を前提としたものであり、地域の状況の変化によっては誤差が大きくなることが想定されます。粗推計のための手法である点については、注意が必要です。
- 必要に応じて、地域医療構想の検討における「2025年の在宅医療等で対応が必要な医療需要」の需要量予測の結果等もご覧ください。

【★訪問診療の利用の有無】

「利用していない」が 75.7%、「利用している」が 19.6%となっている。

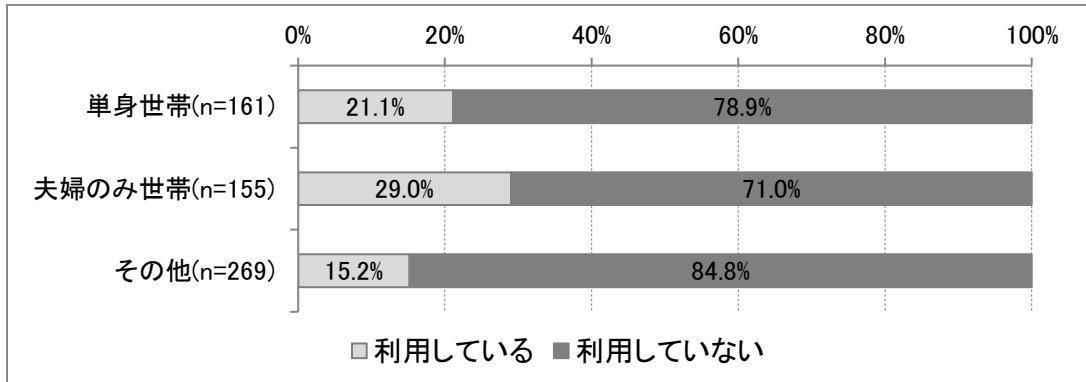
図表 5-4 ★訪問診療の利用の有無



【世帯類型別・★訪問診療の利用割合】

訪問診療の利用の有無を世帯類型別にみると、「単身世帯」では「利用していない」が78.9%、「利用している」が21.1%となっている。「夫婦のみ世帯」では「利用していない」が71.0%、「利用している」が29.0%となっている。「その他」では「利用していない」が84.8%、「利用している」が15.2%となっている。

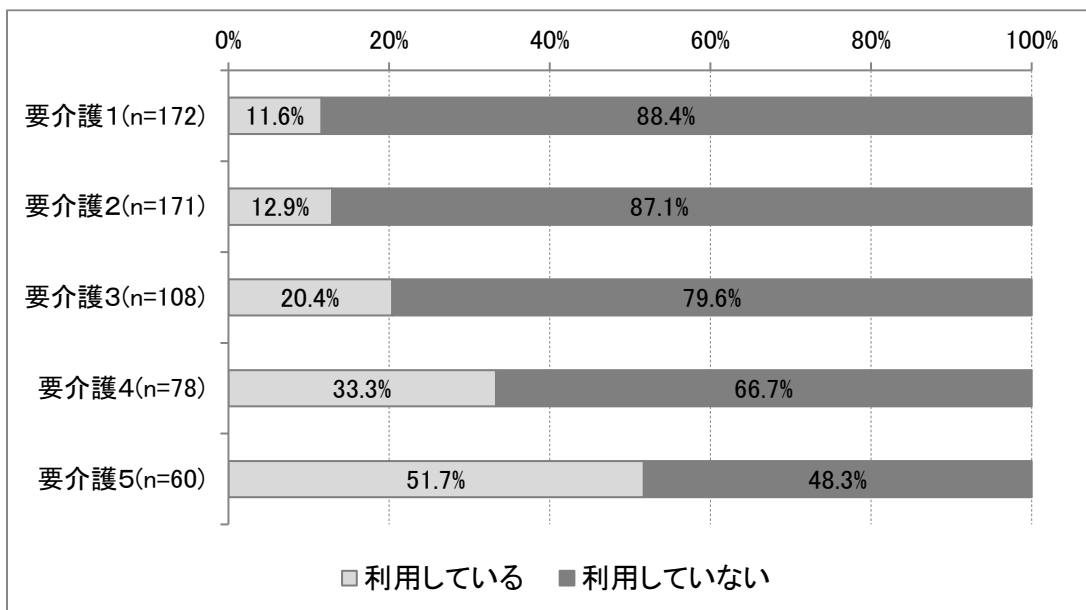
図表 5-5 世帯類型別・★訪問診療の利用割合<**>



【要介護度別・★訪問診療の利用割合】

訪問診療の利用の有無を二次判定結果別にみると、「要介護1」では「利用していない」が88.4%、「利用している」が11.6%となっている。「要介護2」では「利用していない」が87.1%、「利用している」が12.9%となっている。「要介護3」では「利用していない」が79.6%、「利用している」が20.4%となっている。「要介護4」では「利用していない」が66.7%、「利用している」が33.3%となっている。「要介護5」では「利用している」が51.7%、「利用していない」が48.3%となっている。

図表 5-6 要介護度別・★訪問診療の利用割合<***>



(3) 訪問診療の利用の有無別のサービス利用の組み合わせ

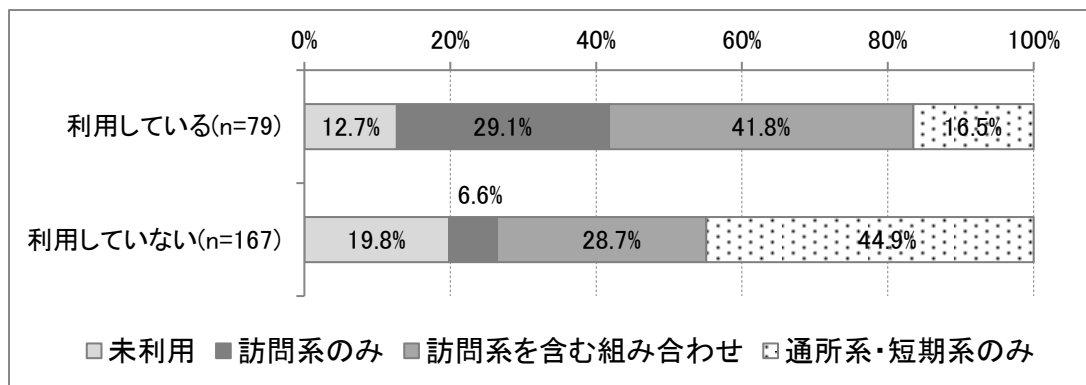
【着目すべきポイント】

- 訪問診療の利用の有無別に、要介護3以上の「サービス利用の組み合わせ」を集計しています（図表5-7）。
- 特に、今後在宅で療養生活を送る医療ニーズの高い中重度の要介護者の増加が見込まれる地域では、今後どのようなサービスに対する利用ニーズが高まるかを予測することにもつながります。

【★訪問診療の利用の有無別・サービス利用の組み合わせ（要介護3以上）】

サービス利用の組み合わせを訪問診療の利用の有無別にみると、「利用している」では「訪問系を含む組み合わせ」が41.8%と最も割合が高く、次いで「訪問系のみ」が29.1%、「通所系・短期系のみ」が16.5%となっている。「利用していない」では「通所系・短期系のみ」が44.9%と最も割合が高く、次いで「訪問系を含む組み合わせ」が28.7%、「未利用」が19.8%となっている。

図表5-7 ★訪問診療の利用の有無別・サービス利用の組み合わせ（要介護3以上）〈***〉



(4) 訪問診療の利用の有無別の訪問系・通所系・短期系サービスの利用の有無

【着目すべきポイント】

- 訪問診療の利用の有無別に、要介護3以上について、訪問系・通所系・短期系のそれぞれのサービス利用の有無を集計しています（図表 5-8～図表 5-10）。
- 地域によっては、例えば「医療ニーズの高い要介護者」の受け入れが可能なショートステイが十分に整っていない場合に、訪問診療の利用の有無で短期系の利用割合が大きく異なることも想定されます。

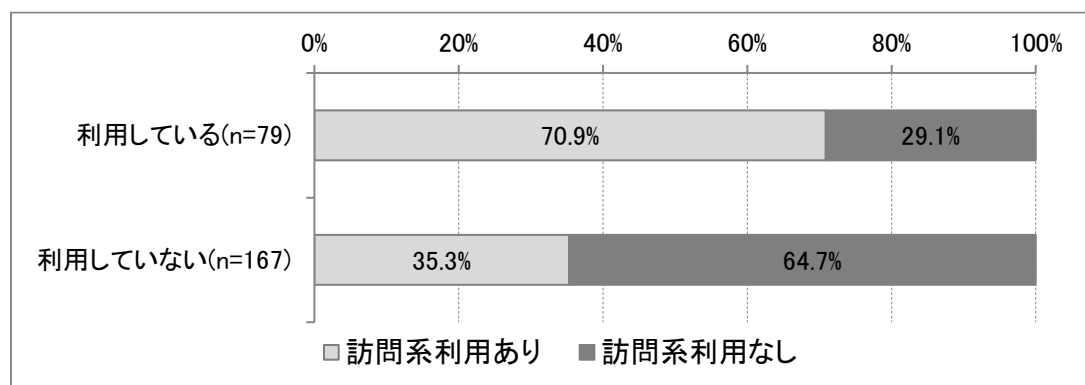
【留意事項】

- 上記の例のように、訪問診療の利用の有無で短期系の利用割合が大きく異なる場合についても、必ずしも「医療ニーズの高い要介護者」の受け入れが可能なショートステイが十分に整っていない」ことに原因があるとは限りません。
- 集計分析結果の解釈は、地域の実情等に照らし合わせながら、専門職を含む関係者間での議論・考察を経て行う必要があります。

【★訪問診療の利用の有無別・サービスの利用の有無（訪問系、要介護3以上）】

訪問系の利用の有無を訪問診療の利用の有無別にみると、「利用している」では「訪問系利用あり」が70.9%、「訪問系利用なし」が29.1%となっている。「利用していない」では「訪問系利用なし」が64.7%、「訪問系利用あり」が35.3%となっている。

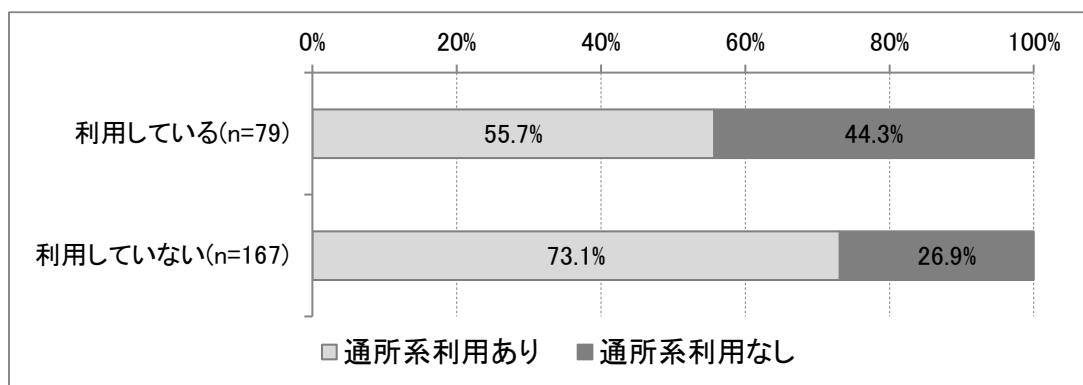
図表 5-8 ★訪問診療の利用の有無別・サービスの利用の有無（訪問系、要介護3以上）〈***〉



【★訪問診療の利用の有無別・サービスの利用の有無(通所系、要介護3以上)】

通所系の利用の有無（定期巡回を除く）を訪問診療の利用の有無別にみると、「利用している」では「通所系利用あり」が55.7%、「通所系利用なし」が44.3%となっている。「利用していない」では「通所系利用あり」が73.1%、「通所系利用なし」が26.9%となっている。

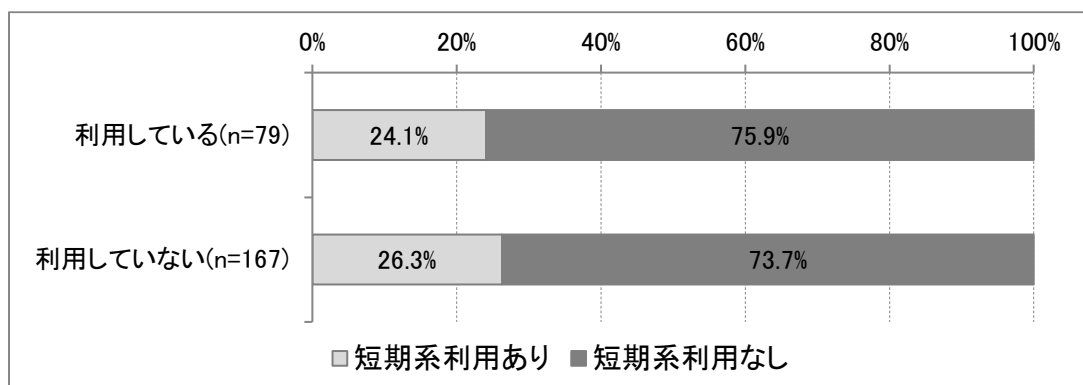
図表 5-9 ★訪問診療の利用の有無別・サービスの利用の有無（通所系、要介護3以上）<**>



【★訪問診療の利用の有無別・サービス利用の有無(短期系、要介護3以上)】

短期系の利用の有無（定期巡回を除く）を訪問診療の利用の有無別にみると、「利用している」では「短期系利用なし」が75.9%、「短期系利用あり」が24.1%となっている。「利用していない」では「短期系利用なし」が73.7%、「短期系利用あり」が26.3%となっている。

図表 5-10 ★訪問診療の利用の有無別・サービス利用の有無（短期系、要介護3以上）



6. サービス未利用の理由など

6.1 集計・分析の狙い

- ここでは、各地域において支援・サービスの提供体制の構築を含む各種の取組を検討する際に、参考になると考えられるいくつかの集計結果を整理しています。
- 主要なデータは、テーマ1～テーマ5において整理をしていますが、ここで整理する集計結果も必要に応じてご活用ください。

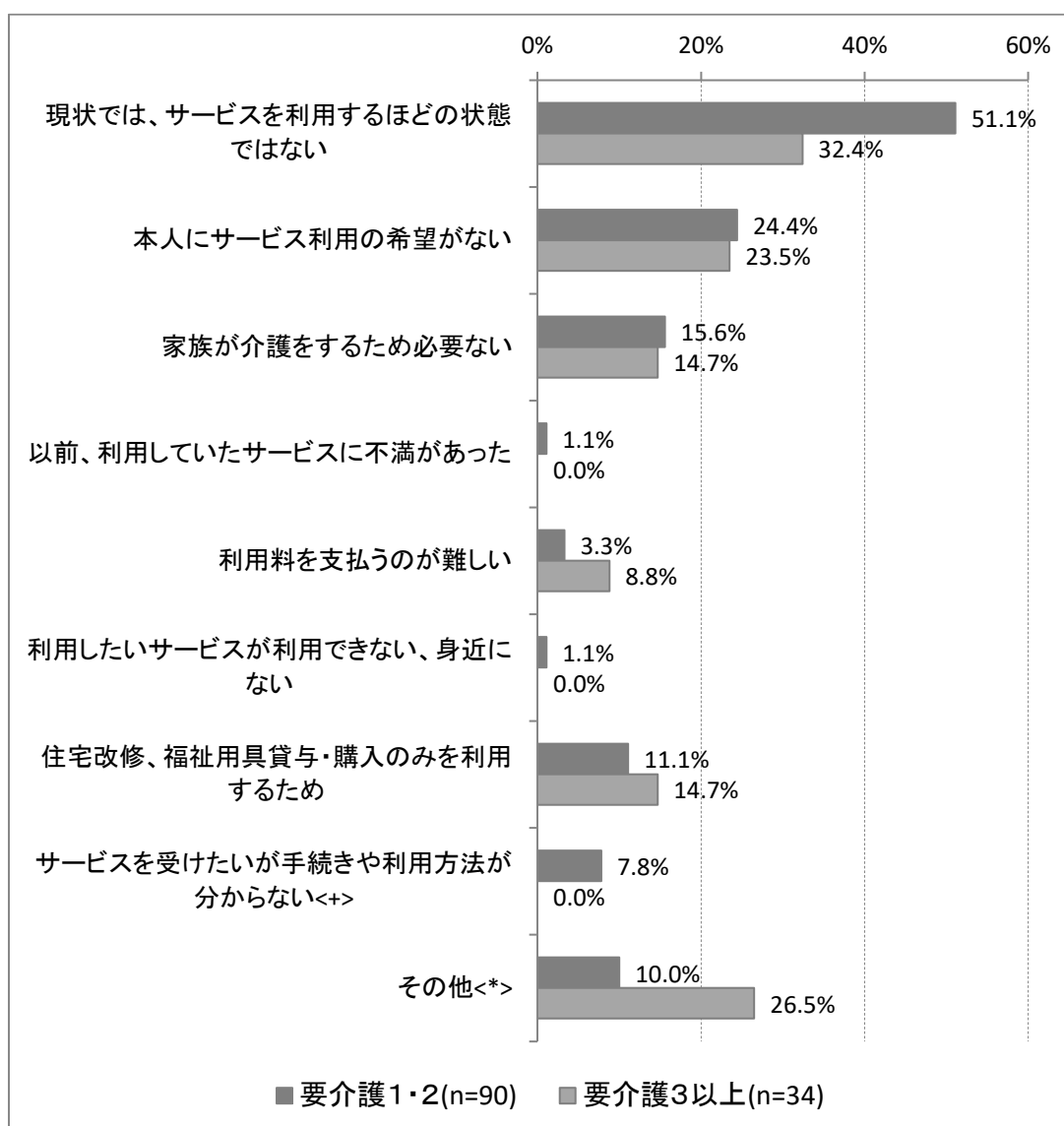
6.2 集計結果（参考）

(1) 要介護度別・世帯類型別のサービス未利用の理由

【要介護度別の★サービス未利用の理由】

未利用の理由を二次判定結果別にみると、「要介護1・2」では「現状では、サービスを利用するほどの状態ではない」が51.1%と最も割合が高く、次いで「本人にサービス利用の希望がない」が24.4%、「家族が介護をするため必要ない」が15.6%となっている。「要介護3以上」では「現状では、サービスを利用するほどの状態ではない」が32.4%と最も割合が高く、次いで「その他」が26.5%、「本人にサービス利用の希望がない」が23.5%となっている。

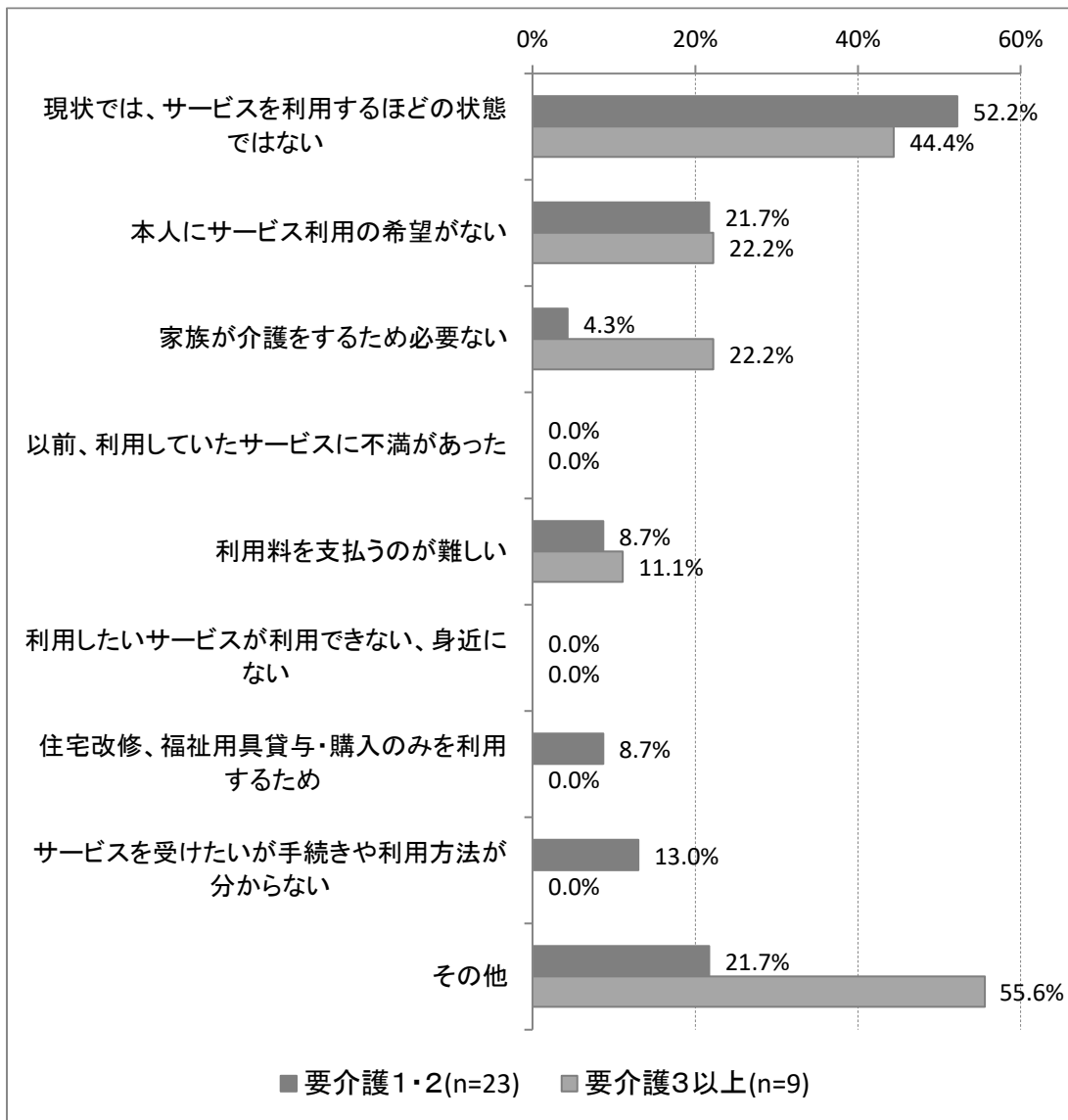
図表 6-1 要介護度別の★サービス未利用の理由



【要介護度別の★サービス未利用の理由(単身世帯)】

未利用の理由を二次判定結果別にみると、「要介護1・2」では「現状では、サービスを利用するほどの状態ではない」が52.2%と最も割合が高く、次いで「本人にサービス利用の希望がない」、「その他」が21.7%、「サービスを受けたいが手続きや利用方法が分からない」が13.0%となっている。「要介護3以上」では「その他」が55.6%と最も割合が高く、次いで「現状では、サービスを利用するほどの状態ではない」が44.4%、「本人にサービス利用の希望がない」、「家族が介護をするため必要ない」が22.2%となっている。

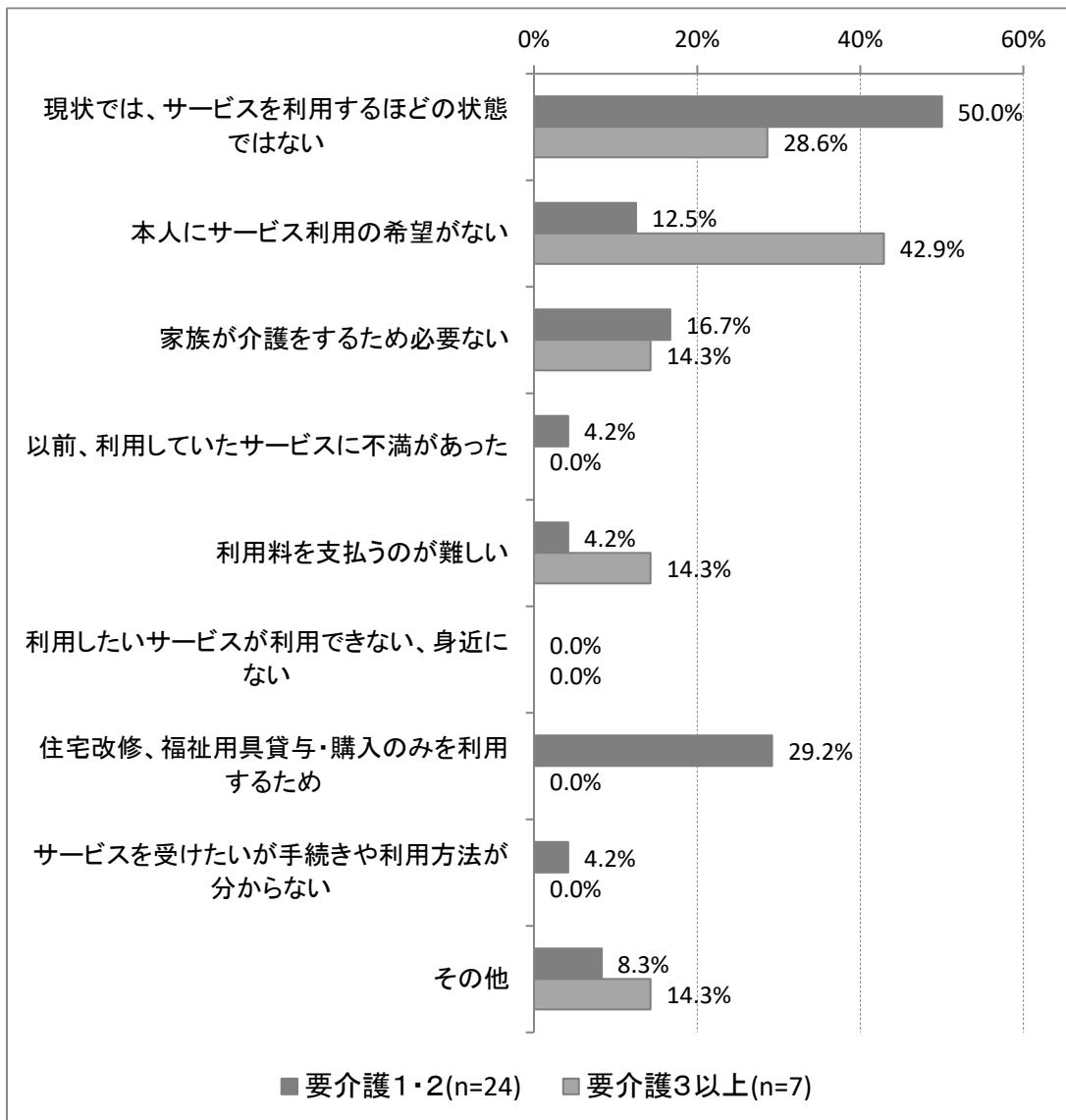
図表 6-2 要介護度別の★サービス未利用の理由 (単身世帯)



【要介護度別の★サービス未利用の理由(夫婦のみ世帯)】

未利用の理由を二次判定結果別にみると、「要介護1・2」では「現状では、サービスを利用するほどの状態ではない」が50.0%と最も割合が高く、次いで「住宅改修、福祉用具貸与・購入のみを利用するため」が29.2%、「家族が介護をするため必要ない」が16.7%となっている。「要介護3以上」では「本人にサービス利用の希望がない」が42.9%と最も割合が高く、次いで「現状では、サービスを利用するほどの状態ではない」が28.6%、「家族が介護をするため必要ない」、「利用料を支払うのが難しい」、「その他」が14.3%となっている。

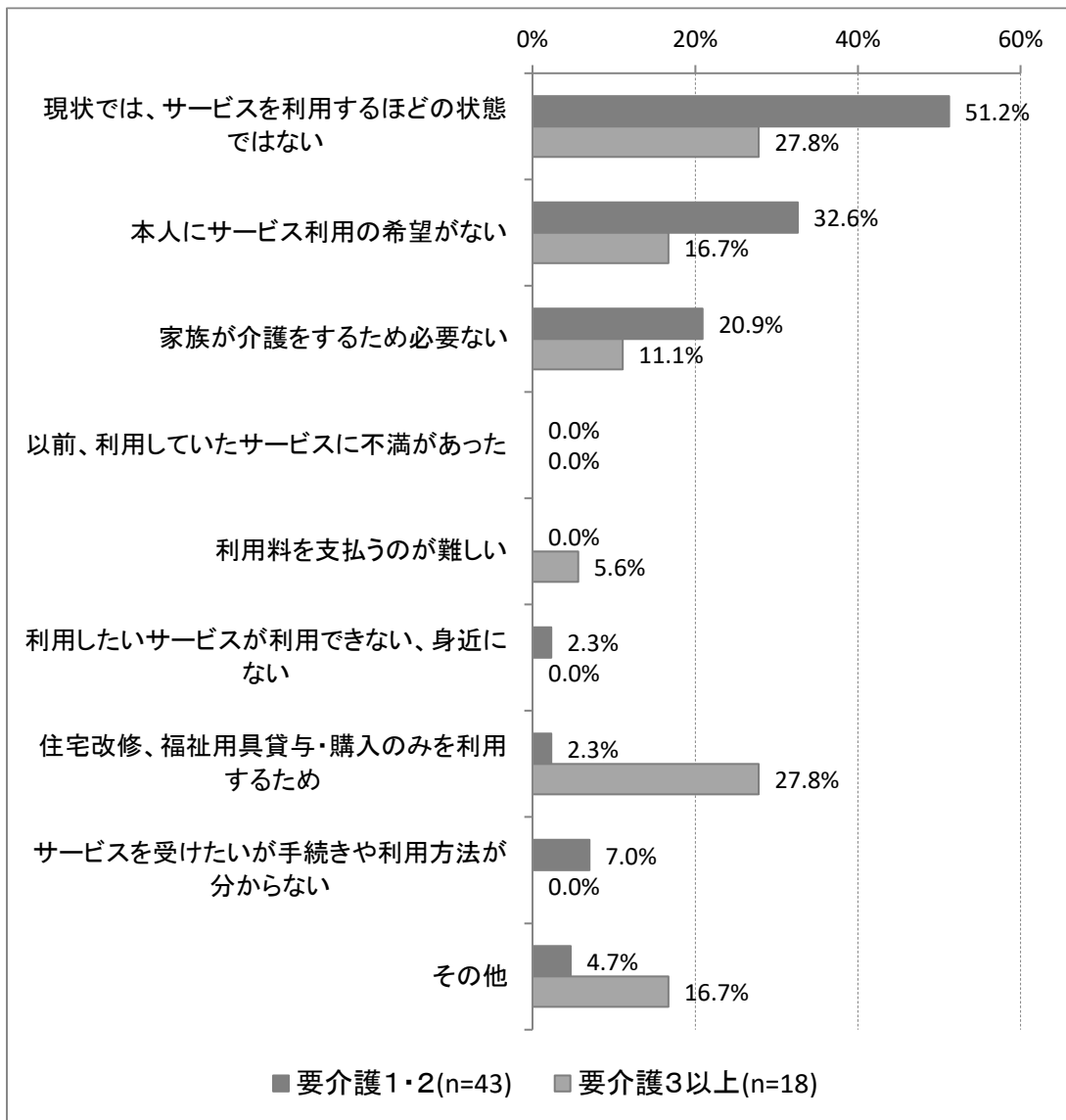
図表 6-3 要介護度別の★サービス未利用の理由 (夫婦のみ世帯)



【要介護度別の★サービス未利用の理由(その他世帯)】

未利用の理由を二次判定結果別にみると、「要介護1・2」では「現状では、サービスを利用するほどの状態ではない」が51.2%と最も割合が高く、次いで「本人にサービス利用の希望がない」が32.6%、「家族が介護をするため必要ない」が20.9%となっている。「要介護3以上」では「現状では、サービスを利用するほどの状態ではない」、「住宅改修、福祉用具貸与・購入のみを利用するため」が27.8%と最も割合が高く、次いで「本人にサービス利用の希望がない」、「その他」が16.7%、「家族が介護をするため必要ない」が11.1%となっている。

図表 6-4 要介護度別の★サービス未利用の理由 (その他世帯)

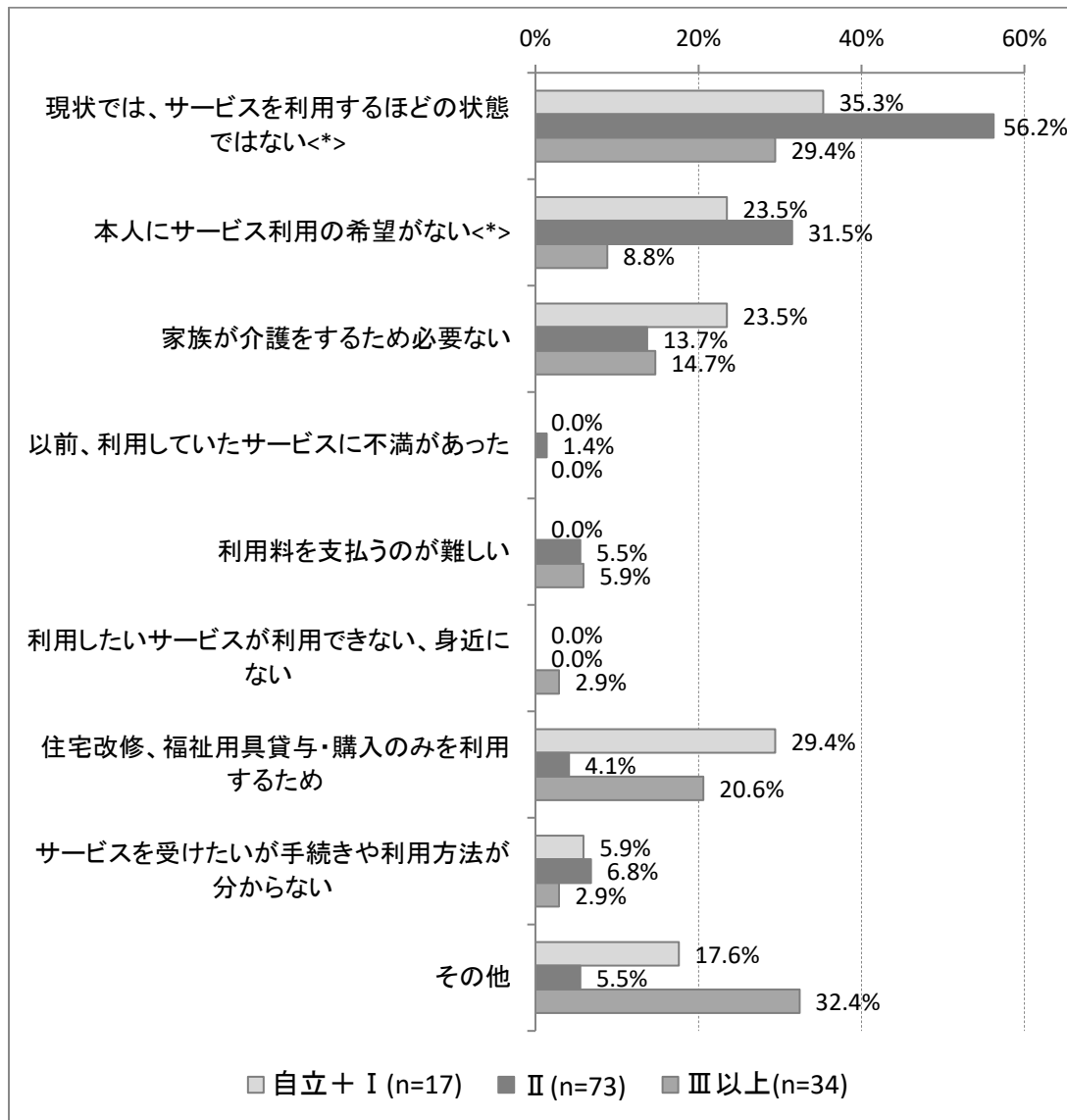


(2) 認知症自立度別・世帯類型別のサービス未利用の理由

【認知症自立度別の★サービス未利用の理由】

未利用の理由を認知症高齢者自立度別にみると、「自立+Ⅰ」では「現状では、サービスを利用するほどの状態ではない」が35.3%ともっとも割合が高く、次いで「住宅改修、福祉用具貸与・購入のみを利用するため」が29.4%、「本人にサービス利用の希望がない」、「家族が介護をするため必要ない」が23.5%となっている。「Ⅱ」では「現状では、サービスを利用するほどの状態ではない」が56.2%ともっとも割合が高く、次いで「本人にサービス利用の希望がない」が31.5%、「家族が介護をするため必要ない」が13.7%となっている。「Ⅲ以上」では「その他」が32.4%ともっとも割合が高く、次いで「現状では、サービスを利用するほどの状態ではない」が29.4%、「住宅改修、福祉用具貸与・購入のみを利用するため」が20.6%となっている。

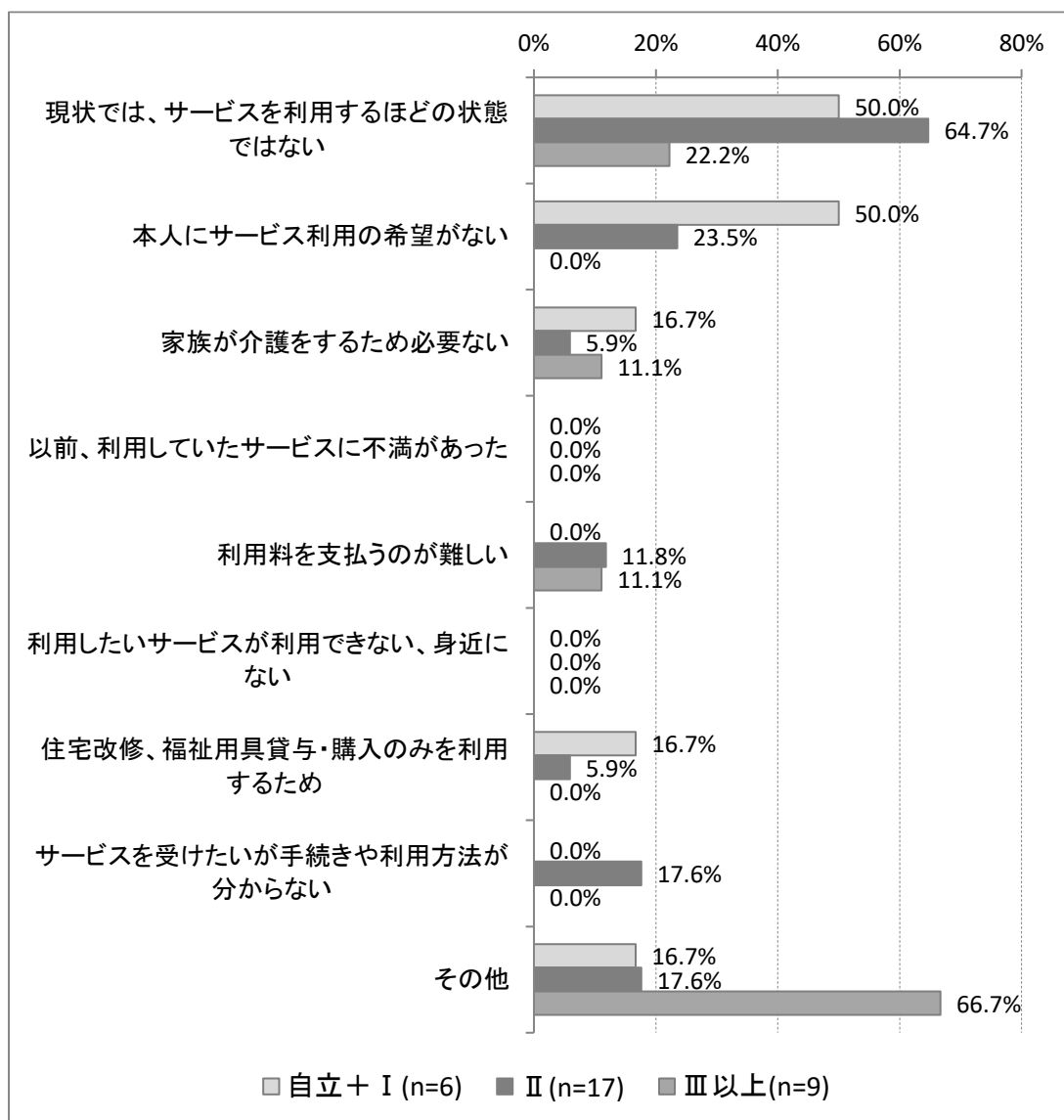
図表 6-5 認知症自立度別の★サービス未利用の理由



【認知症自立度別の★サービス未利用の理由(単身世帯)】

未利用の理由を認知症高齢者自立度別にみると、「自立+Ⅰ」では「現状では、サービスを利用するほどの状態ではない」、「本人にサービス利用の希望がない」が50.0%ともっとも割合が高く、次いで「家族が介護をするため必要ない」、「住宅改修、福祉用具貸与・購入のみを利用するため」、「その他」が16.7%となっている。「Ⅱ」では「現状では、サービスを利用するほどの状態ではない」が64.7%ともっとも割合が高く、次いで「本人にサービス利用の希望がない」が23.5%、「サービスを受けたいが手続きや利用方法が分からない」、「その他」が17.6%となっている。「Ⅲ以上」では「その他」が66.7%ともっとも割合が高く、次いで「現状では、サービスを利用するほどの状態ではない」が22.2%、「家族が介護をするため必要ない」、「利用料を支払うのが難しい」が11.1%となっている。

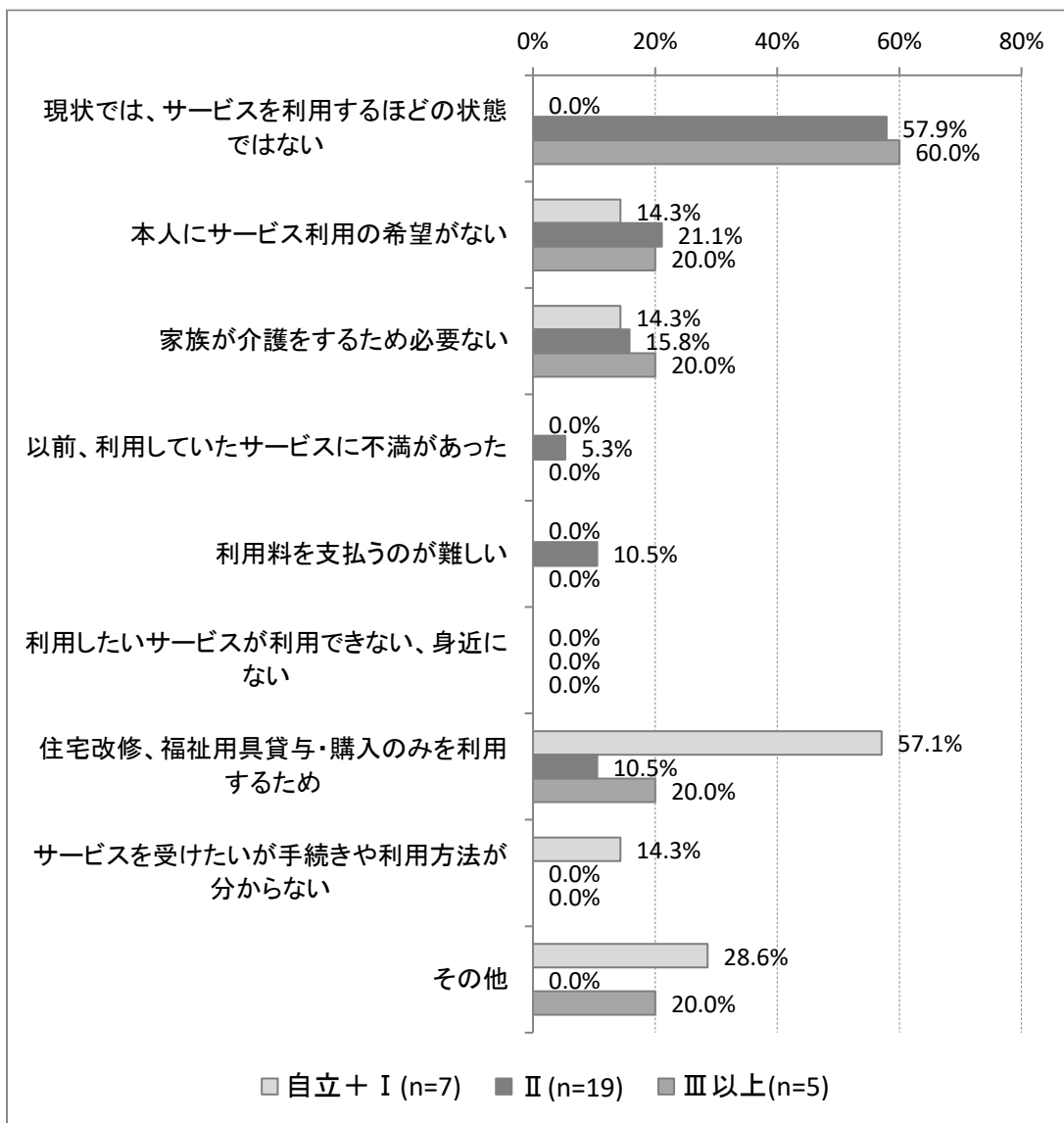
図表 6-6 認知症自立度別の★サービス未利用の理由 (単身世帯)



【認知症自立度別の★サービス未利用の理由(夫婦のみ世帯)】

未利用の理由を認知症高齢者自立度別にみると、「自立+Ⅰ」では「住宅改修、福祉用具貸与・購入のみを利用するため」が57.1%ともっとも割合が高く、次いで「その他」が28.6%、「本人にサービス利用の希望がない」、「家族が介護をするため必要ない」、「サービスを受けたいが手続きや利用方法が分からない」が14.3%となっている。「Ⅱ」では「現状では、サービスを利用するほどの状態ではない」が57.9%ともっとも割合が高く、次いで「本人にサービス利用の希望がない」が21.1%、「家族が介護をするため必要ない」が15.8%となっている。「Ⅲ以上」では「現状では、サービスを利用するほどの状態ではない」が60.0%ともっとも割合が高く、次いで「本人にサービス利用の希望がない」、「家族が介護をするため必要ない」、「住宅改修、福祉用具貸与・購入のみを利用するため」、「その他」が20.0%となっている。

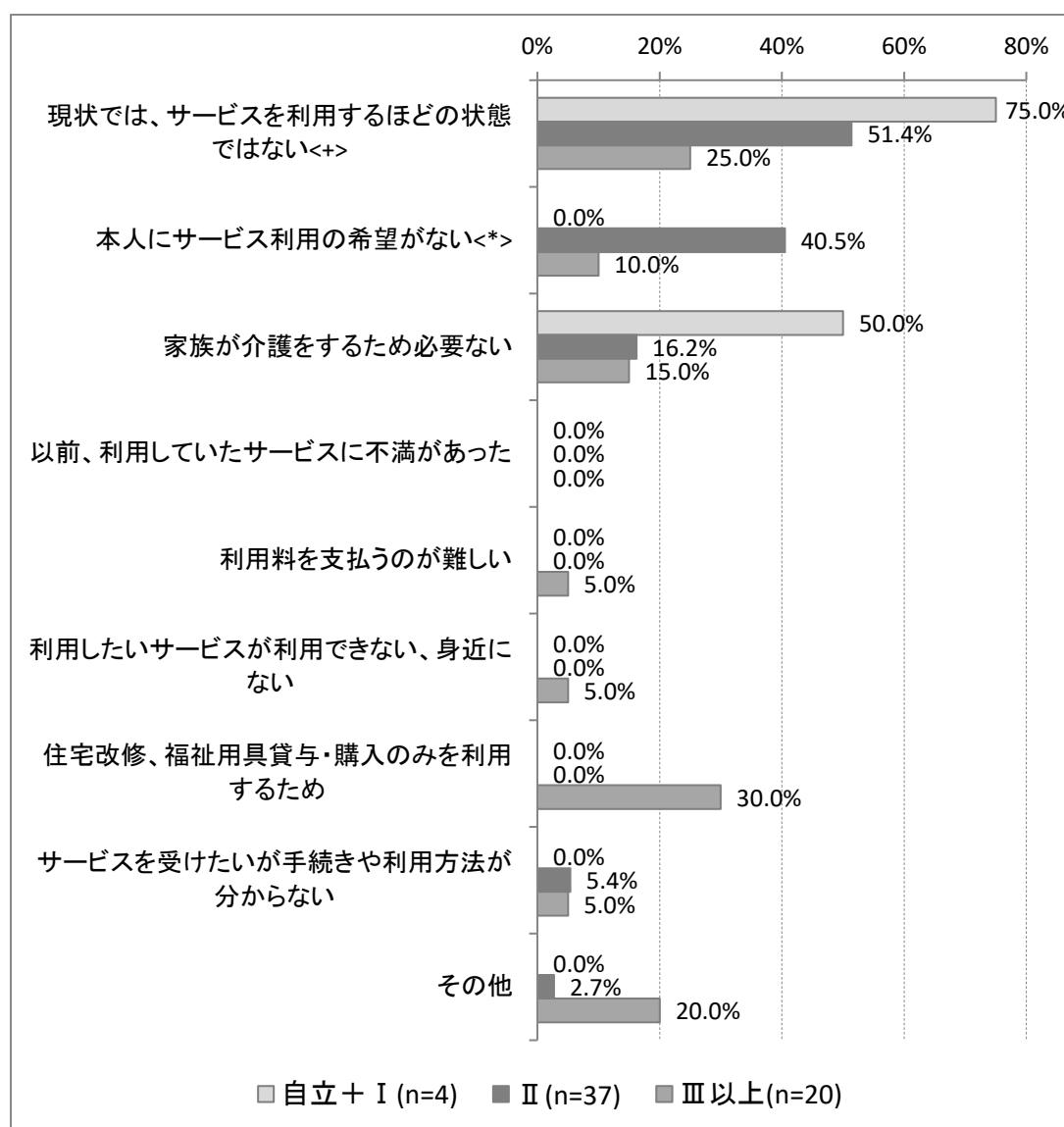
図表 6-7 認知症自立度別の★サービス未利用の理由 (夫婦のみ世帯)



【認知症自立度別の★サービス未利用の理由(その他世帯)】

未利用の理由を認知症高齢者自立度別にみると、「自立+Ⅰ」では「現状では、サービスを利用するほどの状態ではない」が75.0%ともっとも割合が高く、次いで「家族が介護をするため必要ない」が50.0%となっている。「Ⅱ」では「現状では、サービスを利用するほどの状態ではない」が51.4%ともっとも割合が高く、次いで「本人にサービス利用の希望がない」が40.5%、「家族が介護をするため必要ない」が16.2%となっている。「Ⅲ以上」では「住宅改修、福祉用具貸与・購入のみを利用するため」が30.0%ともっとも割合が高く、次いで「現状では、サービスを利用するほどの状態ではない」が25.0%、「その他」が20.0%となっている。

図表 6-8 認知症自立度別の★サービス未利用の理由（その他世帯）

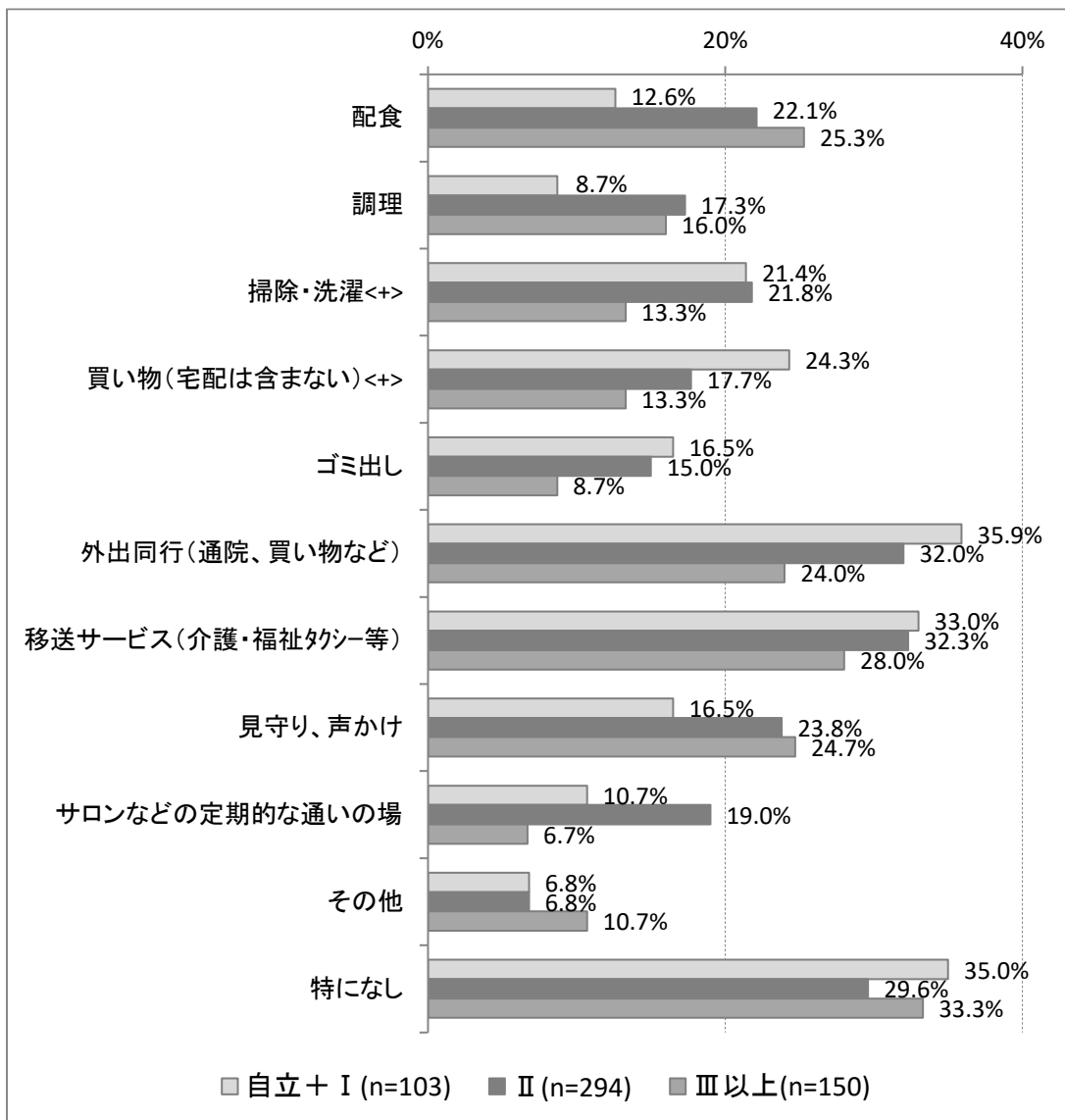


(3) 認知症自立度別の今後の在宅生活に必要なと感じる支援・サービス

【認知症自立度別の★在宅生活の継続に必要なと感じる支援・サービス】

保険外の支援・サービスの必要性を認知症高齢者自立度別にみると、「自立+Ⅰ」では「外出同行（通院、買い物など）」が35.9%ともっとも割合が高く、次いで「特になし」が35.0%、「移送サービス（介護・福祉タクシー等）」が33.0%となっている。「Ⅱ」では「移送サービス（介護・福祉タクシー等）」が32.3%ともっとも割合が高く、次いで「外出同行（通院、買い物など）」が32.0%、「特になし」が29.6%となっている。「Ⅲ以上」では「特になし」が33.3%ともっとも割合が高く、次いで「移送サービス（介護・福祉タクシー等）」が28.0%、「配食」が25.3%となっている。

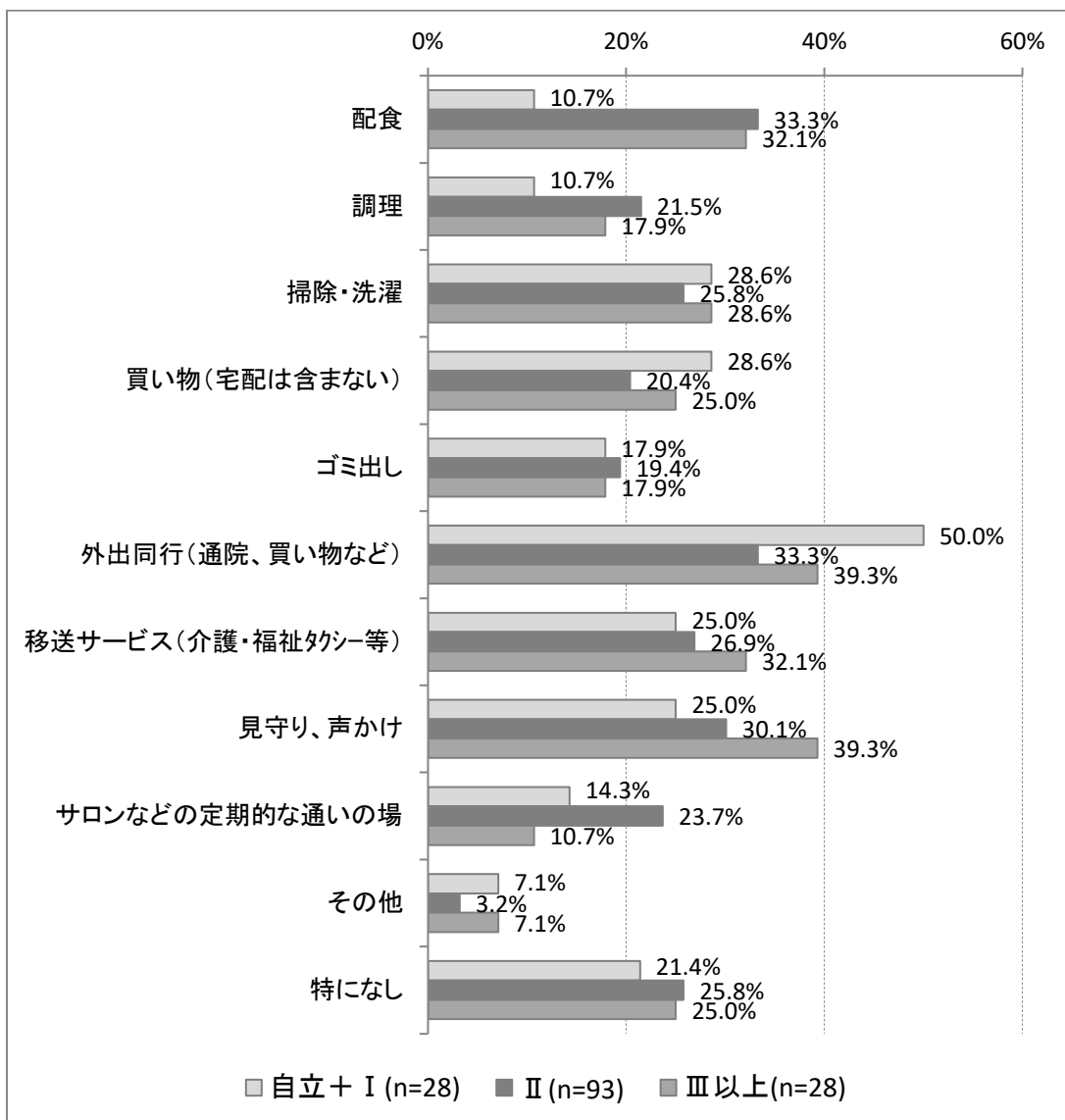
図表 6-9 認知症自立度別の★在宅生活の継続に必要なと感じる支援・サービス



【認知症自立度別の★在宅生活の継続に必要と感じる支援・サービス(単身世帯)】

保険外の支援・サービスの必要性を認知症高齢者自立度別にみると、「自立+ I」では「外出同行（通院、買い物など）」が50.0%と最も割合が高く、次いで「掃除・洗濯」、「買い物（宅配は含まない）」が28.6%、「移送サービス（介護・福祉タクシー等）」、「見守り、声かけ」が25.0%となっている。「II」では「配食」、「外出同行（通院、買い物など）」が33.3%と最も割合が高く、次いで「見守り、声かけ」が30.1%、「移送サービス（介護・福祉タクシー等）」が26.9%となっている。「III以上」では「外出同行（通院、買い物など）」、「見守り、声かけ」が39.3%と最も割合が高く、次いで「配食」、「移送サービス（介護・福祉タクシー等）」が32.1%、「掃除・洗濯」が28.6%となっている。

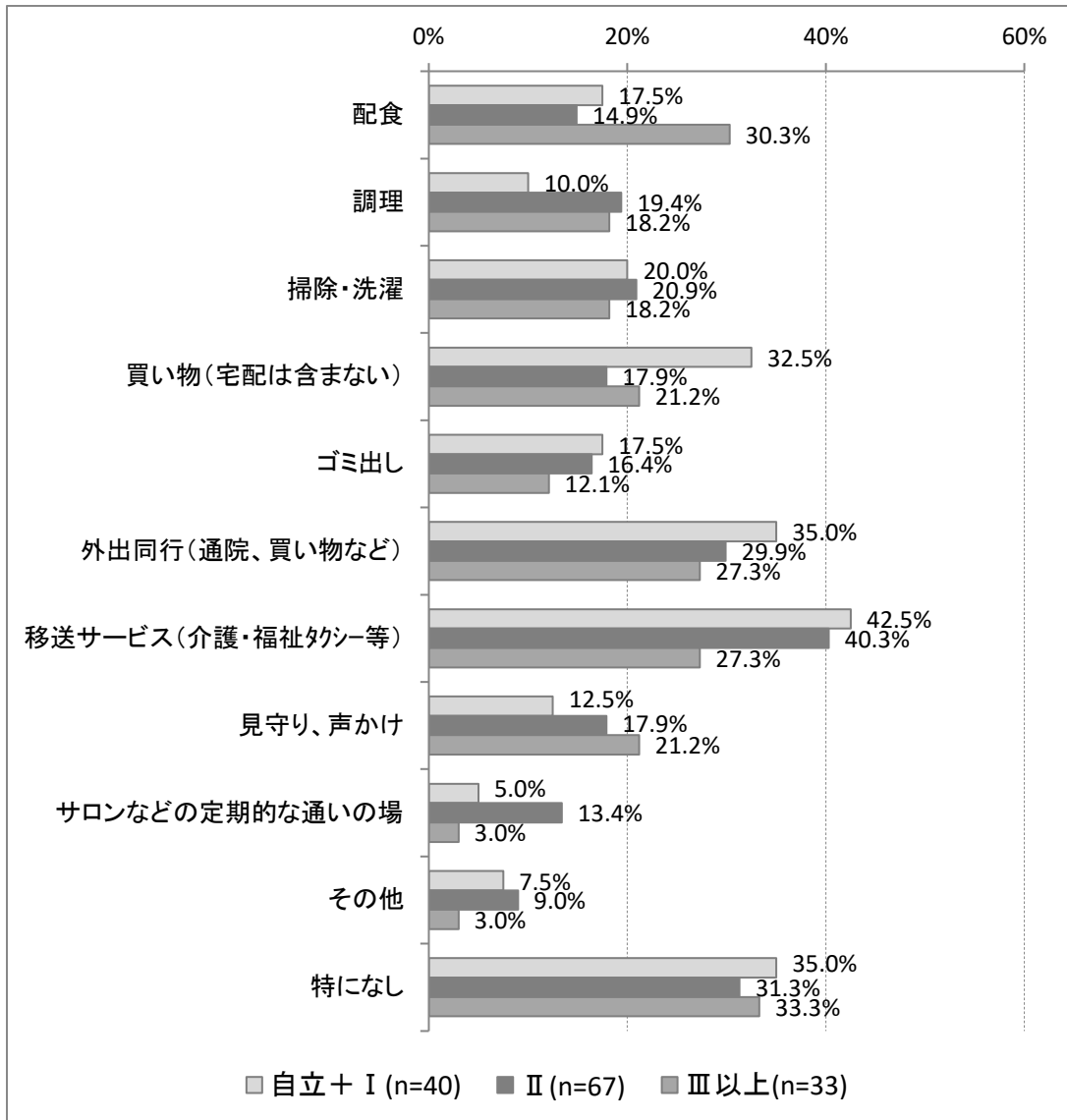
図表 6-10 認知症自立度別の★在宅生活の継続に必要と感じる支援・サービス（単身世帯）



【認知症自立度別の★在宅生活の継続に必要と感じる支援・サービス(夫婦のみ世帯)】

保険外の支援・サービスの必要性を認知症高齢者自立度別にみると、「自立+ I」では「移送サービス(介護・福祉タクシー等)」が42.5%ともっとも割合が高く、次いで「外出同行(通院、買い物など)」、「特になし」が35.0%、「買い物(宅配は含まない)」が32.5%となっている。「II」では「移送サービス(介護・福祉タクシー等)」が40.3%ともっとも割合が高く、次いで「特になし」が31.3%、「外出同行(通院、買い物など)」が29.9%となっている。「III以上」では「特になし」が33.3%ともっとも割合が高く、次いで「配食」が30.3%、「外出同行(通院、買い物など)」、「移送サービス(介護・福祉タクシー等)」が27.3%となっている。

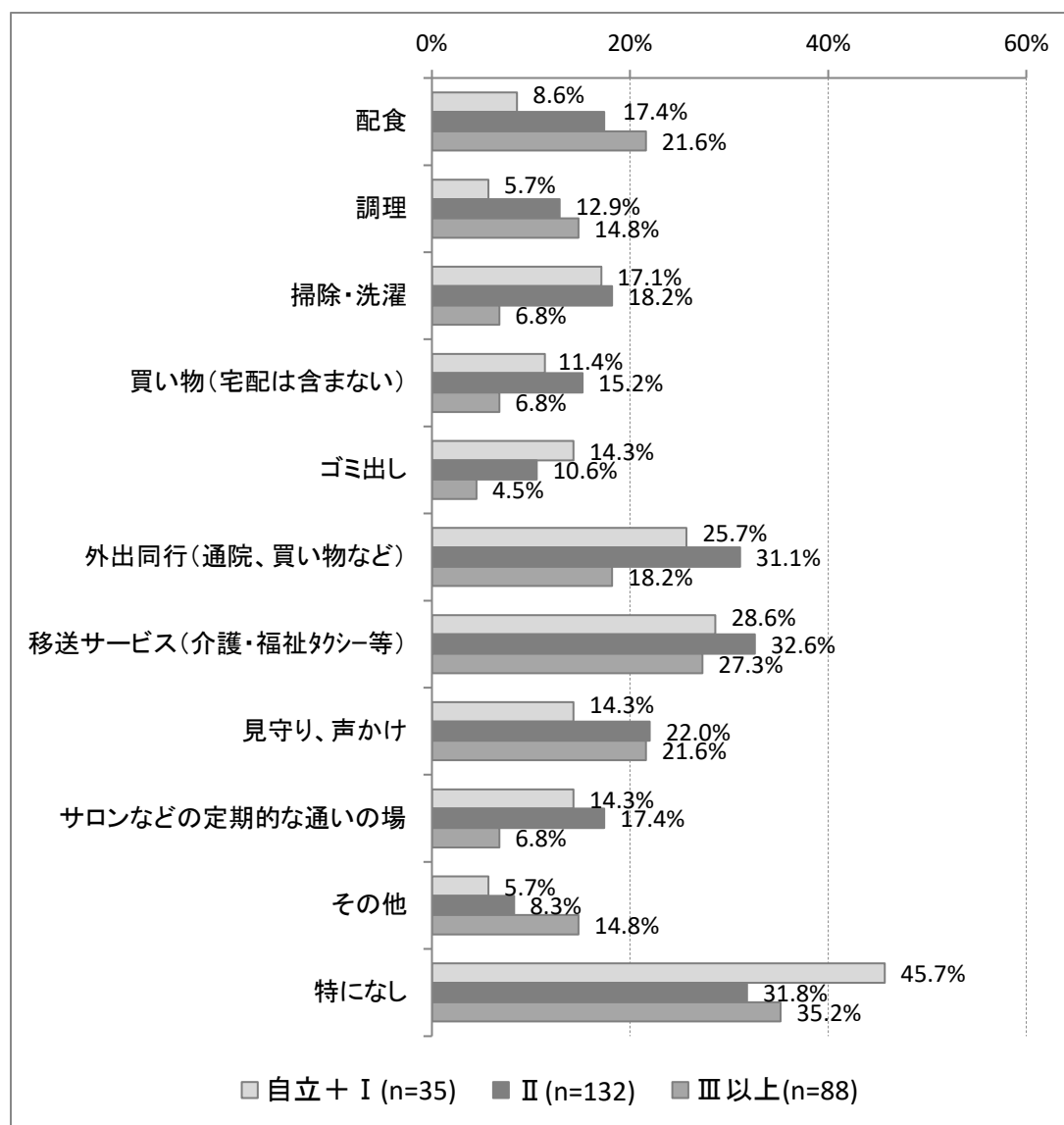
図表 6-11 認知症自立度別の★在宅生活の継続に必要と感じる支援・サービス(夫婦のみ世帯)



【認知症自立度別の★在宅生活の継続に必要なと感じる支援・サービス(その他世帯)】

保険外の支援・サービスの必要性を認知症高齢者自立度別にみると、「自立+Ⅰ」では「特になし」が45.7%ともっとも割合が高く、次いで「移送サービス(介護・福祉タクシー等)」が28.6%、「外出同行(通院、買い物など)」が25.7%となっている。「Ⅱ」では「移送サービス(介護・福祉タクシー等)」が32.6%ともっとも割合が高く、次いで「特になし」が31.8%、「外出同行(通院、買い物など)」が31.1%となっている。「Ⅲ以上」では「特になし」が35.2%ともっとも割合が高く、次いで「移送サービス(介護・福祉タクシー等)」が27.3%、「配食」、「見守り、声かけ」が21.6%となっている。

図表 6-12 認知症自立度別の★在宅生活の継続に必要なと感じる支援・サービス(その他世帯)

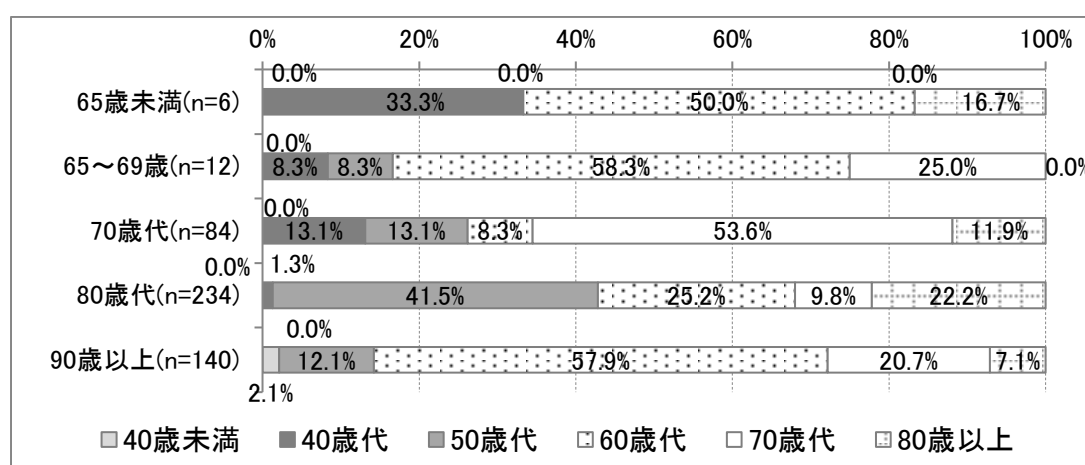


(4) 本人の年齢別・主な介護者の年齢

【本人の年齢別・主な介護者の年齢】

介護者の年齢を本人年齢別にみると、「65歳未満」では「60歳代」が50.0%ともっとも割合が高く、次いで「40歳代」が33.3%、「80歳以上」が16.7%となっている。「65～69歳」では「60歳代」が58.3%ともっとも割合が高く、次いで「70歳代」が25.0%、「40歳代」、「50歳代」が8.3%となっている。「70歳代」では「70歳代」が53.6%ともっとも割合が高く、次いで「40歳代」、「50歳代」が13.1%、「80歳以上」が11.9%となっている。「80歳代」では「50歳代」が41.5%ともっとも割合が高く、次いで「60歳代」が25.2%、「80歳以上」が22.2%となっている。「90歳以上」では「60歳代」が57.9%ともっとも割合が高く、次いで「70歳代」が20.7%、「50歳代」が12.1%となっている。

図表 6-13 本人の年齢別・主な介護者の年齢<***>

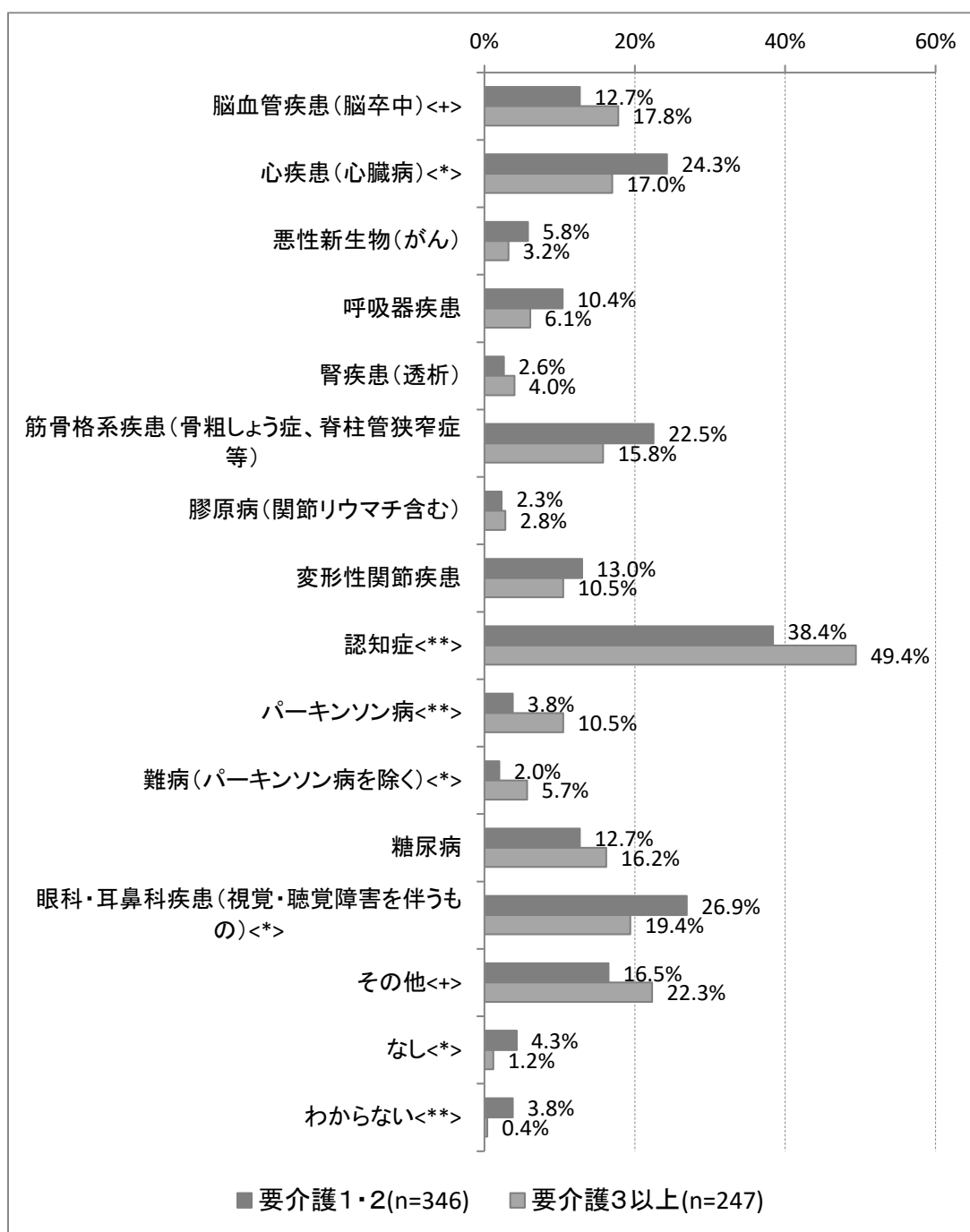


(5) 要介護度別の抱えている傷病

【要介護度別・★抱えている傷病】

抱えている傷病を二次判定結果別にみると、「要介護1・2」では「認知症」が38.4%ともっとも割合が高く、次いで「眼科・耳鼻科疾患（視覚・聴覚障害を伴うもの）」が26.9%、「心疾患（心臓病）」が24.3%となっている。「要介護3以上」では「認知症」が49.4%ともっとも割合が高く、次いで「その他」が22.3%、「眼科・耳鼻科疾患（視覚・聴覚障害を伴うもの）」が19.4%となっている。

図表 6-14 要介護度別・★抱えている傷病

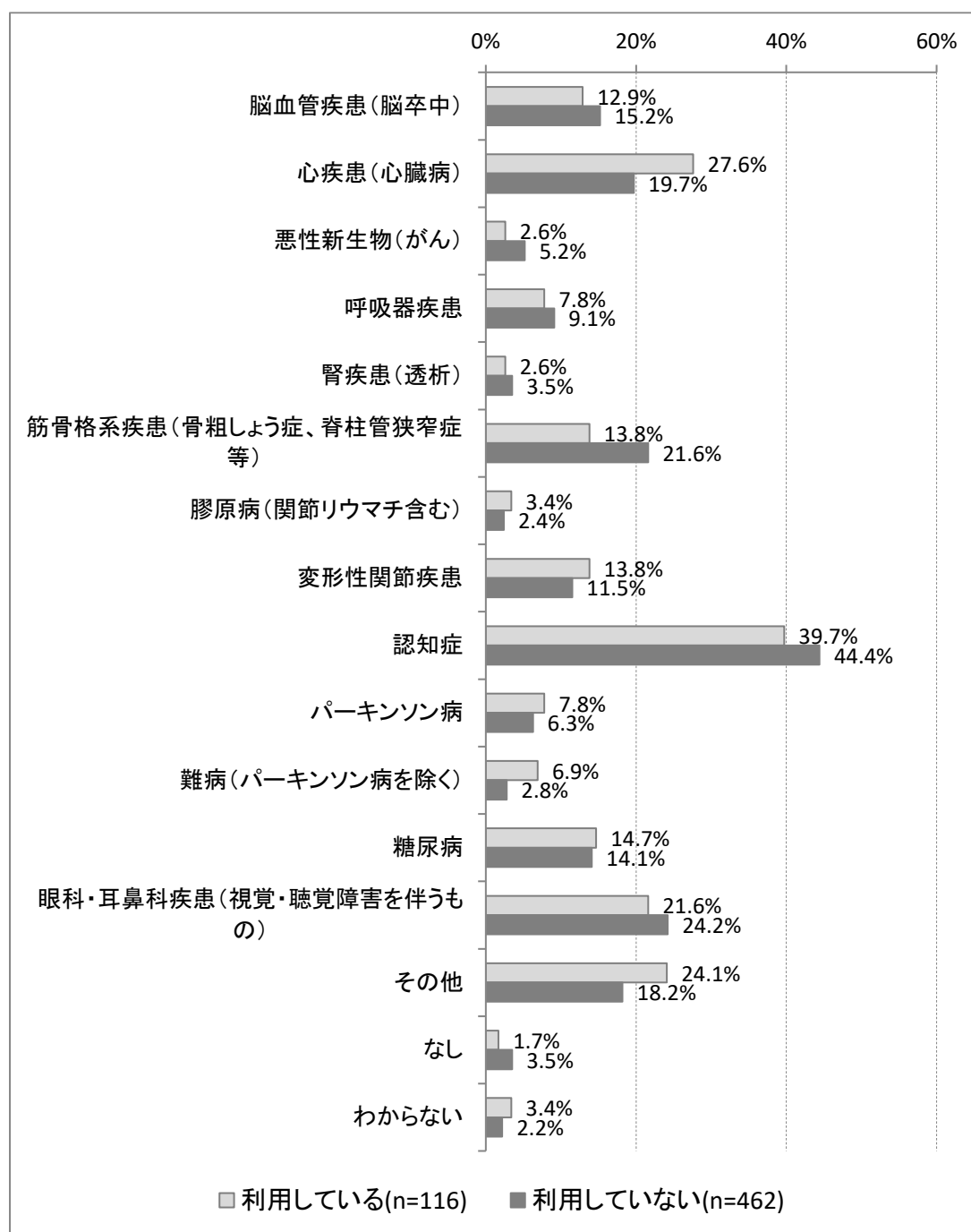


(6) 訪問診療の利用の有無別の抱えている傷病

【★訪問診療の利用の有無別・★抱えている傷病】

抱えている傷病を訪問診療の利用の有無別にみると、「利用している」では「認知症」が39.7%と最も割合が高く、次いで「心疾患（心臓病）」が27.6%、「その他」が24.1%となっている。「利用していない」では「認知症」が44.4%と最も割合が高く、次いで「眼科・耳鼻科疾患（視覚・聴覚障害を伴うもの）」が24.2%、「筋骨格系疾患（骨粗しょう症、脊柱管狭窄症等）」が21.6%となっている。

図表 6-15 ★訪問診療の利用の有無別・★抱えている傷病



7. 独自設問

【調査対象者を含めて何人を介護しているか】

「1人（調査の対象者のみ）」の割合が最も高く75.1%となっている。次いで、「2人（13.6%）」、「3人（2.7%）」となっている。

図表 7-1 介護している人の人数

